官報

第七千七百二十七號　　明治四十二年四月一日　木曜日　　印刷局

○法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂糖消費稅法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月三十一日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

法律第二十號

砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第三條中第一種ヲ左ノ如ク改ム

第一種　砂糖色相和蘭標本第八號未滿ノ砂糖及糖蜜

甲　糖入黑糖　百斤ニ付金二圓

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付金三圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル家祿賞典祿處分ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月三十一日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

法律第二十一號

第一條　明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法ニ據リ給與ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依リ出訴セムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

附則

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令

朕沖繩縣罹災救助基金法施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十二年三月三十一日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

內務大臣　法學博士男爵平田東助

勅令第七十八號

沖繩縣罹災救助基金法ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本文

○省令

大藏省令第十九號

帝國鐵道會計現金受拂規則左ノ通相定ム

明治四十二年四月一日

大藏大臣　侯爵桂太郎

帝國鐵道會計現金受拂規則

第一條　帝國鐵道會計ニ於ケル各勘定ノ歳入金、歳出金竝歳入歳出外現金及帝國鐵道會計規則第九條ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲ス場合ニ於テハ本規則ニ依ルヘシ

第二條　仕拂命令官出納官吏ヲシテ繰替拂ヲ爲サシメントスルトキハ繰替拂傳票ヲ以テ之ヲ當該出納官吏ニ命スヘシ

仕拂命令官ハ特ニ所管大臣ノ指定シタル他ノ官吏ヲシテ繰替拂傳票ヲ發セシムルコトヲ得

前項ニ依リ他ノ官吏ヲシテ繰替拂傳票ヲ發セシメントスルトキハ仕拂命令官ハ定額殘算ヲ以テ之ヲ當該官吏ニ命スヘシ

第三條　出納官吏毎日現金ノ受拂上殘金ヲ生シタルトキハ分任出納官吏ハ之ヲ金庫ニ預託スヘシ

ヲ所屬主任出納官吏ニ回納シ主任出納官吏ハ之ヲ金庫ニ預託スヘシ

出納員ノ取扱ニ係ル現金ハ毎日之ヲ所屬出納官吏ニ引繼クヘシ

第四條　出納官吏歳出金ノ繰替拂ヲ爲ス場合ニ於テ官吏遞信扶助法納金收入規則ニ依ル國庫納金又ハ明治三十四年勅令第百三十一號ニ依ル相殺金ノ差引ヲ要スルトキハ同規則又ハ勅令中現金前渡官吏ニ對スル規定ノ手續ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第五條　鐵道院總裁帝國鐵道會計規則第九條ニ依リ出納官吏ニ繰替拂資金ヲ交付セントスルトキハ大藏大臣ヨリ承認ノ通知ヲ受ケタル後第一號樣式ノ繰替拂資金交付請求書ヲ調製シ中央金庫所在地ニ在勤スル出納官吏ヲシテ中央金庫ニ送付セシムヘシ

第六條　鐵道院總裁出納官吏ヲシテ其ノ保管スル現金ヲ他ノ出納官吏ニ回送セシメントスルトキハ別ニ定ムル處ノ規定ニ依リ金庫ニ對シ雜部送金ノ請求ヲ爲サシムヘシ

第七條　出納官吏其ノ在勤廳所在地外ノ債主ニ對シ歳出金ノ繰替拂又ハ歳入歳出外現金ノ拂戻ヲ要スルトキハ別ニ定ムル處ノ規定ニ依リ雜部送金ノ請求ヲ爲スヘシ

第八條　出納官吏ハ毎日各勘定ノ歳入金、歳出金竝歳入歳出外現金及繰替拂資金ノ受拂高ヲ精算シ別ニ定ムル處ノ規定ニ依リ之ヲ鐵道院總裁、部長、局長又ハ所長ニ報告スヘシ

鐵道院總裁、部長、局長又ハ所長ハ出納官吏ノ現拂ニ係ル帝國鐵道會計ニ於ケル各勘定ノ現金受拂高ヲ毎月取纏メ其ノ歳入金ノ受入高ニ對シテハ拂込額、繰替拂資金ノ現在高ニ對シテハ戻入額ヲ定メ歳出金ノ繰替拂高ニ對シテハ「振替ノ押印アル仕拂請求書又ハ集合仕拂請求書ヲ發シ主任出納官吏ヲシテ第二號樣式ノ歳入金振替拂込書若クハ第三號樣式ノ繰替拂資金振替戻入書ヲ調製シ金庫ニ對シ振替計算ヲ以テ之カ受拂ヲ爲サシムヘシ

第九條　鐵道院總裁帝國鐵道會計規則第九條ニ依リ出納官吏ニ繰替拂資金ヲ交付セントスルトキハ大藏大臣ヨリ承認ノ通知ヲ受ケタル後第一號樣式ノ繰替拂資金交付請求書ヲ調製シ中央金庫所在地ニ在勤スル出納官吏ヲシテ中央金庫ニ送付セシムヘシ

第十條　鐵道院總裁出納官吏ヲシテ繰替拂ヲ爲サシメントスルトキハ繰替拂傳票ヲ發セシメントスルトキハ仕拂命令官ハ定額殘算ヲ以テ之ヲ當該官吏ニ命スヘシ

第十一條　帝國鐵道會計所屬現金ノ出納ニ關シ本規則ニ規定セサルモノハ總テ一般ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國鐵道官署現金受拂規則ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式　用紙適宜（縱四寸五分ノモノ二枚接續）

繰替拂資金交付請求書

第　號	明治「何」年度帝國鐵道歳出仕拂元受金	大藏省	鐵道院

金庫割印

一金「何程」

有「何々出納官吏官氏名」雜部保管金ニ振替相成度候也

明治　年　月　日　　鐵道院總裁氏名印

中央金庫宛

振替濟通知書

第　號	明治「何」年度帝國鐵道歳出仕拂元受金	大藏省	鐵道院

金庫取扱主任印

一金「何程」

有「何々出納官吏官氏名」雜部保管金ニ振替濟ニ付通知候也

明治　年　月　日　　中央金庫印

鐵道院總裁氏名宛

備考

中央金庫ヨリ提替濟通知書ヲ發スルハ雜部保管金ニ振替受入ワナス金庫ノ報告ヲ受ケタル後發スルモノトス

第二號樣式　用紙適宜（縱四寸五分ノモノ三枚接續）

歳入金振替拂込書

第　號	明治「何」年度帝國鐵道歳入「收益勘定又ハ何々」	大藏省	歳入徴收官	「官氏名」
		拂込出納官吏	取扱廳	「何」廳

金庫割印

一金「何程」

但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替拂込ノ分

右拂込候也

明治　年　月　日　　「何廳」出納官吏

官氏名印

領收證書

第　號	明治「何」年度帝國鐵道歳入「收益勘定又ハ何々」	大藏省	歳入徴收官	「官氏名」
		拂込出納官吏	取扱廳	「何」廳

金庫取扱主任印

一金「何程」

但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替拂込ノ分

右領收候也

明治　年　月　日　　「何地」金庫印

拂込濟通知書

第　號	明治「何」年度帝國鐵道歳出「收益勘定又ハ何々」	大藏省	仕拂命令官	「官氏名」
		取扱廳	鐵道院	
		戻入出納官吏	「官氏名」	

金庫取扱主任印

一金「何程」

但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替戻入ノ分

右領收濟ニ付通知候也

明治　年　月　日　　鐵道院總裁氏名宛

「歳入徴收官氏名宛」

第二號樣式　用紙適宜（縱四寸五分ノモノ三枚接續）

繰替拂資金振替戻入書

第　號	明治「何」年度帝國鐵道歳出仕拂元金	大藏省	仕拂命令官	「官氏名」
		取扱廳	鐵道院	
		戻入出納官吏	「官氏名」	

金庫取扱主任印

一金「何程」

但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替戻入ノ分

右戻入候也

明治　年　月　日　　「何廳」出納官吏

官氏名印

領收證書

第　號	明治「何」年度帝國鐵道歳出仕拂元金	大藏省	仕拂命令官	「官氏名」
		取扱廳	鐵道院	
		戻入出納官吏	「官氏名」	

金庫取扱主任印

一金「何程」

但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替戻入ノ分

右領收候也

明治　年　月　日　　中央金庫印

戻入濟通知書

第　號	明治「何」年度帝國鐵道歳出仕拂元金	大藏省	取扱廳	鐵道院
		戻入出納官吏	「官氏名」	

金庫取扱主任印

一金「何程」

但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替戻入ノ分

右領收濟ニ付通知候也

明治　年　月　日

鐵道院總裁氏名宛

中央金庫印

第 7727 号 本文

大藏省令第二十號

鐵道院出納員現金取扱規則左ノ通相定ム

明治四十二年四月一日　大藏大臣　侯爵桂太郎

鐵道院出納員現金取扱規則

第一條　鐵道院ノ出納員ハ鐵道院書記、雇員、特別鐵道貨物集配人及特別鐵道驛夫ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　出納員ハ左ノ範圍内ニ於テ現金ノ出納ヲ爲スヘシ

一　各種ノ歳入金

二　計理部、各管理局、各出張所、各建設事務所、各出納事務所及各管理局出張所ヨリ派出仕拂ヲ要スル繰替拂金

第三條　出納員ハ明治二十三年大藏省令第九號第十九號書式ノ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ但シ特種ノ帳簿ヲ以テ現金出納簿ニ代用シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　出納員ハ其ノ領收シタル現金ヲ毎日精算シ遲滯ナク其ノ所屬出納官吏ヘ拂込ミ領收證書ヲ受クヘシ

第五條　出納員ハ其ノ所屬出納官吏ヨリ現金ヲ受領シタルトキハ領收證書ヲ發スヘシ

第六條　特種ノ帳簿ニ依リ現金ノ受授ヲ證シ得ル場合ハ前二條ノ領收證書ヲ要セス

第七條　現金出納ノ取扱ニ關シ本規則ノ外特ニ規定シタルモノハ其ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

大藏省令第二十一號

沖繩縣罹災救助基金法施行手續ニ關シテハ明治三十二年六月大藏省令第三十二號ヲ準用ス

明治四十二年四月一日　大藏大臣　侯爵桂太郎　内務大臣　法學博士男爵平田東助

大藏省令第二十二號

明治三十五年五月大藏省令第十號中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年四月一日　大藏大臣　侯爵桂太郎

專賣局收納所長、專賣局販賣所長、專賣局收納所出張所長ヲ削リ專賣支局長、專賣局試驗場長、專賣局伏見工場長ヲ加フ

農商務省令第一號

中央度量衡檢定所ノ支所ノ位置ヲ左ノ通相定ム但シ支所ニ於テハ比較檢査及試驗ニ關スル事務ノ取扱ヲ爲サス

明治四十二年四月一日　農商務大臣　男爵大浦兼武

中央度量衡檢定所大阪支所　大阪市西區江ノ子島東ノ町

農商務省令第二號

耕地整理及土地改良獎勵費規則左ノ通定ム

明治四十二年四月一日　農商務大臣　男爵大浦兼武

耕地整理及土地改良獎勵費規則

第一條　耕地整理及土地改良事業ヲ獎勵スル爲農商務大臣ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ本則ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ左ニ揭クル府縣ノ費用及補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス

一　耕地整理及土地改良ノ施行ニ關シ當該年度ニ於テ行フ調査、設計、工事監督等ニ要スル費用

二　耕地整理事業中當該年度ニ於テ行フ道路、堤塘、溝渠、橋梁、溜池ノ變更廢置又ハ灌漑排水ニ關スル設備若ハ工事ニ要スル費用ニ對スル補助金

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ前年度三月中ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

一　前條第一號ノ補助金ニ付テハ調査、設計、工事監督等ノ施行豫定書、設備豫定書及費用豫算書竝調査、設計、工事監督等ノ實施ニ關スル規程

二　前條第二號ノ補助金ニ付テハ補助金豫算書、其ノ説明書及補助金ノ交付ニ關スル規程

第四條　補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニシテ前條ノ添附書類ニ記載シタル豫定、豫算又ハ規程ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ費用又ハ補助金ノ額ヲ增加スルトキハ補助金ノ增加交付ヲ申請スルコトヲ得

第五條　補助金ノ交付ヲ受クル府縣ハ別記第一號乃至第四號樣式ニ依リ當該年度ニ於ケル調査、設計、工事監督等ノ成績及補助金交付ノ成績ヲ翌年度五月末日迄ニ費用及補助金ノ決算ヲ同十一月末日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ第八條ノ規定ニ依ル義務ノ存スル場合亦同シ

第六條　調査、設計、工事監督等ニ關スル職員ヲ任用シタルトキハ履歷書ヲ添附シ其ノ氏名、職名及俸給額ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ其事項ニ變更アリタルトキ又ハ職員ヲ免シタルトキハ其ノ旨ヲ報告スヘシ

前項ノ規定ハ囑託員ニ之ヲ準用ス

第七條　農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ府縣ニ第三條第一號ノ添附書類ニ記載シタル豫定ノ變更ヲ爲スヘキコトヲ命シ之ニ要スル費用ニ對シ補助金ノ增加交付ヲ爲スコトアルヘシ

第八條　補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニシテ第三條ノ添附書類ニ記載シタル調査、設計、工事監督等ニ關スル施行豫定ノ施行ヲ當該年度内ニ終了シ得サルトキハ年度後ニ於テ之ヲ繼續遂行スルノ義務アルモノトス

府縣ニ於テ補助金豫算書ニ定メタル補助金ノ交付ヲ當該年度内ニ終了セサルトキハ當該年度後ニ於テ行フ第二條第二號ノ費用ニ對シテモ尚之ヲ交付スルノ義務アルモノトス

第九條　農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニ對シ調査ヲ命シ若ハ報告ヲ徵シ又ハ實地檢査ヲ爲スコトヲ得

第十條　府縣ニ於テ負擔金額ヲ減少シタルトキ、第四條若ハ第八條ニ違反シ又ハ第七條ノ命令ニ從ハサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得農商務大臣ニ於テ府縣ノ施行成績不良ナリト認ムルトキ亦同シ

附　則

第十一條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十二年度ニ限リ第三條中前年度三月中トアルヲ明治四十二年四月中トス

（別記）

第一號樣式

明治何年度調査（設計、工事監督等）成績報告

地區名	地區總面積	地區確定面積	施行期間	施行中ニ關スル終了事項	終了豫定期日	記事
何郡何村大字何々 大字何々	町	町	年月日著手 年月日終了			
何郡何村大字何々			年月日著手	何々ハ全部、何々ハ八分ヲ了ヘ全事業ノ約六分通終了	年月日終了ノ豫定	
計						

備考

一　此ノ報告ニハ調査ノ終了シタル各地區ニ付地區ノ現況、整理計劃、整理費用及整理ニ因リテ得ヘキ利益ノ概要ヲ記載シタル調書及整理計劃略圖ヲ添附スヘシ

二　設計、工事監督等ノ成績ハ此ノ樣式ニ準シ各別ニ調製スヘシ但シ前號ノ書類ノ添附ヲ要セス

三　工事監督成績報告ニアリテハ地區確定面積欄ヲ工事監督終了面積欄トス

四　記事欄ニハ設計ノ變更其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第二號樣式

明治何年度耕地整理補助金交付成蹟報告

整理地區名	整理地區總面積	整理費用豫算總額	獎勵費規則第二條第二號ノ工事費	同上内譯 工事區分	同上内譯 金額	翌年度以降ニ殘存スル工事費豫算額	補助金交付額	記事
何郡何村大字何 字何 字何	町	圓	圓	何何何何	圓	圓	圓	
計								

備考

工事區分ハ道路、堤塘、橋梁、溝渠、溜池、揚水機、暗渠、排水竝其ノ他ノ灌漑排水ニ關スル設備及工事ニ分ツヘシ

第三號樣式

明治何年度調査、設計、工事監督等費用決算報告

	國庫補助額	豫算	決算	殘額	國庫補助額ニ對スル決算額ノ差	記事
費用總額	圓	圓	圓	圓	圓	
俸給						
旅費						
備品費						
雜給						
雜費						

第四號樣式

明治何年度補助金交付額決算報告

	國庫補助額	豫算	決算	殘額	國庫補助額ニ對スル決算額ノ差	記事
補助金交付總額	圓	圓	圓	圓	圓	

○府令

臺灣總督府令第八號

臺北水道給水規則左ノ通相定ム

明治四十二年三月二十五日　臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

臺北水道給水規則

第一條　臺北水道ハ臺北水道事務所長之ヲ管理ス

第二條　臺北水道ノ給水區域ハ水道管理者之ヲ公示ス

第三條　給水ヲ分チテ左ノ五種トス

一　專用給水　一戸ノ專用ニ屬シ水量ヲ計ラスシテ供給スルモノ

二　共用給水　二戸以上ノ共用ニ屬シ水量ヲ計ラスシテ供給スルモノ

三　公共栓給水　官設給水栓ヨリ水量ヲ計ラス無料ニテ供給スルモノ

四　計量給水　水量ヲ計リテ供給スルモノ

五　專用消火栓給水

第四條　公共栓給水ヲ受クヘキ者左ノ如シ

一　給水區域内ニ居住スル者ニシテ飲用爨炊洗濯沐浴等普通生活用ニ供スルモノ但シ第五條ノ計量給水ト爲スヘキモノヲ除ク

二　水道管理者ニ於テ給水裝置ヲ爲スコト能ハスト認メタル者
三　途上ノ公衆
四　前各號ノ外水道管理者ニ於テ特ニ承認ヲ與ヘタル者

第五條　計量給水ト爲スヘキモノ左ノ如シ
一　官衙、公署、兵營、學校、病院、銀行、會社、集會所、市場、劇場、人寄席、製造場、釀造場、湯屋、染物屋、寫眞屋、理髮店、洗濯屋、料理店、飮食店、旅人宿、合宿所、貸座敷、屠畜場、牛乳搾取所、獸畜飼育場、器械及汽鑵用其ノ他之ニ類スルモノ但シ水道管理者ニ於テ多量ノ水ヲ使用セスト認ムルモノヲ除ク
二　船舶
三　噴水庭池ノ類
四　計量ニ依リ給水ヲ受ケムトスルモノ
五　前各號ノ外水道管理者ニ於テ多量ノ水ヲ使用シ又ハ水量ヲ豫定シ難シト認ムルモノ

第六條　水道管理者ハ防火用其ノ他臨時又ハ特殊ノ給水ニ付テハ本令ニ依ラス給水スルコトヲ得

第七條　給水ノ種別ハ水道管理者之ヲ決定ス但シ時宜ニ依リ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　給水ハ一戶內ニ於テハ二種以上ヲ併用スルコトヲ得ス

第九條　水道管理者ノ承諾ヲ受ケムトスル者借地借家ニ係ルトキ若ハ私有ノ給水管ヨリ支分引用セムトスルトキハ其ノ所有者ノ承諾書又ハ連署ヲ要ス

第十條　給水ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ水道管理者ニ申込ムヘシ
一　專用消火栓ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ豫メ水道管理者ノ承認ヲ受クヘシ
二　共用給水ノ引用者ハ給水ニ關スル一切ノ事項ヲ處辨セシムル爲總代人一名ヲ定メ水道管理者ニ屆出ヘシ其ノ變更シタルトキ亦同シ
三　引用者ハ其ノ門戶ニ水道管理者ヨリ交付シタル標札ヲ掲クヘシ

第十一條　專用消火栓ハ引用者ニ於テ平時之ヲ開披スルコトヲ得ス若試用ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ豫メ水道管理者ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條　共用給水ノ引用者ハ給水ニ關スル一切ノ事項ヲ處辨セシムル爲總代人一名ヲ定メ水道管理者ニ屆出ヘシ其ノ變更シタルトキ亦同シ

第十三條　引用者ハ其ノ門戶ニ水道管理者ヨリ交付シタル標札ヲ掲クヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ給水ヲ停止シ又ハ水量ヲ制限スルコトアルヘシ但シ第二號及第三號ノ場合ハ豫メ之ヲ公示ス
一　天災其ノ他避クヘカラサル事故アルトキ
二　工事上必要アルトキ
三　公益上必要アルトキ

第十五條　引用者ハ左ノ場合ニ於テハ水道管理者ニ屆出ヘシ
一　給水用具ノ所有權ヲ變更シタルトキ
二　給水用具ニ破損ヲ生シ又ハ給水ニ異狀ヲ生シタルトキ
三　給水用具ノ位置變更又ハ其ノ修繕、改造、增設若ハ撤去ヲ爲サムトスルトキ
四　給水ヲ中止シ又ハ再使用セムトスルトキ
五　給水ヲ廢止セムトスルトキ
六　給水種別ヲ變更スヘキ事由ノ生シタルトキ
七　設備費分納ノ保證人ノ死亡、轉居、破產若ハ失踪シタルトキ
八　申込書ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキ

第十六條　給水ニ關スル工事ハ水道管理者ニ於テ之ヲ爲ス

第十七條　引用者カ設備費ヲ負擔スル場合ニ於テ納付方法ハ左ノ二種トス
一　卽納
二　分納

第十八條　設備費ヲ負擔セシテ給水ヲ受ケムトスル者ハ使用料ヲ納ムヘシ

第十九條　水道管理者設備費卽納ノ申込ヲ受ケタルトキハ其ノ費用ヲ調定シ申込者ニ通知スヘシ其ノ修繕、改造、變更、增設若ハ撤去ノ場合亦同シ但シ官廳其ノ他前納ノ必要ナシト認ムルモノノ外ハ費用納付ノ後工事ニ著手スルモノトス

第二十條　設備費通知ノ後十日內ニ費用ヲ納付セサルトキハ給水ノ申込ヲ取消シタルモノト看做ス

第二十一條　既納ノ工事ハ水道管理者ニ於テ工事施行上ノ準備ヲ爲シタル後ニ於テハ給水ノ申込ヲ取消スモ之ヲ還付セサルコトアルヘシ

第二十二條　設備費ヲ分納スルトキハ水道管理者ノ定ムル所ニ依リ相當ノ割增金ヲ徵收ス

第二十三條　水道管理者設備費分納ノ申込ヲ受ケタルトキハ一箇月分分賦額納付ノ後工事ニ著手スルモノトス

第二十四條　設備費ノ分納ヲ申込ム者ハ水道管理者ノ承認セル保證人一名ヲ要ス

保證人ノ保證能力ヲ充分ナラスト認ムル場合ニ於テハ水道管理者ハ何時ニテモ之カ更改ヲ命スルコトヲ得

第二十五條　分納設備費ノ完納前引用ヲ廢止シ若ハ天災其ノ他ノ事故ニ因リ給水裝置ヲ破損シタルトキ又ハ本令ニ違背シタルトキハ未納金ヲ卽納セシムルコトアルヘシ

第二十六條　分納設備費ノ滯納シタルトキハ水道管理者給水用具ヲ評價シ未納額及撤去費ヲ控除シ不足アルトキハ其ノ差額ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十七條　使用料ニ依ル給水裝置ノ條件ハ左ノ如シ
給水管ノ口徑ハ二分ノ一吋四分ノ三吋ノ二種トス
給水管ノ長サハ本栓二十五間以內支栓五間以內トス

第二十八條　使用料納付ノ方法ヲ以テ爲シタル給水裝置ハ其ノ引用者ノ便宜ニ隨ヒ設備費（給水栓取付費ヲ除ク）ヲ卽納又ハ分納トシ私有ト爲スコトヲ得

第二十九條　新ニ給水ノ裝置ヲ爲シタル後一箇月以內ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ修繕、改造ハ水道管理者ニ於テ無償ニテ之ヲ施行ス

第三十條　水道管理者ハ別記雛形ノ證票ヲ携帶セル水道掛員ヲシテ日出ヨリ日沒迄ノ間ニ於テ給水裝置ヲ檢查セシムルコトアルヘシ

前項檢查ノ際修繕又ハ改造ヲ要スト認ムルトキハ直ニ其ノ申込ヲ爲サシムヘシ若引用者其ノ申込ヲ爲ササルトキハ水道管理者之ヲ施行シ其ノ費用ヲ徵收ス

第三十一條　水道管理者ハ水道掛員ヲシテ量水器ヲ點檢セシムヘシ水道掛員ハ其ノ都度點檢簿ニ消費高ヲ登錄スヘシ若破損又ハ指點正確ナラストト認ムルトキハ其ノ旨ヲ登錄スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前月分ノ數量ヲ以テ當月中ノ消費高ト看做ス若前月分ナキ場合ニ於テハ前回迄ノ平均高ニ依リ之ヲ査定ス

第三十二條　量水器ノ試驗ヲ請求スルトキハ手數料ヲ豫納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ請求者ノ立會ヲ以テ之カ試驗ヲ爲シ其ノ結果申立ヲ正當ト認ムルトキハ豫納金ヲ還付スヘシ

第三十三條　新ニ給水ヲ申込ム者ハ加入料金一圓ヲ納ムヘシ但シ給水ノ申込ヲ取消スモ之ヲ還付セス

第三十四條　給水料ハ左ノ區分ニ依ル

一　專用給水

本栓一箇處ニ付一戶五人迄一箇月金一圓トシ以上一人ヲ增ス每ニ金十五錢ヲ加フ

支栓一箇處每ニ一箇月金二十五錢トス

牛馬一頭每ニ一箇月金二十錢トス

二　共用給水

水栓一箇處ニ付二戶迄一箇月金一圓五十錢トシ以上一戶ヲ增ス每ニ金四十五錢ヲ加フ

三　計量給水

第五條第一號第四號第五號ニ該當スルモノ

一箇月十五立方メートル迄金一圓十五錢トシ以上一立方メートル迄ヲ增ス每ニ湯屋ハ金四錢其ノ他ハ金五錢ヲ加フ

同條第二號ニ該當スルモノ

每一立方メートル迄金十五錢

同條第三號ニ該當スルモノ

一箇月三十立方メートル迄金四圓五十錢トシ以上一立方メートル迄ヲ增ス每ニ金七錢ヲ加フ

家稅ノ賦課ヲ受ケサル建物ニ居住スル者ノ給水料ハ當分ノ內前項各號ノ率ニ十分ノ一ヲ加フ

第三十五條　量水器一箇月ノ貸付料ハ左ノ如シ但シ新設及撤去ノ場合ハ全月分ヲ徵收ス

口徑二分ノ一吋　金五十錢
口徑八分ノ五吋　金六十錢
口徑四分ノ三吋　金七十錢
口徑一吋　金一圓
口徑一吋二分ノ一　金一圓五十錢
口徑二吋　金二圓
口徑三吋　金四圓
口徑四吋　金六圓
口徑五吋　金八圓
口徑六吋　金十圓

第三十六條　量水器一回ノ試驗手數料ハ左ノ如シ

口徑二分ノ一吋　金二圓
口徑八分ノ五吋　金二圓五十錢
口徑四分ノ三吋　金三圓
口徑一吋　金四圓
口徑一吋二分ノ一　金六圓
口徑二吋　金八圓
口徑三吋　金十圓
口徑四吋　金十三圓
口徑五吋　金十六圓
口徑六吋　金二十圓

第三十七條　給水栓一箇月ノ使用料ハ左ノ如シ

本栓　一箇所　口徑二分ノ一吋　金九十錢
口徑八分ノ五吋　金一圓二十錢
口徑四分ノ三吋　金一圓五十錢

支栓　一箇所　口徑二分ノ一吋　金六十錢
口徑八分ノ五吋　金七十錢
口徑四分ノ三吋　金一圓

第三十八條　專用消火栓ノ試用料ハ一回金一圓トス

第三十九條　使用料、給水料及量水器貸付料ハ前月二十五日限納付スヘシ但シ納期最終ノ日祭日又ハ休日ニ當リタルトキハ繰下ケトス

第四十條　計量給水ノ給水料ハ豫定額ヲ以テ之ヲ納付セシメ其ノ月ノ精算ハ翌月徵收スヘキ料金ニ於テ差引計算ス

第四十一條　官公署ハ前條ノ規定ニ依ラス翌月十日限給水料ヲ納付セシムルコトヲ得

第四十二條　船舶ノ給水料ハ水道管理者臨時之ヲ徵收ス

第四十三條　本令ニ規定セサル料金其ノ他ノ納付金及其ノ納期ハ水道管理者ノ定ムル所ニ依ル

第四十四條　新ニ給水ヲ爲シ又ハ給水種別ヲ變更シタル月ノ專用給水料、共用給水料及給水裝置ノ使用料ハ日割ヲ以テ計算ス

第四十五條　專用給水料、共用給水料及給水裝置ノ使用料ニシテ其ノ算出ノ基礎ニ異動ヲ生スルモ其ノ月分ノ料金ハ之ヲ增減セス

本文

第四十六條 給水ノ中止、廢止ノ場合ニ於ケル其ノ月分ノ料金ハ全月分ヲ徴收ス但シ計量給水ニ在リテハ豫定額ヲ以テ其ノ月分ノ料金ト看做ス若豫定水量ヲ超過シタルトキハ實際ノ消費高ニ依リ給水料ヲ徴收ス

第四十七條 第十四條ニ依リ給水ノ停止引續キ五日以上ニ及フトキハ專用給水料及共用給水料ハ日割ヲ以テ之ヲ還付ス此ノ場合ニ於テハ翌月ノ給水料ニ於テ差引計算ス

計量給水ニシテ一箇月十五立方メートルノ定量ニ滿サルトキ亦前項ニ同シ

第四十八條 日割計算ノ方法ハ月ノ大小ニ拘ラス三十日ヲ以テ計算ス

第四十九條 料金其ノ他ノ納付金ノ徴收ニ關シ本令ニ規定セサルモノハ臺灣地方税徴收ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十條 水道管理者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ其ノ給水ヲ停止シ又ハ拒絶スルコトアルヘシ

一 給水料、量水器貸付料及給水装置使用料ヲ期限内ニ納付セサル者
二 給水ヲ濫用シタル者
三 給水装置ニ危害ヲ及ホシタル者
四 水道掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者
五 前各號ノ外本令ニ違背シタル者

附 則

本令ハ明治四十二年三月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

使用料ニ關スル規定ハ當分ノ內之ヲ適用セス

給水料ハ明治四十二年三月三十一日迄徴收セス

(別記)

檢查證票製式雛形

製 式 金屬製 地色金色 寸法左圖ノ通
徑六分

雛 形

表

裏

○訓令

大藏省訓令第十一號

警視廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課
造幣局 印刷局 專賣局 税關
税務監督局 税務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部

本年三月大藏省訓令第五號明治四十二年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第三款官業及官有財產收入中ニ第十五項鹽專賣收入第一目鹽專賣收入ノ項目ヲ追加ス

明治四十二年四月一日 大藏大臣 侯爵桂太郎

沖縄縣

大藏省訓令第十二號

沖縄縣罹災救助基金毎年度現在高報告方ニ關シテハ明治三十二年九月大藏省訓令第六十五號及明治三十四年二月大藏省訓令第二號ヲ準用ス

明治四十二年四月一日 大藏大臣 侯爵桂太郎 內務大臣 法學博士男爵平田東助

工業試驗所

農商務省訓令第七號

明治三十九年四月訓令第十號工業試驗所處務規程中左ノ通改正シ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス

明治四十二年四月一日 農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條中「第四部」ノ下ニ「第五部」ヲ加フ

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二 第五部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 電氣化學工業ニ關スル試驗又ハ研究
二 依頼ニ係ル電氣化學工業ノ試驗鑑定ニ關スル事項

山林局 林區署

農商務省訓令第八號

明治四十二年度歲入歲出及森林資金歲入歲出科目左表ノ通心得ヘシ

明治四十二年四月一日 農商務大臣 男爵大浦兼武

科目表

歲入經常部

款	項	目	解疏
官業及官有財產收入			
	森林收入		
		主產物拂下代	立木竹處分(被害木竹、末木、根株、枝條共)及所伐作業ニ依ル林產物
		副產物拂下代	土石、柴草、菌蕈其ノ他各種ノ產物
		地所貸下代	使用料及部分林ノ地代共
		地所拂下代	
		沖縄縣杣山拂下代	
		建物拂下代	
		製材所製品拂下代	
		牛馬放牧料	
		砂礦採取料	
		林野臺帳謄本料	臺帳及圖面ノ謄本竝抄本料
		辨償金	誤伐、擅伐、濫用、毀損、紛失品及損害ノ辨償金、盜難品賠償金、訴訟入費償抑金ノ類
		違約金	
		年賦及延納金	未納金ノ年賦、月賦及延納
雜收入			
	雜入		
		返納金	誤拂及過渡金ノ返納
	官吏遺族扶助法納金		
		官吏遺族扶助法納金	

歲入臨時部

款	項	目	解疏
官有物拂下代			
	物品拂下代		
		物品拂下代	試驗濟不用苗木共
森林資金繰入			
	森林資金繰入		
		森林資金繰入	

歲出經常部

款	項	目	節	解疏
森林費				
	俸給及諸給			
		奏任俸給		
			事務官	
			技師	
			事務官補	
		判任俸給		
			囑	
			技手	
			森林主事	
		退官賜金		
		死亡賜金		
		休職俸給		
	廳費			
		備品費		(附屬品及修繕共)
			器具	卓子、椅子、箱類、點燈用具、室內用品、印章、版木、度量衡、火具、廚具、製本用具、雜具ノ類
			雜機械	測量、寫字、印刷及製圖器、輪尺其ノ他ノ諸機械
			雜品	絲、標札、風呂敷、靴拭、砥石、掃除用具、金物其ノ他ノ雜品
		圖書及印刷費		
			圖書購買費	官報、新聞紙、書籍、地圖ノ類
			製本費	圖書帳簿類ノ裝釘但シ職工費ヲ除ク
			印刷費	諸規則、報告書類ノ刷製セシモノ及諸印刷代
		筆紙墨文具		
			用紙	各種用紙、狀袋ノ類(漉直シ代共)
			諸帳簿	帳簿及森林手簿等ノ簿册トナリシモノ
			筆墨印肉類	筆、墨、インキ、繪ノ具、印肉ノ類
			硯小道具類	硯、硯箱、文鎭、算盤、肉池、繪ノ具皿ノ類(修繕共)
		消耗品		
			薪炭油類	薪炭各種油ペンキノ類
			瓦斯及電燈料	
			雜用品	蠟燭、生鐵、附木、燈心、藥品、飲料水ノ類
		通信運搬費		
			郵便電信料	郵便爲替料、電信持込賃共
			電話諸費	

第7727号 本文

運搬費	運送費、荷造費、荷造用品及保險料共
使賃	郵便不便ノ地ニ於ケル公用狀及至急召喚狀等ノ使賃但シ人夫賃ヲ除ク
署用品代料	小林區署用品代料
廳舍及敷地借料	官舍、倉庫借料共
修繕費	
各所修繕	廳舍、官舍及附屬物件並製材所運物ノ修繕一箇所五百圓未滿ノ方
死傷手當	
死傷手當	
賠償及訴訟費	
賠償金	
訴訟費	當事者、證人、事實參考人、鑑定上等ノ旅費、日當、執達吏手數料、訴訟代人、鑑定人、證人、證憑金、通信運搬費、收入印紙、訴訟用紙、雜納金及對手人ニ仕拂フ訴訟入費ノ類
旅費	
內國旅費	赴任及出張巡回旅費
外國旅費	製材販路調查及販賣監督ノ爲出張旅費
雜給及雜費	
給與	島嶼在勤者特別手當、囑託手當、通信手當及危險手當金ノ類
官吏療治料	
雇員給	
雇人料	巡視、給仕、小使、國有林巡守ノ給料及雇工人夫賃
被服費	巡視、小使ノ被服及巡視、給仕ノ靴料
標柱費	境界標、保安林標識建設、制札但シ藥造彫刻共
國有林被害調費	被害物件調查、道路人家等ニ障害トナル被害物件ノ取片付、水火防禦並害物ノ騙除、除伐犯人ニ要スル旅費、人夫賃、食料、雜品、賊物保管料等ノ類
森林組合費	森林法第六十二條第三號ニヨル森林組合加入ニ要スル一切ノ費用
雜費	寫圖料共但シ枚數當リヲ以テ支給スルモノニ限ル
寫字料	寫圖料共但シ枚數當リヲ以テ支給スルモノニ限ル
廣告料	
賄費	
舟車馬類傭賃	小林區署官員巡回渡船賃共
道路給水費	永道給水料、道路撒水除雪費
翻譯料	
謝金	
諸手數料	
事業費	
伐作業費	
製材費	立木竹ノ伐倒、枝打、玉切、角取、造材檢查、木寸、加工製作、炭燒等ニ要スルモノ
搬出費	標出シ、木馬出シ、運道及軌道敷設、管流、筏流等ニヨリ伐作業場ヨリ搬出ニ要スルモノ
器械材料費	製作及搬出ニ要スル器具機械、建物其ノ他諸材料
輸送費	汽車、船舶其ノ他ノ交通機關ニ依ル託送ニ要スルモノ
處理費	伐作業及貯材保管、販賣處分ニ要スル雇員傭人ノ給料、旅費、給與、需用物品、通信、廣告其ノ他ノ費用
製材所費	製品加工、製材器具機械ノ新調及修理、製材原料及製品輸送、製材所雇員、職工人夫ノ給料、旅費、給與、需用物品、通信、廣告料、接待費、雜費、其ノ他販賣ニ要スルモノ
外國販賣費	外國輸送、委託販賣ノ手數料及外國ニ於テ販賣ニ關スル一切ノ費用
林產物處分費	林產物處分ニ關スルモノ
器具機械費	
圖書及印刷費	
支消品	筆紙墨文具及消耗品
通信運搬費	
標木費	林產物ノ標本
旅費	林產物處分、材積ノ調查及引渡等ニ要スルモノ
雇員給	

備人料	
雜費	廣告料、公賣所料及謝金等ノ類
給與	
造林費	造林專業ニ關スルモノ
器具機械費	
圖書及印刷費	
支消品	
諸材料	土木事業及試驗ニ要スル材料、藥品
通信運搬費	種苗ノ運搬共
旅費	
雇員給	
備人料	造林地巡守ノ給料共
被服費	定夫ノ法被
種苗購買費	
雜費	地所其他補償料、官國有料、廣告料、謝金等ノ類
苗圃其他建物營繕	苗圃及試驗場、貯材用建物並附屬物件ノ新營、修繕及林道附帶運輸用ノ建物新營、電話架設共
苗圃及試驗場ノ建物並附屬物件ノ新營及修繕、造林事業ニ要スル小屋掛費共	
標木費	
給與	
歲出臨時部	
款項目節解疏	
營繕費	
新營費	
林區署新營	
製材所新營	
修繕費	
林區署修繕	廳舍官舍及附屬物件ノ臨時修繕
森林費ノ解疏ニ準ス	
國有林野經營費	
俸給及諸給	
俸給	
勅任俸給	
奏任俸給	
判任俸給	
退官賜金	
死亡賜金	
休職俸給	
事業費	
共通費	
器具機械費	
圖書及印刷費	
支消品	
諸材料	
通信運搬費	
標木費	
雇員給	
雇人料	
被服費	
標柱費	
種苗購買費	
雜費	寫字料、廣告料、機械類保管料、賄費、舟車馬類傭賃、苗圃肥料、家屋賃ノ他借料、翻譯料、謝金諸手數料ノ類
苗圃其他建物營繕	苗圃及試驗場、貯材用建物並附屬物件ノ新營、修繕及林道附帶運輸用ノ建物新營、電話架設共
旅費	
內國旅費	
外國旅費	
雜給	留學生手當、囑託手當、通辯手當、慰勞金ノ類
官吏療治料	

款	項	目	節	備考
		死傷手當		
		賠償及訴訟費		
			賠償金	
			訴訟費	
		森林買上費		
	營繕費			
		各所新營		
		各所修繕		
足尾國有林復舊費				(森林費ノ解疏ニ準ス)
	足尾國有林復舊費			
		俸給		
			奏任俸給	
			判任俸給	
		旅費		
		事業費		
			器具機械費	
			支消品	
			諸材料	
			通信運搬費	
			雇員給	
			傭入料	
			種苗購買費	
			雜費	
			給與	

森林資金歳入

款	項	目
林野拂下代		
	林野拂下代	
		林野拂下代

森林資金歳出

款	項	目
歳入臨時部繰入		
	森林資金繰入	
		森林資金繰入

○達

大藏省達往第四一〇〇號

鐵道院會計事務規程左ノ通相定ム

明治四十二年四月一日　大藏大臣　侯爵桂太郎

鐵道院會計事務規程

目次

第一章　豫算
第二章　收入
第三章　支出
第四章　決算
第五章　帳簿
附則

鐵道院會計事務規程

第一章　豫算

第一條　鐵道院總裁(以下單ニ總裁ト稱ス)ハ毎年度帝國鐵道會計ノ豫定計算書竝附屬書類ヲ調製シ前年度七月三十一日マテニ之ヲ大臣ニ提出スヘシ

第二條　總裁歳出豫算殘額ノ繰越ヲ要スルトキハ繰越計算書ヲ調製シ翌年度五月二十日マテニ之ヲ大臣ニ提出スヘシ

第三條　總裁帝國鐵道會計規則第四條第一項及前條ニ依ル歳出豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ仕拂命令官毎ニ仕拂豫算下調書及同明細書ヲ調製シ之ヲ大臣ニ提出スヘシ

仕拂豫算ノ增減變更ヲ要スル場合亦前項ニ同シ

第四條　總裁歳出豫算各目ノ流用ヲ要スルトキハ適宜之ヲ執行スヘシ

第五條　總裁積立金勘定ノ支出ヲ爲シタルトキハ其計算書ヲ調製シテ之ヲ大臣ニ提出スヘシ

積立金勘定ヲ以テ他勘定ニ於ケル歳出ノ不足ヲ補塡支辨シタル金額ハ總裁其ノ計算書ヲ作リ各費途毎ニ説明ヲ付シ翌年度七月三十一日マテニ之ヲ大臣ニ提出スヘシ

第六條　歳入歳出豫算中節以下科目ノ新設若ハ改廢ヲ要スルトキハ總裁執行ノ後之ヲ大臣ニ報告スヘシ

第二章　收入

第七條　歳入ノ徴收ニ關シテハ總裁ヲ以テ歳入徴收官トス

歳入徴收官ノ徴收事務ハ部長局長又ハ所長ヲシテ之ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條　歳入ハ歳入徴收官之ヲ調定シ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外納人ニ對シ拂込通知書ヲ發シ出納官吏ニ納付セシムヘシ但シ出納官吏ニ納付セシムルヲ不便トスルモノハ金庫ニ納付セシムルコトヲ得

前項ニ依リ金庫ニ納付セシムル場合ニ於テハ納人ニ對シ納入告知書ヲ發スヘシ

第九條　歳入金徴收ノ際拂込通知書ノ發行ヲ不便トスルモノハ便宜主務ノ官吏ヲシテ即納通知書ヲ發シ直ニ出納官吏ヲシテ之ヲ領收セシムヘシ

第十條　驛、荷客扱所、營業所、ホテル、列車竝船舶等ニ於テ收入スル歳入金ハ出納官吏若ハ出納員ヲシテ直ニ之ヲ領收セシムヘシ

第十一條　國庫內移換ノ手續ニ依リ直ニ本會計ノ歳入トナルヘキモノニ付テハ金庫ヨリ之カ移換ノ通知書ヲ受領シタルトキヲ以テ其受入ヲ爲シタルモノトス

帝國鐵道會計規則第九條ノ繰替拂資金ニ付テハ出納官吏金庫ヨリ雜部金保管證書ヲ受領シタルトキヲ以テ其受入ヲ爲シタルモノトス

第十二條　主任出納官吏第十四條但書又ハ第十五條ノ規定ニ依リ案內仕拂請求書、集合仕拂請求書若ハ送金仕拂請求書ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト同額ノ歳入金振替拂込書若ハ繰替拂資金振替戻入書ヲ調製シ雜部保管金引出切符ニ「振替」ノ印ヲ押捺シタルモノト共ニ該請求書ニ添付シテ之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ第十五條ノ集合仕拂請求書ニハ雜部保管金引出切符ノ添付ヲ要セス

前項ノ場合ノ外總裁ノ命令ナクシテ歳入金ノ拂込若ハ繰替拂資金ノ戻入ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　歳入徴收官ニ於テ毎月報告スル徴收報告書ニハ歳入金月計對照表ヲ添付スヘシ

第三章　支出

第十四條　仕拂命令官繰替拂ノ手續ニ依ラサル歳出金ノ支出ヲ要スルトキハ案內仕拂請求書、集合仕拂請求書又ハ送金仕拂請求書ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ仕拂元受金ノ現存セサルトキハ之ヲ所屬主任出納官吏ニ交付スヘシ

第十五條　仕拂命令官繰替拂金額ニ對シ歳出金支出ノ手續ヲ爲サントスルトキハ集合仕拂請求書ニ「振替」ノ印ヲ押捺シ仕拂證明書ヲ添付シテ之ヲ所屬主任出納官吏ニ交付スヘシ

第十六條　主任出納官吏第十四條及第十五條ノ仕拂請求書ニ對シ金庫ヨリ領收證ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該仕拂命令官ニ提出スヘシ

第十七條　仕拂命令官ハ左ニ揭ケタルモノヲシテ帝國鐵道會計規則第二條ニ依ル繰替拂傳票ヲ發セシムルコトヲ得

一　計理部會計課長
一　管理局計理課長
一　出張所計理掛長
一　建設事務所長
一　出納事務所長
一　管理局出張所長
一　其ノ他特ニ大臣ノ承認ヲ經タル官吏

前項ノ官吏ヲシテ繰替拂傳票ヲ發セシメントスルトキハ仕拂命令官ハ其ノ令達ヲ受ケタル毎年度仕拂豫算ノ範圍內ニ於テ適宜配付額ヲ定メ定額豫算トシテ之ヲ各官吏ニ通達スヘシ

前項ノ通達ヲ受ケタル官吏ハ仕拂命令官ノ例ニ準シ之カ執行ノ責ニ任スヘシ

第十八條　繰替拂傳票ハ歳出科目ノ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第十九條　毎年度所屬歳出金ノ繰替拂傳票ヲ發スルハ翌年度五月二十五日限トス

第二十條　出納官吏ニ於テ毎年度所屬歳出金ノ繰替拂ヲ執行シ及其定額戻入ヲ爲スハ翌年度五月三十一日限トス

第四章　決算

第二十一條　總裁ハ帝國鐵道會計各勘定ニ屬スル歳入歳出決定計算書貸借對照表、損益計算表竝資本及固定財產價格增減表ヲ調製シ翌年度七月三十一日マテニ之ヲ大臣ニ提出スヘシ

第五章　帳簿

第二十二條　總裁ハ歳出豫算簿、歳出仕拂豫算內譯簿、金庫主任出納官吏內譯簿、仕拂元受金差引簿ヲ備フヘシ

第二十三條　歳入徴收官及歳入徴收ノ事務ヲ分掌スル官吏ハ定期收入元帳、徴收整理簿ヲ備フヘシ

第二十四條　仕拂命令官ハ歳出仕拂豫算差引簿、定額豫算內譯簿、仕拂元受金差引簿ヲ備フヘシ

第二十五條　繰替拂命令官ハ定額豫算差引簿、繰替拂日別簿ヲ備フヘシ

第二十六條　主任出納官吏ハ保管金內譯簿、勘定別內譯簿、分任出納官吏內譯簿ヲ備フヘシ

附則

本規程ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

本規程施行ニ伴フ細則及本規程ニ揭クル帳簿書類ノ樣式ニシテ別ニ其ノ定メナキモノハ總裁之ヲ定ムヘシ

第7727号　本文

第7727号 本文

陸達第十九號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十二年四月一日 陸軍大臣 子爵寺内正毅

第十七條ノ二 在勤加俸ノ始期及終期ハ左ノ區分ニ依ル

一 赴任スル者ハ在勤地ニ到著ノ日、在勤地ニ於テ新ニ採用ノ者ハ就職ノ日ヨリ

二 轉任轉職スル者ハ在勤地出發ノ日、休職停職豫備役後備役退役廢官退官免官免役死亡等ノ爲離職スル者ハ發令若ハ死亡ノ日迄但シ事務引繼ノ場合ニ在リテハ俸給支給ノ期間ニ伴フ

第十七條ノ三 在勤加俸ハ特ニ規定アルモノノ外左ノ期間其ノ支給ヲ停止ス

一 請願休暇若ハ轉地療養等ニ依リ北海道ノ地ヲ離ルル者ハ在勤地出發ノ翌日ヨリ歸著ノ前日迄

二 修學ノ爲内地ノ學校若ハ軍隊等ニ派遣スル者ハ入校若ハ入隊ノ日ヨリ復歸ヲ命セラレタル日迄

三 生死不明ト爲リタルトキハ其ノ翌日ヨリ歸投ノ前日迄

軍屬ニ在リテハ前項ノ外法令ノ規定ニ依リ俸給若ハ給料ヲ減抑又ハ停止スル間在勤加俸亦之ニ伴フモノトス

第三十四條ノ二ニ左ノ一項ヲ加フ

退營賜金ノ定額ヲ異ニスル二地以上相互間ノ轉任者ニシテ退營賜金支給上ノ在營年數五年ニ滿タサル者ハ始メテ五年ニ達シタル地ノ額ニ依リ在營年數五年以上ニ達シタル者ハ前任地ニ於ケル在營年數ニ相當スル額ニ新任地ニ於ケル在營年數ニ對シ各年次ニ増加スル額ヲ加算シタル額ヲ併セ給ス

第四十九條第二號中「百分ノ十三」ヲ「百分ノ八」ニ改メ第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 醬油越幾斯ヲ給スルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ十三ヲ減シタル額

第五十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

一年志願兵及幼年學校自費生、半特待生ノ糧食ハ營内居住ノ下士兵卒ノ例ニ依リ給與ス但シ一年志願兵及幼年學校自費生ニ在リテハ其ノ費用ノ全額、半特待生ニ在リテハ賄料ヲ一年志願兵及自費生諸費ヨリ支辨スヘシ

第五十三條第七號中「見習獸醫官」ノ下ニ「及一年志願兵」ヲ加フ

第五十四條ニ左ノ一號ヲ加フ

三 前二號ノ年額ハ中央及地方幼年學校生徒ニ在リテハ總テ特待生ノ年額ニ依ル

第五十六條中「及諸學校」ヲ「諸學校及被服廠」ニ改ム

第七十一條 一年志願兵及幼年學校自費生半特待生ニ要スル被服ハ一年志願兵ニ在リテハ其ノ費用ノ全額、幼年學校自費生及半特待生ニ在リテハ各別ニ定ムル年額ト特待生年額トノ差額ヲ一年志願兵及自費生諸費ヨリ支辨スヘシ

第七十五條ノ二第三種馬中「及其ノ他ノ乘馬」ヲ削リ第四種馬中「獸醫學校病馬廠入廠中ノ病馬」ノ下ニ「及其ノ他ノ乘馬」ヲ加フ

第七十八條但書中「定額」ヲ「同表定額(裝蹄料ニ在リテハ月額四十九錢)」ニ改ム

第二表 生徒被服

品目	區別	在校中貸與數 初年	二年	三年	四年	保存期限
第一種帽	戸山學校軍樂生徒	一				
第二種帽	中央幼年學校生徒 砲兵工科學校候補生徒	一				
	地方幼年學校生徒	一		一		
絨衣袴	中央幼年學校生徒 戸山學校軍樂生徒 砲兵工科學校候補生徒	一				
	地方幼年學校生徒	一		一		
日覆	戸山學校軍樂生徒		一			
夏衣袴	中央幼年學校生徒	二				
	地方幼年學校生徒	二	一			
	戸山學校軍樂生徒 砲兵工科學校候補生徒		二			
外套	中央幼年學校生徒 地方幼年學校生徒 戸山學校軍樂生徒 砲兵工科學校候補生徒	一				
冬作業衣袴	中央幼年學校生徒 戸山學校軍樂生徒	一				
	地方幼年學校生徒	二	一			
	砲兵工科學校候補生徒	二				
襟布	中央幼年學校生徒 砲兵工科學校候補生徒	一	二	一		
	戸山學校軍樂生徒	一	二			
	地方幼年學校生徒	二	二	二		
襦袢袴下	中央幼年學校生徒	三	二			
	地方幼年學校生徒	四	二	二		
	戸山學校軍樂生徒	二	一			
	砲兵工科學校候補生徒	二	二	一		
手套	中央幼年學校生徒	一	一			
編上靴	中央幼年學校生徒	二	二			
	戸山學校軍樂生徒	一	一			
	砲兵工科學校候補生徒	一	二	一		
	地方幼年學校生徒	三	二	二		
卷脚絆	中央幼年學校生徒 戸山學校軍樂生徒 砲兵工科學校候補生徒	一				
	地方幼年學校生徒	一		一		
靴下	中央幼年學校生徒	一四	二四	四		
	戸山學校軍樂生徒	八	一六			
	砲兵工科學校候補生徒	八	二四	一六		
	地方幼年學校生徒	一四	二四	二四	一〇	
革脚絆	中央幼年學校生徒					一 三年
拍車	中央幼年學校生徒					一 六年
作業衣袴	砲兵工科學校候補生徒					一 二年
軍隊手牒	中央幼年學校生徒 地方幼年學校生徒 戸山學校軍樂生徒 砲兵工科學校候補生徒					一
背嚢	中央幼年學校生徒					一 六年
被服手入具(絨刷、靴刷、洗濯刷、塵刷、燕口袋、麻袋、燒脂器、鋏、錐、絲卷、縫針)	中央幼年學校生徒 砲兵工科學校候補生徒 地方幼年學校生徒 戸山學校軍樂生徒					一 三年
寢具 厚毛布(一四枚一組)	中央幼年學校生徒 砲兵工科學校候補生徒 地方幼年學校生徒 戸山學校軍樂生徒					一 十九年
寢具 包布	同上					一 十年
寢具 蒲團	同上					一 九年
寢具 敷布(二枚一組)	同上					一 四年
寢具 枕	同上					一 九年
寢具 蚊帳	同上					一 十七年
防寒具 厚毛布(二枚一組)	仙臺地方幼年學校生徒					一 三十年
防寒具 毛「メリヤス」靴下	中央幼年學校生徒 砲兵工科學校候補生徒	二	二			
	戸山學校軍樂生徒	一				
	地方幼年學校生徒(仙臺ヲ除ク)	一	一	一		
	仙臺地方幼年學校生徒	二	二	二		

備考

一 中央幼年學校生徒中ニハ豫科生徒ヲ除キ同豫科生徒ハ地方幼年學校生徒ト同一トス

二 幼年學校自費生ニ在リテハ本表中背嚢、被服手入具、寢具ヲ除ク外ノ被服ハ一年志願兵及自費生諸費ヨリ支辨スルモノトス

三 地方幼年學校半特待生ニ在リテハ本表中冬作業衣袴、襟布、襦袢袴下、編上靴、卷脚絆、靴下、毛「メリヤス」靴下、中央幼年學校半特待生ニ在リテハ同上ノ諸品並手套、革脚絆、拍車ヲ一年志願兵及自費生諸費ヨリ支辨スルモノトス

第三表 備附被服

品目	歩兵聯隊	騎兵聯隊 甲	騎兵聯隊 乙	野砲兵聯隊	山砲兵大隊	工兵大隊	輜重兵大隊	重砲兵聯隊 第一、第二、第五、第六	重砲兵聯隊 第三	重砲兵聯隊 第四	重砲兵大隊 佐世保、對馬	重砲兵大隊 基隆、馬公、長崎、舞鶴、函館	對馬警備隊	鐵道聯隊	電信大隊	氣球隊	懲治隊	士官學校
厚毛布 一四枚一組	一四	七	五	八	五	五	四	七	一一	八	五	四	四	一四	七	二	二	七
厚毛布 一六枚一組																		
包布	一四	七	五	八	五	五	四	七	一一	八	五	四	四	一四	七	二	二	七
蒲團	七〇	二八	二〇	二九	一五	二一	二三	二九	四一	三四	一八	一三	一一	六七	三三	六	一〇	四一
敷布(二枚一組)	一四	七	五	八	五	五	四	七	一一	八	五	四	四	一四	七	二	二	七
枕																		
蚊帳	七〇	二八	二〇	二九	一五	二一	二三	二九	四一	三四	一八	一三	一一	六七	三三	六	一〇	四一
大蒲團																		
大枕																		
大蚊帳																		
單病衣																		
袷病衣																		
綿入病衣																		
襯衣																		
帶																		
狂病衣																		
散歩笠																		
上靴																		
調馬袴																		
體操頭巾																		
體操腹卷																		
體操袴																		
擊劍腹卷																		
擊劍衣袴																		

名稱	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
中央幼年學校	四		四	二四	四		二四											七八〇		
地方幼年學校	一		一	六	一		六											一五六		
戸山學校	一〇		一〇	五〇	一〇		五〇											四一二	三〇一	四一二
騎兵實施學校	三		三	五	三		五										一三九	四二		
野戰砲兵射擊學校	四		四	二	四		二													
重砲兵射擊學校	五	一三	一八	一二	一八	五	一二	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一	四	一四				
砲兵工科學校	一		一	一〇	一		一〇													
經理學校	一		一	二	一		二													
獸醫學校	一		一	一	一		一											一四六		
被服廠 本廠	三		三	一三	三		一三													
被服廠 支廠	二		二	八	二		八													
衞戍病院 東京第一	九三	七三五	八二八	九三	八二八	九三		七三五	七三五	七三五	七三五	七三五	七三五	一〇	二四五	八二八				
衞戍病院 廣島	七七	三八四	四六一	七七	四六一	七七		三八四	三八四	三八四	三八四	三八四	三八四	七	一二八	四六一				
衞戍病院 大阪	三六	二二八	二六四	三六	二六四	三六		二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	四	七六	二六四				
衞戍病院 名古屋、熊本、小倉	三四	二二八	二六二	三四	二六二	三四		二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	四	七六	二六二				
衞戍病院 久留米	三三	二二八	二六一	三三	二六一	三三		二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	四	七六	二六一				
衞戍病院 仙臺	三四	二四〇	二七四	三四	二七四	三四		二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	五	八〇	二七四				
衞戍病院 旭川	二九	二九八	三二七	二九	三二七	二九		二九八	二九八	二九八	二九八	二九八	二九八	五	九九	三二七				
衞戍病院 弘前、宇都宮	三一	二〇四	二三五	三一	二三五	三一		二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	四	六八	二三五				
衞戍病院 姫路	三二	二〇四	二三六	三二	二三六	三二		二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四	四	六八	二三六				
衞戍病院 金澤	三三	二一六	二四九	三三	二四九	三三		二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	四	七二	二四九				
衞戍病院 善通寺、京都、岡山	一七	一五六	一七三	一七	一七三	一七		一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	四	五二	一七三				
衞戍病院 東京第二	一七	一三二	一四九	一七	一四九	一七		一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	四	四四	一四九				
衞戍病院 高田	一五	一三二	一四七	一五	一四七	一五		一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	四	四四	一四七				
衞戍病院 豐橋	三八	二六四	三〇二	三八	三〇二	三八		二六四	二六四	二六四	二六四	二六四	二六四	五	八八	三〇二				
衞戍病院 習志野	一三	一二〇	一三三	一三	一三三	一三		一二〇	一二〇	一二〇	一二〇	一二〇	一二〇	四	四〇	一三三				
衞戍病院 福知山、水戸	九	九〇	九九	九	九九	九		九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	二	三〇	九九				
衞戍病院 國府臺	一〇	八八	九八	一〇	九八	一〇		八八	八八	八八	八八	八八	八八	二	二九	九八				
衞戍病院 歩兵一聯隊所在地	七	七八	八五	七	八五	七		七八	七八	七八	七八	七八	七八	二	二六	八五				
衞戍病院 横須賀、盛岡	九	六五	七四	九	七四	九		六五	六五	六五	六五	六五	六五	二	一三	七四				
衞戍病院 下關	九	六〇	六九	九	六九	九		六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	二	二〇	六九				
衞戍病院 下志津	六	五二	五八	六	五八	六		五二	五二	五二	五二	五二	五二	二	一七	五八				
衞戍病院 千葉	五	四六	五一	五	五一	五		四六	四六	四六	四六	四六	四六	二	一五	五一				
衞戍病院 高槻、小千谷	三	三〇	三三	三	三三	三		三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	二	一〇	三三				
衞戍病院 深山	五	三〇	三五	五	三五	五		三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	二	一〇	三五				
衞戍病院 忠海、函館、舞鶴、鷄知、嚴原、佐世保、長崎	三	二五	二八	三	二八	三		二五	二五	二五	二五	二五	二五	二	八	二八				
衞戍病院 由良	五	二五	三〇	五	三〇	五		二五	二五	二五	二五	二五	二五	二	八	三〇				
保存期限	十九年	十年	九年	四年	九年	十七年	十年	九年 十七年	二年	四年	四年	二年	二年	三年	二年	一年	三年	三年	三年	三年

備考

一　懲治隊、諸學校及被服廠ニハ本表ノ外分遣者ハ入校中營内ニ居住セシムヘキ下士以下ノ人員ニ應シ第一表ノ寢具ヲ備附ク其ノ保存期限ハ第一表ニ依ル

二　戸山學校備附品中ニハ軍樂生徒隊用三組ヲ含ム

三　各隊及諸學校（重砲兵射擊學校ヲ除ク）備附品ハ宿番用及休養室用（寢具ハ蒲團トス）

四　重砲兵射擊學校備附品ハ宿番用休養室用（蒲團敷ノミ）患者用看護者用トス

五　病院備附品ハ患者用看護者用トス

六　獸醫學校ニハ學生用トシテ作業衣袴、革前垂各三十七箇ヲ備附ク其ノ保存期限ハ第一表ニ依ル

第八表　被服料

名稱		月額
士官候補生	歩兵	二圓二〇〇
	騎兵	二　五〇〇
	砲兵	二　四〇〇
	工兵	二　二五〇
	輜重兵	二　三〇〇
主計候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官		二　二〇〇
一年志願兵		二　五〇〇

名稱		日額
六週間現役兵		〇圓〇二四
召集中	歩砲（徒歩）工兵下士兵卒	〇　〇二四
	騎砲（乘馬）兵下士兵卒	〇　〇三一
	輜重兵下士兵卒	〇　〇三〇
	經理部、衞生部下士兵卒輸卒	〇　〇二三
	警備隊下士兵卒	〇　〇四六

備考

一　補充兵召集中ノ被服料ハ當該兵科ノ日額ニ依ル

二　見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官勤務演習召集中ノ被服料ハ當該兵科當該部下士ノ日額ニ同シ

三　見習獸醫官勤務演習召集中ノ被服料ハ衞生部下士ノ日額ニ同シ

第十一表　消耗品料

名稱			月額
歩兵	聯隊本部		一八圓二一〇　一五圓二一〇
	聯　本部		一八圓二二〇
	大隊		九四　九六〇　（七九　九六〇）
對馬警備歩兵大隊			三九　九〇〇
騎兵	甲聯隊	本部	一八　三九〇
		中隊	三五　一一〇
	乙聯隊	本部	一七　三五〇　（一三　三五〇）
		中隊	四〇　六三〇　（三五　六三〇）
野砲兵	聯隊本部		一八　〇七〇　（一六　〇七〇）
	大隊		七三　二九〇　（六一　二九〇）
山砲兵	大隊本部		一五　〇五〇
	中隊		二〇　四〇〇
輜重兵	大隊本部		一六　四一〇　（一四　四一〇）
	甲中隊		六五　八九〇
	乙中隊		五五　六三〇　（四八　六三〇）
重砲兵	隊	大隊本部	六　一六〇
		甲中隊	二一　四〇〇
		乙中隊	三三　七四〇
	大隊	佐世保、對馬	六八　四四〇
		藝豫、舞鶴、函館、長崎	四七　〇四〇
工兵	大隊本部		一二　二四〇　（一一　二四〇）
	中隊		二七　三〇〇　（二四　三〇〇）
鐵道	聯隊本部		一八　一六〇
	大隊		一〇六　六八〇
電信	大隊本部		一六　四〇〇
	中隊		二八　三六〇
氣球隊			二九　六六〇

備考

一　括弧内ノ金額ハ旭川屯在各部隊ノ定額トス

二　重砲兵聯隊ノ内他ニ分屯スル大隊ニ在リテハ本表月額ノ外ニ四圓ヲ增加ス

三　第七師團下各隊ニハ本表月額ノ外ニ洗濯場湯沸用薪炭料トシテ營内居住下士以下現員ニ應シ毎年十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ期間一人月額十五錢ヲ增加ス

第7727号　本文

第7727号 本文

第十三表　消耗品料乘率

名稱	月額 營外居住者	月額 營內居住者	一週日額 營外居住者	一週日額 營內居住者
步兵隊	〇圓一三二（〇一〇九）	〇圓一五五（〇一三二）	〇圓〇三一（〇〇二六）	〇圓〇三六（〇〇三一）
騎兵隊	〇二二七（〇一九六）	〇二五〇（〇二一九）	〇〇五三（〇〇四六）	〇〇五八（〇〇五一）
野砲兵隊	〇二一六（〇一八五）	〇二二〇（〇一八九）	〇〇五〇（〇〇四三）	〇〇五一（〇〇四四）
山砲兵隊	〇二〇八	〇二一二	〇〇四八	〇〇四九
重砲兵隊	〇一三一	〇一五一	〇〇三一	〇〇三六
工兵隊、鐵道隊、電信隊、氣球隊	〇一五〇（〇一二九）	〇一七〇（〇一四九）	〇〇三五（〇〇三〇）	〇〇四〇（〇〇三五）
輜重兵隊	〇二二三（〇一九三）	〇二四六（〇二一六）	〇〇五二（〇〇四五）	〇〇五七（〇〇五〇）

備考
一　括弧內ノ金額ハ旭川屯在各隊ニ支給スルモノトス
二　重砲兵隊中隊馬ヲ有スル中隊ハ野砲兵隊ノ額ニ依ル

第十四表　陣營具永續料

名稱		月額 營中具	月額 庖廚具	月額 厩具	月額 計
步兵	聯隊本部	一一圓七八〇	〇圓六六〇	二圓六三〇	一五圓〇七〇
步兵	大隊	四一八〇〇	二六六〇〇	〇	六八四〇〇
對馬警備步兵大隊		二七二二〇	一四七八〇	〇	四二〇〇〇
騎兵	甲聯隊 本部	五三六〇	〇二四〇	二三三〇	七九三〇
騎兵	甲聯隊 中隊	一〇六七〇	六〇八〇	五二〇四〇	六八七九〇
騎兵	乙聯隊 本部	四八五〇	〇一七〇	五八二〇	一〇八四〇
騎兵	乙聯隊 中隊	一一九五〇	六八九〇	六四三〇〇	八三一四〇
野砲兵	聯隊本部	五八九〇	〇二八〇	二八六〇	九〇三〇
野砲兵	大隊	三一二七〇	一七二七〇	八九五五〇	一三八〇九〇
山砲兵	大隊本部	三九二〇	〇一二〇	一六三〇	五六七〇
山砲兵	中隊	八三二〇	四八八〇	一五〇〇〇	二八二〇〇
輜重兵	大隊本部	四五六〇	〇二二〇	二〇二〇	六八〇〇
輜重兵	甲中隊	二二九二〇	一三五〇〇	七三六五〇	一一〇〇七〇
輜重兵	乙中隊	二〇一八〇	一一五一〇	六五五九〇	九七二八〇
重砲兵	聯隊本部	一〇八〇〇	〇九二〇	一二三〇	一二九五〇
重砲兵	大隊本部	三五一〇	〇三一〇	〇八二〇	四六四〇
重砲兵	甲中隊	一〇九九〇	五七三〇	〇	一六七二〇
重砲兵	乙中隊	一二四三〇	六四一〇	二八三〇〇	四七一四〇
重砲兵	大隊 佐世保、對馬	三四六九〇	一九二三〇	〇	五三九二〇
重砲兵	大隊 藝豫、舞鶴、函館、長崎	二七一九〇	一四二三〇	〇	四一四二〇
工兵	大隊本部	五二〇〇	〇一八〇	二五二〇	七九〇〇
工兵	中隊	一二〇一〇	七二九〇	一九二〇	二一二二〇
鐵道	聯隊本部	一二一三〇	〇五八〇	一四一〇	一四一二〇
鐵道	大隊	四一五八〇	二三四五〇	八八一〇	七三八四〇
電信	大隊本部	六八六〇	〇二八〇	一〇五〇	八一九〇
電信	中隊	一〇七六〇	六七六〇	六四〇〇	二三九二〇
氣球隊		九三五〇	五二七〇	二八二〇	一七四四〇

第十五表　陣營具永續料乘率

名稱	月額 每人 營中具	月額 每人 庖廚具	月額 每一馬 厩具	一週日額 每人 營中具	一週日額 每人 庖廚具
步兵隊	〇圓〇七一	〇圓〇四三	〇圓三七一	〇圓〇一七	〇圓〇一一
騎兵隊	〇〇七九	〇〇四三	〇三八八	〇〇一八	〇〇一〇
野砲兵隊、山砲兵隊	〇〇八〇	〇〇四七	〇四〇九	〇〇一八	〇〇一一
重砲兵隊	〇〇八六	〇〇四七	〇四〇九	〇〇一九	〇〇一一
工兵隊	〇〇七七	〇〇四三	〇三六〇	〇〇一八	〇〇一〇
輜重兵隊	〇〇八三	〇〇四七	〇四〇三	〇〇一九	〇〇一一
鐵道隊、電信隊、氣球隊	〇〇六七	〇〇四〇	〇三五二	〇〇一六	〇〇〇九

備考　營外居住ノ者ニハ庖廚具ノ金額ヲ給セス

陸達第二十號

臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治四十二年四月一日　陸軍大臣　子爵寺內正毅

第三條　本規則第六條ノ在勤加俸ノ支給法ハ陸軍給與令細則第十七條ノ二及第十七條ノ三ニ依ル但シ請願休暇若ハ轉地療養等ニ依リ臺灣ノ地ヲ離ルル者ハ在勤地（入院患者ニ在リテハ最後ノ病院所在地）出發ノ翌日ヨリ歸著ノ前日迄其ノ支給ヲ停止スルモノトス

第四條及第五條削除

第二十六條　前條ノ者ニハ在勤加俸トシテ給料ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ給ス其ノ支給法ハ陸軍給與令細則第十七條ノ二及第十七條ノ三ノ例ニ準ス

第一表　削除

第三表備考中「曹長ニシテ在職中准士官タル者ハ准士官ノ額ニ」ヲ「憲兵上等兵ハ伍長ノ額ニ」ニ改ム

第五表

地方區分	一人一日ノ額 賄料標準額	精米六合	夜食料
臺東ヨリ璞石閣ヲ經テ花蓮港ニ至ル東海岸	十五錢		六錢以下
第一區ニ屬セサル地方	十二錢		

備考
臺灣總督ハ經理部長ヲシテ地方ノ狀況ヲ酌量シ各地方ノ賄料定額ヲ定メシメ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ且經理部長ヲシテ當該官衙各隊ニ通報セシムヘシ但シ各地屯在部隊ノ人員ト本文所定ノ額トヲ以テ算定シタル一人一日ノ平均額ハ本表賄料標準額ニ超過スルヲ得ス
各衞戍病院ノ賄料ハ各其ノ所在地ノ額ニ依ル

第六表賄料ノ欄中「七錢五厘」ヲ「八錢一厘」ニ備考第三號中「金二錢五厘」ヲ「金三錢」ニ改ム

第八表　下士兵卒被服

品目	憲兵科 下士兵卒		步兵科 下士兵卒	砲兵科 山砲 下士兵卒	砲兵科 重砲 下士兵卒	木、鍛工長	騎砲、輜鐵工長	經理部 計手	經理部 工長（縫、靴）	衞生部 下士兵卒	保存期限
第二種帽		一	一	一	一	一	一	一	一	一	二年
絨衣袴		一	一	一	一	一	一	一	一	一	二年七月
夏衣袴		一	一	一	一	一	一	一	一	一	十月
外套		一	一	一	一	一	一	一	一	一	六年十月
夏外套	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二年
雨覆		一									五年十月
冬作業衣袴			一	一	一	一	一	一	一	一	一年六月
襟布			一	一	一	一	一	一	一	一	一年三箇
襦袢袴下			一	一	一	一	一	一	一	一	一年三組
手套				一							一年二組
靴下			一	一	一	一	一	一	一	一	一年二十四組
編上靴			一	一（徒）	一	一	一	一	一	一	一年二組
半長靴			一	一（騎）							
巻脚絆			一	一（徒）	一	一	一	一	一	一	一年
革脚絆				一（徒）							三年
拍車				一							十二年
作業衣袴				一	一						三年
革前垂							一				二年
軍隊手牒			一	一	一					一	期限ヲ定メス
背嚢			一	一	一						七年
背嚢						一	一	一		一	十二年
背負袋	一	一									二年
雜嚢			一		一						六年
革雜嚢	一	一									八年
飯盒、水筒	一	一	一	一	一	一	一			一	二十年
被服手入具（絨刷、靴刷、洗濯刷、磨刷、燕口袋、麻袋、煉脂器、鋏、縫絲巻、絲、針）			一	一	一	一	一	一	一	一	三年
寢具 厚毛布一組四枚											二十年
寢具 包布											十年
寢具 蒲團			一	一	一	一	一	一	一	一	九年
寢具 敷布一組二枚											三年
寢具 枕											六年
寢具 蚊帳											四年
特種被服 帽用垂布	一	一	一	一	一	一	一	一		一	三年
特種被服 本小絨襦袢、同腹巻			一	一	一	一	一	一	一	一	一年
特種被服 携帯天幕	一	一	一	一	一	一	一	一		一	六年
特種被服 防蚊手套、防蚊覆面			一	一	一						二年

第7727号 本文

備考

一　蹄鐵工長ニシテ作業衣袴、其ノ營外者ニシテ革前垂ノ必要アルトキハ所屬部隊ノ貯藏品ヲ應用セシム
二　各兵科蹄鐵工卒ニハ革前垂一箇ヲ加フ
三　營外居住下士ニハ必要ニ應シ各隊貯藏品ヲ以テ背嚢、飯盒、水筒及携帶天幕ヲ貸與スルコトヲ得
四　本表中數字ノ肩ニ乘トアルハ乘馬、徒トアルハ徒歩ヲ示スモノトス

第九表　備附被服

品目		區分	步兵聯隊	山砲兵隊	重砲兵隊	臺北衞戍病院	臺南衞戍病院	基隆衞戍病院	澎湖島衞戍病院	保存期限
寢具	厚毛布 四枚一組	宿番用看護者用	一四	二	四	一〇	九	三	二	二十年
	厚毛布 六枚一組	患者用				二六〇	二二〇	四〇	四〇	二十年
	包布	宿番用看護者用患者用	一四	二	四	二七〇	二二九	四三	四二	十年
	蒲團	宿番用看護者用休養室用	三三	一〇	一八	一〇	九	三	二	九年
	大蒲團	患者用				二六〇	二二〇	四〇	四〇	九年
	敷布 二枚一組	宿番用看護者用患者用	一四	二	四	二七〇	二二九	四三	四二	三年
	枕	宿番用看護者用	一四	二	四	一〇	九	三	二	六年
	大枕	患者用				二六〇	二二〇	四〇	四〇	六年
	蚊帳	宿番用看護者用休養室用	三三	一〇	一八	一〇	九	三	二	六年
	大蚊帳	患者用				二六〇	二二〇	四〇	四〇	六年
病衣	單病衣					三〇〇	二六〇	五〇	五〇	一年六月
	袷病衣					三〇〇	二六〇	五〇	五〇	三年
	綿入病衣					四〇	一五	八	四	四年
	襯衣					三〇〇	二六〇	五〇	五〇	一年
	帶					三〇〇	二六〇	五〇	五〇	二年
	狂病衣					八	八	二	二	三年
散步笠						八七	七三	一三	一三	二年
上靴		看護者用患者用				二七〇	二二九	四三	四二	一年

第十四表

名稱	被服料 甲額	被服料 乙額
看守 醫守	三十九圓八十七錢	十三圓八十六錢
看病人 守醫	三十一圓九錢	十二圓九錢
給仕 小使	二十一圓九十九錢	十一圓五十七錢
馬丁	十二圓二十錢	八圓九十八錢
備考	初メテ採用若ハ傭入ノトキハ甲額ヲ給シテ新調セシメ爾後滿一年毎ニ乙額ヲ給シテ保續セシム	

陸達第二十一號

滿洲韓國樺太駐箚陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十二年四月一日　陸軍大臣　子爵寺內正毅

第六條　本令第四條ノ通譯加俸ハ其ノ技能ニ應シ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス但シ通譯加俸ヲ受クル者ノ定員竝通譯ヲ命スル手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

一等　日常對話ニ差支ナキ者　一圓二十錢

二等　日常對話ニ稍通スル者　八十錢

通譯加俸ハ通譯ヲ命シタル翌日ヨリ之ヲ免シタル前日（死亡ノ者ハ其ノ當日）迄之ヲ給ス

第十七條第二項ヲ削ル

第二十八條　防寒用薪炭ノ焚方期限及標準額ハ第九表ノ甲及乙ニ依ル但シ宿舍ニ要スル防寒用薪炭ハ總テ代金ヲ以テ之ヲ給ス

第二表賄料ノ欄中「十二錢」ヲ「十二錢六厘」ニ備考第三號中「二錢五厘」ヲ「金三錢」ニ改ム

第四表　下士以下被服

品目	貸與區分	在勤ノ者 貸與數	在勤ノ者 保存期限
第一種帽	樂手補	二箇	二年
前立		一箇	七年
第二種帽	憲兵上等兵、營內居住下士兵卒	二箇	三年
絨衣袴	憲兵上等兵、樂手補、營內居住下士兵卒	三箇	四年六月
日覆	樂手補	二箇	三年
夏衣袴	憲兵上等兵、樂手補、營內居住下士兵卒	二組	三年
外套		一箇	五年六月
夏外套	憲兵上等兵、營內居住下士兵卒	一箇	三年
雨覆	憲兵上等兵	一箇	五年
冬作業衣袴	營內居住下士兵卒	一組	一年
襟布		三箇	一年三箇
襦袢袴下		五組	夏二年三組 冬一年一組
靴下		三組	一年二十四組
編上靴		二組	一年三組
卷脚絆		二組	一年一組
作業衣袴	營內居住重砲兵兵卒、蹄鐵工卒	一組	二年
同頭巾		一箇	二年
革前垂	營內居住蹄鐵工長、同工卒	一箇	二年
軍隊手牒	營內居住兵卒	一箇	期限ヲ定メス
背嚢	營內居住下士兵卒	一箇	七年
背負袋	憲兵下士上等兵	一箇	四年
雜嚢	營內居住下士兵卒	一箇	六年
革雜嚢	憲兵下士上等兵、樂手、樂手補	一箇	八年
飯盒	下士兵卒	一箇	十年
水筒		一箇	十年
被服手入具（絨刷、靴刷、洗濯刷、磨刷、燕口袋、麻袋、燐脂器、鋏、錐、絲、卷絲、針）	營內居住下士兵卒	一組	二年

備考

一　紺絨製第二種帽及憲兵第一種帽ヲ著用スル者ニハ日覆ヲ貸與ス
二　現在スル憲兵第一種帽、短靴、工兵靴及麻脚絆ハ之ヲ第二種帽編上靴及卷脚絆ノ貸與數ニ加ヘ應用スルモノトス
三　背嚢、背負袋、飯盒、水筒及携帶天幕ハ營外居住者ニ在リテハ必要ノ際ニ限リ貸與スルモノトス
四　本表貸與數ハ一人ニ對スル員數ヲ示スモノニシテ補給被服ニ對スル金額算出ノ基準トス但シ在庫品ノ都合ニ依リ其員數ヲ增減スルコトヲ得
五　獨立守備大隊附各兵科下士卒ノ被服ハ總テ步兵ニ同シ

第五表　備附被服

品目		使用區分	一人ニ對スル員數	定數 步兵聯隊	騎兵聯隊	砲兵聯隊	工兵大隊	樺太守備步兵大隊	獨立守備大隊	旅順重砲兵隊	鎭海灣重砲兵隊	關東衞戍病院 旅順	關東衞戍病院 遼陽 鐵嶺	韓國駐箚衞戍病院 京城	韓國駐箚衞戍病院 鏡城	韓國駐箚衞戍病院 平壤 會寧	樺太守備隊病院	其他部隊	保存期限
寢具 厚毛布	六枚一組	下士兵卒雇員傭人（軍役夫ヲ除ク以下同シ）用	一組	下士兵卒雇員傭人ノ定員（定員ナキモノハ現員以下同シ）ニ對スル員數															十三年
		宿番用看護者用		一四	五	八	五	六	七	七	四	一九	一八	一七	一五	四	三		十三年
	八枚一組	患者用										三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八		十三年
包布		下士兵卒雇員傭人用	一箇	下士兵卒雇員傭人ノ定員ニ對スル員數															八年
		宿番用看護者用患者用		一四	五	八	五	六	七	七	四	三四四	二九四	二五〇	二四八	八四	六一		八年
蒲團		下士兵卒雇員傭人用	一箇	下士兵卒雇員傭人ノ定員ニ對スル員數															八年
		宿番用看護者用休養室用		八七	三四	五〇	二六	三一	四九	三九	一六	一九	一八	一七	一五	四	三		八年
大蒲團		患者用										三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八		八年
敷布	二枚一組	下士兵卒雇員傭人用	一組	下士兵卒雇員傭人ノ定員ニ對スル員數															三年
		宿番用看護者用患者用		一四	五	八	五	六	七	七	四	三四四	二九四	二五〇	二四八	八四	六一		三年
大枕		患者用										三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八		六年
枕		下士兵卒雇員傭人用	一箇	下士兵卒雇員傭人ノ定員ニ對スル員數															六年
		宿番用看護者用		一四	五	八	五	六	七	七	四	一九	一八	一七	一五	四	三		六年
蚊帳		下士兵卒雇員傭人用	一箇	下士兵卒雇員傭人ノ定員ニ對スル員數															五年
		宿番用看護者用休養室用		八七	三四	五〇	二六	三一	四九	三九	一六	一九	一八	一七	一五	四	三		五年
大蚊帳		患者用										三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八		五年

第7727号 本文

品目	區分	數														保存期限
病衣 單病衣	患者用		八	四	六	三		六	五	二	三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八	一年六月
同 袷病衣			八	四	六	三		六	五	二	三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八	三年
同 綿入病衣			八	四	六	三		六	五	二	三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八	四年
同 襯衣			八	四	六	三		六	五	二	三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八	一年
同 帶			八	四	六	三		六	五	二	三二五	二七六	二三三	二三三	八〇	五八	二年
同 狂病衣											七	六	五	五	二	二	三年
散步笠											一一〇	九〇	八〇	八〇	三〇	二〇	二年
上靴	患者用看護者用										三一四	二九四	二五〇	二四八	八四	六一	一年
革脚絆	乘馬下士兵卒用	一組						四八									二年
拍車		一組						四八									六年
手套		一組						四八									二月
特種被服 携帶天幕	下士兵卒用	一箇	下士兵卒ノ定員ニ對スル員數														六年
同 帽用垂布		一箇															三年
同 本小絨腹卷	營內居住下士兵卒用	一箇	營內居住下士兵卒ノ定員ニ對スル員數														一年
同 防寒用外套（頭巾手套附）	准士官以上下士兵卒軍屬（府夫馬丁及翼役夫ヲ除ク）用	一組	准士官以上下士兵卒軍屬ノ定員ニ對スル員數														五年
同 同襦袢袴下		一組															二年
同 同手套		二組															一年
同 同靴下		二組															一年
同 同毛皮胴著		一箇															五年
同 綿入法被	府夫馬丁用	一箇	府夫馬丁ノ定員ニ對スル員數														三年
同 同頭巾		一箇															三年
同 同股引		一箇															三年
同 同手套		一組															三年

備考

一 本表ノ被服ハ使用區分ニ依リ貸與スルモノトス

二 本表ノ蚊帳ハ一人寢ノモノヲ以テ算ス二人寢以上ノモノヲ用ウルトキハ之ニ應シテ箇數ヲ減スヘシ

三 本表ノ定數ヲ以テ新調補修ニ係ル金額算出ノ基準トス但シ其ノ員數ハ在庫品ノ都合ニ依リ增減スルコトヲ得

四 關東衞戍病院及韓國駐箚病院ノ定數ハ關東都督及韓國駐箚軍司令官ニ於テ必要ニ應シ各其ノ所管內ヲ通シテ流用スルコトヲ得

五 駐箚師團及樺太步兵隊ノ爲駐箚地ニ備附ノ被服ハ其ノ各部隊ニ於テ保管スルモノトス

第七表帽ノ欄中馬丁ノ區畫ニ「一箇」ヲ加ヘ笠ノ欄ヲ削リ備考第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 馬丁ノ帽及外套ノ製式ハ守衞ニ準ス

第九表甲 兵營廳舍防寒用薪炭焚方期限及標準額

駐箚地	焚方期限	一日一箇ノ標準額 煖爐	大代用火鉢	小代用火鉢
滿洲韓國	自十月一日至五月十日	二十七錢	十八錢	十一錢
樺太	自九月十一日至五月三十一日			

備考 長官ハ地方ノ狀況ニ應シ本表標準額內ニ於テ適宜薪炭ノ定量ヲ定メ焚方期限ヲ伸縮スルコトヲ得
但シ煖爐及代用火鉢備附數ト本表標準額トニ依リ算出シタル金額ヲ超過スルヲ得ス

第九表乙 宿舍防寒用薪炭焚方期限及標準額

駐箚地	焚方期限	一人一日ノ標準額 將官同相當官高等官二等以上	上長官同相當官高等官三等以下同五等以上	士官同相當官高等官六等以下竝奏任待遇者	准士官試補	下士以下判任官同待遇者以下
滿洲韓國	自十月一日至五月十日	一圓二十錢	七十錢	四十錢	三十錢	二十錢
樺太	自九月十一日至五月三十一日					

備考 長官ハ地方ノ狀況ニ應シ本表標準額ヲ目途トシテ適宜增減シ焚方期限ヲ伸縮スルコトヲ得但シ現在人員ト本表標準額トニ依リ算出シタル金額ヲ超過スルヲ得ス

陸達第二十二號

清國駐箚陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十二年四月一日 陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外增給ノ支給法ハ滿洲韓國樺太駐箚陸軍部隊給與令細則第十一條及第十二條ヲ準用ス

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

雇員及傭役者ニハ臺灣島及澎湖島駐箚陸軍部隊給與規則細則第二十六條ノ在勤加俸ハ之ヲ給セス

第一表

品目	區分	携行數 平時所持品	新品	補塡數	駐箚地交付數
第二種帽	下士兵卒	一	一	一	一年ニ一箇
絨衣袴		一			
外套		一			
雨覆	憲兵下士兵卒		一	一	三年ニ一箇
襯布	下士兵卒	一	二	二	一年ニ三箇
襦袢袴下 夏		一	二	二	六月ニ一組
襦袢袴下 冬		一	二	二	六月ニ一組
編上靴	徒步下士兵卒（憲兵科ヲ除ク）	一	二	二	四月ニ一組
半長靴	憲兵下士兵卒	一	一	一	六月ニ一組
卷脚絆	徒步下士兵卒（憲兵科ヲ除ク）	一	一	一	一年ニ一組
靴下	下士兵卒		二四	二四	一年ニ二組
背嚢	步兵衞生部下士兵卒、諸工長、計手	一		四分一	四年ニ一箇
麻雜嚢	步兵下士兵卒	一		四分一	四年ニ一箇
被服手入具	下士兵卒	一		四分一	四年ニ一組
飯盒		一		十分一	十年ニ一箇
水筒		一		十分一	十年ニ一箇
携行毛布	憲兵下士兵卒		一	一	十年ニ一箇
	下士兵卒（憲兵科ヲ除ク）		一	十分一	十年ニ一箇

備考

一 被服自辨者ノ携行品中背嚢、飯盒、水筒及新品ハ所屬部隊若ハ最寄軍隊ヨリ之ヲ交付シ其ノ交付シタル全數ノ補塡ハ當該部隊ヨリ順序ヲ經テ陸軍省ニ請求スヘシ

二 臨時交代者ニシテ夏期出發ノ者ハ本表ノ外平時所持ノ夏衣袴ヲ著裝セシムヘシ

三 定期交代者ニ在リテハ携行品ヲ以テ駐箚間應用セシメ常置部隊附ノ者ニ在リテハ携行品ニ繼續シテ駐箚地交付數ニ依リ追次貸與ス

第二表

品目	區分	定數 駐屯軍司令部	天津駐屯步兵隊	北京駐屯步兵隊	駐屯軍病院	運輸部太沽出張所	保存期限
革雜嚢	憲兵下士上等兵	二四					四年
認識票	下士兵卒	六八	二九九	一五二	五	二	
携帶天幕		六八	二九九	一五二	五	二	三年
寢具 厚毛布（一六枚）	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人磨工從卒及馬代用者炊夫患者用	九七	三一五	一六四	七九	四	十年
包布	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人磨工從卒及馬代用者炊夫患者用	九七	三一五	一六四	七九	四	五年
大蒲團	患者用				五〇		五年
蒲團	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人磨工從卒及馬代用者炊夫	九七	三一五	一六四	二九	四	五年
敷布（一二組枚）	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人磨工從卒及馬代用者炊夫患者用	九七	三一五	一六四	七九	四	二年
大枕	患者用				五〇		三年
枕	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人磨工從卒及馬代用者炊夫	九七	三一五	一六四	二九	四	三年
大蚊帳	患者用				五〇		五年
蚊帳	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人磨工從卒及馬代用者炊夫	九七	三一五	一六四	二九	四	五年

陸達第二十二號

陸軍軍醫部官等改正

明治四十二年四月一日　陸軍大臣　子爵寺内正毅

第一表

官等	甲俸	乙俸
守正	三十九圓四十二錢	十三圓六十八錢
守醫	三十圓六十四錢	十圓二十錢
軍醫正	二十五圓五十錢	十圓十錢
軍醫	二十一圓五十四錢	九圓七十錢
軍醫副	十七圓四十錢	七圓五十錢

陸達第二十三號

陸軍軍醫部官等改正

明治四十二年四月一日　陸軍大臣　子爵寺内正毅

第一表

官等	甲俸	乙俸
守正	三十九圓四十二錢	十三圓六十八錢
守醫	三十圓六十四錢	十圓二十錢
軍醫正	二十五圓五十錢	十圓十錢
軍醫	二十一圓五十四錢	九圓七十錢
軍醫副	十七圓四十錢	七圓五十錢

陸達第二十四號

陸軍衛戍條例中左ノ通改正ス

明治四十二年四月一日　陸軍大臣　子爵寺内正毅

陸軍衛戍條例中改正

改正前	改正後
第一條　陸軍大臣ハ天皇ノ命ヲ承ケ陸軍ノ軍隊及諸部ヲ統轄シ軍政軍令ノ事務ヲ掌理ス	第一條　陸軍大臣ハ天皇ノ命ヲ承ケ陸軍ノ軍隊及諸部ヲ統轄シ軍政軍令ノ事務ヲ掌理ス
第二條　陸軍ノ軍隊及諸部ハ左ノ如シ 近衛師團 第一師團 第二師團 第三師團 第四師團 第五師團 第六師團 第七師團 第八師團 第九師團 第十師團 第十一師團 第十二師團 第十三師團 第十四師團 第十五師團 第十六師團 第十七師團 第十八師團 第十九師團 第二十師團 第二十一師團 第二十二師團 騎兵旅團 野砲兵旅團 重砲兵旅團 工兵旅團 鎮守隊 憲兵隊 陸軍教導團 陸軍士官學校 陸軍大學校 陸軍幼年學校 陸軍獸醫學校 陸軍軍醫學校 陸軍經理學校 陸軍測量部 陸軍衛戍病院 陸軍監獄 陸軍倉庫 陸軍火藥庫 陸軍被服廠 陸軍造兵廠 陸軍兵器廠 陸軍糧秣廠 陸軍練馬廠 陸軍馬政署 陸軍種馬所 陸軍軍馬補充部 陸軍軍馬補充廠 陸軍軍馬補充分廠 陸軍軍馬補充出張所	第二條　陸軍ノ軍隊及諸部ハ左ノ如シ 近衛師團 第一師團 第二師團 第三師團 第四師團 第五師團 第六師團 第七師團 第八師團 第九師團 第十師團 第十一師團 第十二師團 第十三師團 第十四師團 第十五師團 第十六師團 第十七師團 第十八師團 第十九師團 第二十師團 第二十一師團 第二十二師團 騎兵旅團 野砲兵旅團 重砲兵旅團 工兵旅團 鎮守隊 憲兵隊 陸軍教導團 陸軍士官學校 陸軍大學校 陸軍幼年學校 陸軍獸醫學校 陸軍軍醫學校 陸軍經理學校 陸軍測量部 陸軍衛戍病院 陸軍監獄 陸軍倉庫 陸軍火藥庫 陸軍被服廠 陸軍造兵廠 陸軍兵器廠 陸軍糧秣廠 陸軍練馬廠 陸軍馬政署 陸軍種馬所 陸軍軍馬補充部 陸軍軍馬補充廠 陸軍軍馬補充分廠 陸軍軍馬補充出張所
第三條　陸軍大臣ハ天皇ノ命ヲ承ケ陸軍ノ軍隊及諸部ヲ統轄シ軍政軍令ノ事務ヲ掌理ス	第三條　陸軍大臣ハ天皇ノ命ヲ承ケ陸軍ノ軍隊及諸部ヲ統轄シ軍政軍令ノ事務ヲ掌理ス
第四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ヲ統轄スル爲メ必要ト認ムルトキハ之ヲ編制シ又ハ改廢ス	第四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ヲ統轄スル爲メ必要ト認ムルトキハ之ヲ編制シ又ハ改廢ス
第五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ編制ヲ定メ又ハ改正ス	第五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ編制ヲ定メ又ハ改正ス
第六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ配置ヲ定メ又ハ改正ス	第六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ配置ヲ定メ又ハ改正ス
第七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル事務ヲ掌理ス	第七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル事務ヲ掌理ス
第八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル計畫ヲ定メ又ハ改正ス	第八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル計畫ヲ定メ又ハ改正ス
第九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル訓令ヲ發シ又ハ改正ス	第九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル訓令ヲ發シ又ハ改正ス
第十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ監督ス	第十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ監督ス
第十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第二十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第二十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第三十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第三十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第四十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第四十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第五十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第五十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第六十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第六十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第七十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第七十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十二條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十三條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十四條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十五條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十六條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十七條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十八條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第八十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第八十九條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第九十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第九十條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス
第九十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス	第九十一條　陸軍大臣ハ軍隊及諸部ノ動員ニ關スル準備ヲ爲サシムル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ

三　家族從者及宰領者等ニ在リテハ前各號ニ準ス
運輸部ハ船室ノ都合又ハ患者ノ病況等ニ依リ前項各號ノ等級ヲ變更スルコトヲ得
第十八條　患者輸送ハ病院船便アルトキノ外第十一條各號ノ船舶ヲ使用シ必要ニ應シ運輸部ニ於テ之ニ適當ノ衞生部員ヲ附スルヲ例トス
第十九條　患者輸送ノ場合ニ在リテハ輸送請求者ヨリ患者ノ員數、其ノ病類別、附添看護員ノ有無及乘船地ヲ關係運輸部ニ豫報スルモノトス
第二十條　後送シタル患者ハ之ヲ上陸地最寄衞戍病院ノ出張員ニ引渡スヘシ
第二十一條　第十三條第一號該當者ノ乘船地及上陸地ハ內地ニ在リテハ宇品又ハ門司ノ內本人ノ出發又ハ到著ニ最モ近キ場所トシ臺灣、韓國、滿洲及北淸ニ在リテハ其ノ船舶ノ寄港地中本人ノ發著ニ最モ便利ナル場所トス
特別ノ事情ニ依リ前項ニ依ラス他ノ寄港地ニ於テ乘船又ハ上陸ヲ爲サムトスル者ハ所屬部隊ヨリ豫メ通知スルカ又ハ命令書若ハ證明書ヲ以テ運輸部ニ申出ツルモノトス
第二十二條　第十三條第一號、第十四條及第十五條該當者ハ被服、家具、日用品等各自ニ必要ナル物品ニ限リ私有荷物トシテ左記定量以內ヲ携行スルコトヲ得
一　赴任ノ場合ニ在リテハ將官、同相當官ハ六十貫目上長官ハ五十貫目士官ハ四十貫目准士官ハ三十貫目下士卒ハ二十貫目トシ軍屬及傭役者ハ之ニ準ス
二　前號ノ者家族ヲ携行スルトキハ定量ノ三倍、家族ノミナルトキハ定量ノ二倍
三　赴任以外ノ者ハ定量ノ二分ノ一
第二十三條　運輸部ハ軍隊及軍需品ノ輸送ニ在リテハ輸送券（附錄第二號樣式）ヲ監督將校又ハ船長ニ、第十三條第一號該當者ニ在リテハ乘船券（附錄第三號樣式）及證明書（附錄第四號樣式）ヲ、第十四條及第十五條該當者ニ在リテハ乘船券ノミヲ本人又ハ引率者ニ渡スヘシ
第二十四條　第十三條第二號ノ物品ヲ追送スル場合ニハ差出人ヨリ留守部隊又ハ運輸部ニ現品ヲ送リ追送ヲ依賴シ還送ノ場合ニハ本人ヨリ所屬部隊ニ現品ヲ差出シ留守部隊又ハ所屬部隊ハ之ヲ取纏メ輸送請求書ヲ添ヘ運輸部ヘ送ルヘシ
前項物品ノ量目ハ一人ニ付將校同相當官ハ三貫目以內准士官下士ハ二貫目以內兵卒ハ一貫目以內ニシテ其ノ輸送回數ハ一月一回トス文官、雇員、傭人ハ之ニ準ス
第二十五條　第十三條第三號ニ依リ酒保品ノ追送ヲ運輸部ニ委託セムトスルトキハ當該部隊長ハ輸送請求書ヲ製シ needs用月ノ約三十日前其ノ輸送ヲ運輸部本部長ニ請求スヘシ但シ其ノ輸送回數ハ一月一回トス
前項酒保品ノ量目ハ別表ニ依ル
第二十六條　運輸部ニ於テ前二條ノ輸送品ヲ受取リタルトキハ便船每ニ居先最寄ノ運輸部ニ送付スヘシ但シ必要アルトキハ梱包ヲ解キ檢査ヲ爲スヘシ
前項ノ輸送品ハ時宜ニ依リ運輸部ニ於テ居先部隊又ハ受領者ニ送付ノ手續ヲ爲スコトアルヘシ
第二十七條　輸送物件ノ授受ハ搭載地又ハ揚陸地ノ陸上ニ於テ行フモノトス但シ搭載揚陸ノ費用ヲ運輸部ニ於テ負擔セサル場合ニハ本船ニ於テ授受スルコトヲ得
第二十八條　貴重品ノ輸送ニハ宰領者ヲ附スルヲ例トシ酒保品ノ輸送宰領者ハ請求部隊每ニ一名ニ限ル

第三章　鐵道輸送

第二十九條　鐵道輸送ハ鐵道軍事供用令及鐵道軍事輸送規程ニ依リ施行スルモノトス但シ人馬物件ノ數量一車未滿ナルトキハ普通列車ニ搭載スルコトヲ得
第三十條　輸送途中ニ於ケル人馬ノ給養ハ普通列車ニ依ル場合ノ外運輸部ノ指定シタル停車場ニ於テ行フモノトス

第四章　經理

第三十一條　軍隊輸送中ノ給養ハ左ノ各號ニ依ル
一　船舶輸送ニ在リテハ糧食ノ供給ハ船長ノ擔任トシ其ノ費用ハ當該部隊ノ支辨トス
馬糧ハ部隊自ラ之ヲ調辨シテ乘船スルモノトス但シ其ノ準備ヲ運輸部ニ委託スルコトヲ得
二　鐵道輸送ニ在リテハ給養ハ總テ當該部隊ノ擔任トス但シ其ノ準備ヲ運輸部ニ委託スルコトヲ得
第三十二條　第十三條第一號ニ該當スル者ノ船內糧食ノ供給ハ船長之ヲ擔任シ其ノ費用ハ運輸部ノ支辨トシ馬糧ハ運輸部ニ於テ供給スルモノトス
第三十三條　第十四條及第十五條ニ該當スル者ノ船內糧食ノ供給ハ船長ノ擔任トシ其ノ費用ハ各自船長ニ仕拂フモノトス
第三十四條　第三十一條ニ於ケル食料額ハ陸軍旅費規則第四表ニ依リ第三十二條及第三十三條ニ於ケル船內食料額ハ別表ニ依ル
第三十五條　第四條ニ依リ使用スル人員ノ爲特ニ要スル費用ハ總テ運輸部ノ支辨トス
第三十六條　人馬物件ノ輸送ニ關スル費用ハ左ノ區分ニ依リ支辨スルモノトス
一　船舶輸送費（搭載揚陸費共）ハ運輸部但シ委託購買品及建築材料等ノ搭載揚陸費ハ當該部隊
二　鐵道輸送ニ於ケル汽車費ハ運輸部其ノ積載卸下費其ノ他陸上運搬費ハ當該部隊
三　部隊ト共ニ攜行セサル軍需品及酒保品ノ陸上運搬費ハ當該部隊

四　還送品及追送品ノ陸上運搬費ハ當該部隊又ハ本人

第五章　報告　通報

第三十七條　運輸部本部長ハ左記報告ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ
一　特ニ命達セラレタル輸送計畫
二　前號輸送ノ實施詳報
第三十八條　運輸部本部ハ前條第一號以外ノ輸送ニ於ケル船舶又ハ軍用列車ノ發著及搭載人馬物件ノ數量ヲ每月一回陸軍省ニ通報スヘシ但シ多數ノ人馬物件ヲ同時ニ輸送スル場合ニハ特ニ之ヲ豫報スルモノトス
第三十九條　運輸部本部ハ前條ノ外定期船ノ發著ヲ定メ前月中ニ所要ノ部隊ニ通報スヘシ
第四十條　運輸部ハ宇品ニ於テ搭載又ハ揚陸スヘキ貨物（部隊攜行貨物ヲ除ク）ヲ一部借上船ニ搭載シタルトキハ其ノ品目、數量、價額其ノ他ノ要項ヲ門司稅關支署ニ通報スヘシ

（附錄及別表略ス）

○告示

大藏省告示第五十三號
明治四十二年五月一日ヨリ同月三十一日マテ稅關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル內外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム
但本表所揭ノ外外國貨幣ト日本金貨トノ比較ハ從前ノ通
明治四十二年四月一日　大藏大臣　侯爵桂太郎

內外貨幣比較表

外國貨幣		日本金貨	
淸國兩	上海一兩	一圓	一三四
	天津一兩	一	一九六
	漢口一兩	一	一六二
墨西哥弗銀	一ドルラル		八三二
英吉利弗銀	一ドルラル		八五五
香港弗銀	一ドルラル		八五五
英領印度貨	一ルーピー		六五三
暹羅貨	一チカル		七五七

大藏省告示第五十四號
鐵道國有法第十四條ニ依リ甲武鐵道株式會社ニ交付スヘキ公債左ノ通本年三月三十一日之ヲ發行セリ
明治四十二年四月一日　大藏大臣　侯爵桂太郎

一大日本帝國政府五分利公債證書（甲海號）額面千三百七十九萬九千五百五十圓
但甲種國債登錄簿ニ登錄

文部省告示第百號
岡山縣私立中學閑谷黌岡山分黌ヲ同縣岡山市廣瀨町ニ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ
明治四十二年四月一日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第百一號
市立大阪工業學校本科
右ハ徵兵令第十三條竝文官任用令第三條第三號ニ依リ認定ス
明治四十二年四月一日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第百二號
奈良縣生駒郡北倭村ニ徒弟學校規程ニ依リ奈良縣生駒郡北倭村立女子實業學校ヲ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ
明治四十二年四月一日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第百三號
奈良女子高等師範學校ノ事務ハ文部省內ニ於テ取扱ヒ來リタル處四月一日ヨリ奈良縣奈良市同校校舍ニ於テ取扱フ
明治四十二年四月一日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第百四號
山口縣佐波郡立高等女學校ヲ同縣佐波郡防府町ニ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ
明治四十二年四月一日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第百五號
青森縣三戶郡八戶町ニ設置セル八戶町立女子實業學校ヲ明治四十二年三月三十一日限廢止ノ件認可セリ
明治四十二年四月一日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第百六號
岡山縣赤磐郡物理村ニ設置セル赤磐郡立工藝女學校ヲ明治四十二年三月三十一日限廢止ノ件認可セリ
明治四十二年四月一日　文部大臣　小松原英太郎

文部省告示第百七號
倉敷町外五箇村學校組合立精思高等女學校ヲ岡山縣都窪郡倉敷町ニ設置シ明治四十二年四月ヨリ開校ノ件認可セリ
明治四十二年四月一日　文部大臣　小松原英太郎

第7727号 本文

第7727号　本文

字	地番	面積	所有者
同	一、一〇六	一、八七〇六ノ内 五六〇〇	矢吹　正誠
同	一、一二二	一、五四〇六ノ内 一五〇〇	福田　保太郎
今宮	一、一二三	三五二四	日笠　孫四郎
同大字惣田 金畑	一八三	四五〇六ノ内 一三〇〇	森廣　百藏
藤田奥	一八四	一八〇二	
同	一八七	四六〇九ノ内 七〇〇	中村　孝利
同	一八八	六六〇七ノ内 一三〇〇	宿野　善平
同	一九四	四五〇二ノ内 一一〇〇	
同	一九五	九〇〇一ノ内 九〇〇	赤堀　新太郎
同大字柵原 口鹽	四九八	一、〇六〇六ノ内 三一〇〇	福田　源太郎
西畑	八〇二	九	福田　保太郎
同大字鹽氣 燒屋河内	七二五	四六一一ノ内 四〇〇	大字鹽氣總持
尾分根	七二六	三一〇〇ノ内 一〇〇〇	
同	七二七	三一五ノ内 一〇〇	
同	七三〇	三二〇〇ノ内 二〇	岡田　辰次郎 外二人
姥ヶ坂	九二五	二〇〇六ノ内 三〇〇	安東　久太郎
同	九二七	四、〇四二八ノ内 八一〇〇	井上　義忠
三反田	九六八	二、一〇二九ノ内 三一〇〇	福田　龜太郎 外十人
同飯岡村大字飯岡 荒見谷	一、六九一	一三、四二〇一ノ内 二、六八〇〇	
矢谷東平	一、六九四	一五、九〇一二ノ内 四七〇〇	大字飯岡總持
倉見山	一、六九六ノ第一	四三、九九〇二ノ内 四、三九〇〇	
同	一、六九六ノ第二	二、五〇二二	大字飯岡大字高下總持
同大字吉ヶ原 峯山	五七	二、九二一五ノ内 五八〇〇	
同	五八	四、〇二〇三ノ内 四〇〇〇	福田　保太郎
牛谷	八六	九、四〇〇五ノ内 四七〇〇	大字吉ヶ原總持
同	八七	六、三〇〇〇ノ内 七〇〇	
同	八八	三、二〇二〇ノ内 九六〇〇	尾島　政太
同	九〇	二、三〇〇〇ノ内 二三〇〇	
同	九一	一四、八六二五ノ内 二、九七〇〇	大字吉ヶ原總持
野々久保	九二	三、二八一〇ノ内 一、六四〇〇	中川　佐七郎
スゲノ田	九三	四、八〇〇三ノ内 二四〇〇	中村　宗義
同	九四ノ一	一、〇三一〇ノ内 八二〇〇	中村　政治
同	九四ノ二	八〇〇〇ノ内 二四〇〇	矢吹　太郎 內田　龍平
家ノ奥	九六	三、五五二五ノ内 一〇〇〇	
同	九七	六、九三一〇ノ内 一、三八〇〇	大字吉ヶ原總持
同	九八	一、八〇〇〇ノ内 五四〇〇	
同	九九	二、二九一五ノ内 四六〇〇	矢吹　太郎 內田　龍平
同	一〇〇	九、五三一〇ノ内 四七〇〇	根岸　長治郎 外五人
梅ノ木谷	二五三	三、二七一〇ノ内 一、一三〇〇	大字藤田上、大字藤田下總持
弘法寺	二七二ノ一	一、七六一〇ノ内 三五〇〇	森廣　百藏 森廣　菊次郎
打尾谷	二八四	四、二四〇〇ノ内 六三〇〇	福田　保太郎
弘法寺	六三五	一、一六二〇ノ内 三五〇〇	大字吉ヶ原總持
百町田	六三六	四、一三〇〇ノ内 二、八九〇〇	矢吹　太郎
同大字王子 谷河內喧	九三	三、三八二九ノ内 一、〇一〇〇	
大平	三八〇	一、八〇〇六ノ内 一八〇〇	
同	三八一	二、〇六〇五ノ内 四一〇〇	大字王子總持
同豐國村大字明見 鳥越	七七三	二七二三	水島　元四郎
同	七七四	四一二	大字明見總持
同	七七五	一、八八二七ノ内 三七〇〇	古田　貫治郎
同大字下香山 宮ノ東	二八〇	七〇〇八ノ内 一七〇〇	岩佐　周平
宮ノ畝	二九八	二七二八	杉本　小治郎
尾崎ノ上	二九九	六六一二ノ内 九〇〇	安東　槇次郎
畝ノ山	八六三	四九〇八ノ内 九〇〇	眞森　たつ
同	八六五	二一四ノ内 一〇〇	
同	八六六	五七二三ノ内 二八〇〇	眞森　伴次郎
山川ノ牧	八六七	三八〇二ノ内 三〇〇	眞森　敏雄
奥ノ谷	八八一	三二〇三ノ内 四〇〇	大字下香山總持
同高取村大字爲本 小跡	一、三四二ノ第三	二、八九二三ノ内 五八〇〇	山田　九一郎 外三人
同勝間田村大字畑屋 アボウ尻	一、七六五	四一七	三宅　龜男
同大字東吉田 高原田	七五一	六六一二ノ内 一四〇〇	淺田　民太郎
同北和氣村大字行信 見上	九〇四	五九一五ノ内 二九〇〇	矢吹　貫一
大ホラ	九〇五	一、五九一五ノ内 七九〇〇	矢吹　太郎
谷新田	九〇八	一一二四	矢吹　正誠
カキザコ	九〇九	二二一五	矢吹　太郎
同	九一〇	四七一五ノ内 二八〇〇	見上　忠太郎
鎮藏	一、〇七一ノ一	一、七〇〇〇ノ内 五一〇〇〇	矢吹　太郎
同	一、〇七一ノ四	六五〇〇ノ内 五八〇〇	矢吹　ツヤ
同	一、〇七一ノ三	三六一二	見上　忠太郎
同大字宮山 奥ノ畑ノ上	一、八四二	三一八ノ内 一〇〇	山下　文藏
大平	一、八四四	二五二七ノ内 一三〇〇	山下　淚治郎
同	一、八四七	一九一八ノ内 九〇〇	山下　七五郎
同	一、八五一	一四一二ノ内 五〇〇	山本　勇治郎
同湯郷村大字金屎 瀧谷	三三五ノ第一	二、七二一一ノ内 八一〇〇	大字金屎大字位田總持
同大字下大谷 高頭甲	六四	四、一九一八ノ内 二、〇九〇〇	
先八子	六六	二、五二一五ノ内 一、二六〇〇	
八子谷	六七	一、七五〇〇ノ内 一七〇〇	
鎌谷	六八	二、一二一五ノ内 六三〇〇	
同	七二	三一〇九ノ内 一〇〇〇	
先八子	七三	一、〇三一二ノ内 一〇〇〇	大字下大谷總持
同大字奥大谷 鎌谷	三八	一、六九二九	
同	三九	一、二〇一七ノ内 七二〇〇	
同	四〇	一、〇二二六	
同	四一	八八一二	
同	四三	一、五四一五ノ内 四六〇〇	
同	四四	一、五七〇三ノ内 三一〇〇	
同	四五	一、五九二五ノ内 一五〇〇	
同	四六	八九〇三ノ内 五三〇〇	勝間田町大字小矢田大字黑土大字總持
倉谷	四七	一三〇七	龍門　捷治郎
袖振谷	四八	四二一三ノ内 一六〇〇	下山　重吉
倉谷	四九	二八二四ノ内 二三〇〇	
同	五〇	二〇二二ノ内 一四〇〇	龍門　捷治郎
同	五一	二八二四ノ内 一一〇〇	槇田　幸四郎
同	五五	四二一九ノ内 一二〇〇	下山　周吉
同公文村大字城田 黑ノ田	七四六	六三一二ノ内 四〇〇	赤堀　藤平
同	七四七	一三三三	大字城田總持
同	七四八	一、〇七一四ノ内 二〇〇	田中　圓平 大井　庄平
鍛冶屋谷	七五三	二、五四〇〇ノ内 五〇〇〇	赤堀　菊次郎 外二人

農商務省告示第百二十七號

森林法ニ依リ保安林解除ニ關シ岡山縣知事ニ於テ告示シタル左記保安林ハ下欄ノ通之ヲ處分ス

明治四十二年四月一日　農商務大臣　男爵大浦兼武

縣	郡	村	大字	字	地番	告示面積 町段畝歩	處分 町段畝歩
岡山	川上	湯野	西山	長松寺山	二、七四一	六、六三〇〇ノ内 五、七二一八	二、五三〇〇解除 殘部不解除

農商務省告示第百二十八號

森林法ニ依リ保安林解除ニ關シ岡山縣知事ニ於テ告示シタル左記保安林ハ之ヲ解除ス

明治四十二年四月一日　農商務大臣　男爵大浦兼武

縣	郡	村	大字	字	地番	告示面積 段畝歩
岡山	和氣	熊山	奧吉原	谷山	一、五一二	二三〇〇

遞信省告示第四百三十五號

明治四十年四月遞信省告示第二百二十三號別表ヲ左ノ通改正シ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス

明治四十二年四月一日　遞信大臣　男爵後藤新平

（別表）

第一號表　指定通信官署

東京郵便局管轄
遞信省構內郵便局　淺草郵便局　神田郵便局　四谷郵便局　牛込郵便局　青山郵便局　九段郵便局　三田郵便局　芝郵便局　赤坂郵便局　丸之內郵便局　新橋郵便局　浦和郵便局　小笠原島郵便局　葵町電信局

大阪郵便局管轄
大阪川口郵便局　大阪船場郵便局　大阪堀江郵便局　大阪難波郵便局　大阪梅田郵便局　大阪玉造電信局

京都郵便局管轄
京都五條郵便局　京都七條郵便局　伏見郵便局

横濱郵便局管轄
横濱長者町郵便局　神奈川郵便局

神戶郵便局管轄
米子郵便局

長崎郵便局管轄
長崎本博多郵便局

札幌郵便局管轄
室蘭郵便局　泊村郵便局

新潟郵便局管轄
高田郵便局

（下段）
深川郵便局　下谷郵便局　麹町郵便局　本鄉郵便局　駒込郵便局　麻布郵便局　本所郵便局　小石川郵便局　高輪郵便局　白金郵便局　兩國郵便局　內藤新宿郵便局　八王子郵便局　新橋電信局　大阪高津郵便局　大阪高麗橋郵便局　大阪天滿郵便局　大阪天王寺郵便局　大阪安治川電信局　京都西陣郵便局　京都荒神口郵便局　新舞鶴郵便局　横濱櫻木郵便局　嚴原郵便局　紗那郵便局　稚內郵便局

名古屋郵便局管轄
名古屋赤塚郵便局　熱田郵便局

熊本郵便局管轄
熊本坪井郵便局

仙臺郵便局管轄
米澤郵便局

廣島郵便局管轄
西鄉郵便局

宇都宮郵便局管轄
日光郵便局

長野郵便局管轄
飯田郵便局

金澤郵便局管轄
敦賀郵便局

高松郵便局管轄
多度津郵便局　丸龜郵便局

鹿兒島郵便局管轄
八重山郵便局　名瀨郵便局

在清國本邦郵便局
上海郵便局　芝罘郵便局　牛莊郵便局　杭州郵便局　厦門郵便局　漢口郵便局　汕頭郵便局　廣東郵便局

（下段）
名古屋笹島郵便局　八幡郵便局　濱田郵便局　高岡郵便局　善通寺郵便局　久慈郵便局　天津郵便局　北京郵便局　蘇州郵便局　福州郵便局　南京郵便局　沙市郵便局　長沙郵便局

第二號表　指定通信官署

本表ニ指定スル通信官署ニ對シテハ明治四十年四月遞信省令第十四號通信官署經費渡切規則施行細則第一條第一號乃至第七號第十一號乃至第十三號ノ經費ヲ交付ス

東京郵便局管轄
千葉郵便局

大阪郵便局管轄
和歌山郵便局　堺郵便局

京都郵便局管轄
大津郵便局

横濱郵便局管轄
靜岡郵便局　濱松郵便局

神戶郵便局管轄
兵庫郵便局　鳥取郵便局　津山郵便局

長崎郵便局管轄
佐賀郵便局

札幌郵便局管轄
根室郵便局　旭川郵便局

新潟郵便局管轄
直江津郵便局

名古屋郵便局管轄
岐阜郵便局　四日市郵便局　桑名郵便局

熊本郵便局管轄
大分郵便局　小倉郵便局

仙臺郵便局管轄
福島郵便局　若松郵便局

廣島郵便局管轄
宇品郵便局　尾道郵便局　吳郵便局

宇都宮郵便局管轄
前橋郵便局　高崎郵便局

（下段）
甲府郵便局　奈良郵便局　新宮郵便局　橫須賀郵便局　岡山郵便局　姫路郵便局　三ノ宮電信局　佐世保郵便局　釧路郵便局　花咲電信局　長岡郵便局　津郵便局　豐橋郵便局　山田郵便局　久留米郵便局　若松郵便局　山形郵便局　酒田郵便局　松江郵便局　山口郵便局　水戶郵便局

長野郵便局管轄　松本郵便局　上田郵便局
靑森郵便局管轄　（盛岡郵便局　弘前郵便局）　秋田郵便局
金澤郵便局管轄　富山郵便局　福井郵便局
高松郵便局管轄　（松山郵便局　德島郵便局）　高知郵便局
鹿兒島郵便局管轄　（宮崎郵便局　大根占電信局）　那覇郵便局

本表ニ指定スル通信官署ニ對シテハ明治四十年四月遞信省令第十四號通信官署經費渡切規則施行細則第一條第一號乃至第三號第六號第七號及第十二號第十三號ノ經費ヲ交付ス

第三號表　指定通信官署

三等郵便局　郵便受取所（在淸國）　電話所

本表ニ指定スル通信官署ニ對シテハ明治四十年四月遞信省令第十四號通信官署經費渡切規則施行細則第一條第八號又ハ第八號乃至第十號ノ經費ヲ交付ス

關東都督府告示第十八號

明治四十二年三月二十日ヨリ左記電信取扱所ヲ設置ス

明治四十二年三月二十日　關東都督　子爵大島義昌

名稱	位置
營口舊市街日本電信取扱所	滿洲營口舊市街

關東都督府告示第十九號

明治四十二年三月二十日ヨリ營口電信局ヲ滿洲營口新市街ニ移轉ス

明治四十二年三月二十日　關東都督　子爵大島義昌

關東都督府告示第二十號

明治四十二年三月十九日限リ左記出張所ヲ廢止シ當該出張所ニ於テ取扱ヒタル事務ハ下記電信局之ヲ繼承ス

明治四十二年三月二十日　關東都督　子爵大島義昌

出張所名	繼承局名
營口電信局新市街出張所	營口電信局

明治四十一年度淸國事件第二豫備支出

一金百拾四萬七千八百九拾八圓　淸國事件費

內

金四百貳拾圓　大藏省所管
金百拾四萬七千四百七拾八圓　陸軍省所管

淸國事件ニ關スル淸國駐屯軍等ノ經費トシテ明治四十一年度ニ於テ前記金額淸國事件第二豫備ヨリ支出ノ儀主務大臣ノ請求ニ依リ上奏勅裁ヲ經タリ

明治四十二年四月一日　大藏大臣　侯爵桂太郎

正誤

去月三十一日大藏省訓令第九號帝國鐵道會計金庫出納事務規程第八條二行提示ハ送付同四行雜部金ハ雜部保管金第二十四條三行「某年度帝國鐵道積立金勘定」ハ「某年度帝國鐵道積立金勘定歲入」ノ孰モ誤　大藏書記官

去月三十一日陸達第十七號第二十二條中一年志願兵ニ在リテハノ下ニ近親ノ者ニ限リノ七字ヲ脫ス雜卒ハ輸卒第三章中「士官候補生諸生徒其ノ他陸軍志願者」ハ「士官候補生諸生徒其ノ他陸軍」ノ孰モ誤　陸軍省副官

去月三十一日文部省訓令第二號明治四十二年度文部省所管學校圖書館歲入歲出豫算科目中八〇八頁四段二十五行東京帝國大學農科大學演習林生徒宿泊所新營ハ東北帝國大學農科大學演習林生徒宿泊所新營ノ誤　文部書記官

去月八日農商務省告示第六十三號中字ザレゴザ山ハ字ザレザコ山ノ誤　農商務書記官

同三十日遞信省告示第四百十八號中七五三頁下段初行一八〇〇ノ上ニ一ヲ脫ス同三行上海線經過料金ノ下ヲノ字ハ衍同三十一日官報勅令第六十六號中七八六頁上段末行備考第三號中「金一錢」ヲ「金二錢」ニ改ムハ前行ニ續クヘキノ誤同日大藏省訓令第十號韓國鐵道及同用品資金會計金庫出納事務規程第二十五條二行受拂額ニハ受拂額ヲ同第一號書式中韓國鐵道資金勘定ハ韓國鐵道資本勘定同日文部省訓令第二號明治四十二年度文部省所管學校圖書館歲入歲出豫算科目中八〇八頁三段二十二行學事奬勵費ハ學事奬勵費ノ孰モ誤（以上誤植）

○敍任及辭令

○明治四十二年三月三十一日

敍正七位　從七位勳七等　鳥居重信
敍從七位　金子行德
敍正八位　勳八等　岡本和睦
陸敍高等官二等　臺灣總督府醫院醫長從五位醫學博士　長野純藏
陸敍高等官三等　學習院敎授正六位勳五等文學博士　井上賴圀
任大使館一等書記官
敍高等官四等　大使館二等書記官正六位勳五等　埴原正直
任總領事
敍高等官四等　領事正六位勳五等　小幡酉吉
陸敍高等官四等　外務書記官從六位勳四等　芳澤謙吉
任總領事
敍高等官四等　外務書記官正六位勳五等　中村巍
任外交官補
敍高等官六等　領事官補正七位勳六等　高橋淸一
任外交官補
敍高等官七等　領事官補正五位子爵　武者小路公共
任專賣局主事
敍高等官七等　專賣局書記兼大藏屬　松本弘造
任專賣局主事
敍高等官七等　專賣局書記兼大藏屬　宇賀四郎
兼任專賣局主事補
敍高等官七等　大藏省臨時建築部屬兼大藏屬從七位勳八等　石原藤太郎
任專賣局主事補
敍高等官八等　專賣局技手兼專賣局書記從七位勳八等　坪井元二郎

任專賣局主事補
敍高等官八等　專賣局書記勳八等　青木操
任專賣局主事補
敍高等官八等　專賣局書記　井内太郎
任陸軍砲兵少佐　陸軍砲兵大尉從六位勳五等　青山貞次郎
任海軍中尉　海軍兵曹長從七位勳五等功六級　寺西益次郎
陸敍高等官三等　判事正六位勳五等　三田幸司
陸敍高等官三等　檢事正六位勳五等　村上正世
陸敍高等官四等　判事正六位勳五等　田代晶
陸敍高等官四等　判事正六位勳六等　佐伯經臣
陸敍高等官四等　判事正六位勳六等　佐伯明道
陸敍高等官四等　判事正六位勳六等　堀口貞文
陸敍高等官四等　檢事正六位勳六等　山內牧二郎
陸敍高等官四等　檢事正六位　大原敬藏
陸敍高等官四等　檢事正六位勳六等　鈴木豐次郎
陸敍高等官四等　判事正六位勳六等　栗本武三
陸敍高等官四等　判事正六位勳六等　飯田平助
陸敍高等官四等　判事正六位勳六等　吉村利三郎
陸敍高等官四等　判事正六位勳六等　粕谷惣太郎
陸敍高等官四等　判事正六位勳六等　貝塚德之助
陸敍高等官四等　判事正六位　横村米太郎
陸敍高等官四等　檢事從六位　稻澤庄次郎
陸敍高等官四等　判事從六位勳六等　榊原周次郎
陸敍高等官四等　檢事從六位　田島淺次郎
陸敍高等官四等　判事從六位　西川一男
陸敍高等官四等　判事從六位勳六等　波多野高吉
陸敍高等官四等　判事從六位　成田惟忠
陸敍高等官四等　判事從六位　須賀喜三郎
陸敍高等官四等　檢事正六位勳五等　酒井陳平
陸敍高等官四等　判事從六位勳六等　佐瀨鎗四郎
陸敍高等官四等　判事從六位　山本德太郎
陸敍高等官五等　判事正七位　篠原泰助
陸敍高等官五等　判事正七位　折田正也
陸敍高等官五等　判事正七位　林茂利二郎
陸敍高等官五等　判事正七位　山村勝次郎
陸敍高等官五等　檢事正七位　保江夷
陸敍高等官五等　判事正七位　中田富則
陸敍高等官五等　判事正七位　大田黑彥八
陸敍高等官五等　判事正七位　櫻井莊治
陸敍高等官五等　檢事正七位　早川六郎
陸敍高等官五等　檢事正七位　朝廣正男
陸敍高等官五等　判事正七位　宮內安泰
陸敍高等官五等　檢事正七位　山田正德
陸敍高等官五等　判事正七位　大内有則
陸敍高等官五等　檢事正七位　宮重左馬吉
陸敍高等官五等　檢事正七位　細見重喬
陸敍高等官五等　判事正七位　伊藤甫
陸敍高等官五等　判事正七位　岩田錬
陸敍高等官五等　判事正七位　守安富太郎
陸敍高等官五等　判事正七位　諸隈元次郎
陸敍高等官五等　檢事正七位　三橋市太郎
陸敍高等官五等　判事正七位　大知新太郎
陸敍高等官五等　檢事正七位　井前正
陸敍高等官五等　檢事正七位　伊東剛太
陸敍高等官五等　判事正七位　北本欽吉
陸敍高等官五等　檢事正七位勳六等　河井常吉
陸敍高等官五等　判事正七位　森章三郎
陸敍高等官五等　檢事正七位　中島織三
陸敍高等官五等　檢事正七位　本間寬二
陸敍高等官五等　判事正七位　松田令司
陸敍高等官五等　檢事正七位　光行次郎
陸敍高等官六等　檢事從七位　山口昇
陸敍高等官六等　檢事從七位勳七等　濱田虎太郎
陸敍高等官六等　判事從七位　遠藤誠
陸敍高等官六等　判事從七位　内藤木義
陸敍高等官六等　判事從七位　椹木八郎
陸敍高等官六等　判事從七位　植田英勝
陸敍高等官六等　判事從七位　伊藤吉彥
陸敍高等官六等　判事從七位　秋吉豐次
陸敍高等官六等　判事從七位　笠原亮一
陸敍高等官六等　判事從七位勳六等　高津住胤
陸敍高等官六等　判事從七位　逸見規一
陸敍高等官六等　判事從七位　水野忠行
陸敍高等官六等　檢事從七位　佐藤共之
陸敍高等官六等　檢事從七位　吉見高治
陸敍高等官六等　檢事從七位　福岡安次
陸敍高等官六等　判事從七位　黑正太助
陸敍高等官六等　判事從七位　笠井健太郎
陸敍高等官六等　判事從七位　平田和三郎
陸敍高等官六等　判事從七位　山口善六
陸敍高等官六等　判事從七位　小出哲也
陸敍高等官六等　判事從七位　黑木逸作
陸敍高等官六等　判事從七位　淨法寺康
陸敍高等官六等　檢事從七位　植田粂三郎

第7727号　本文

陞敍高等官六等　判事從七位　菰淵恆隆
陞敍高等官六等　判事從七位　里見隆次
陞敍高等官六等　判事從七位　佐中米藏
陞敍高等官六等　檢事從七位　香取久吉
陞敍高等官六等　判事從七位　堤　政一
陞敍高等官六等　判事從七位　小林崎太郎
陞敍高等官六等　判事從七位　佐藤友藏
陞敍高等官六等　判事從七位　佐野定長
陞敍高等官六等　檢事從七位　後藤祐明
陞敍高等官六等　判事從七位　久保義虎
陞敍高等官六等　判事從七位　鈴木昌吉
陞敍高等官六等　判事從七位　小山誠次
陞敍高等官六等　判事從七位　宇野要三郎
陞敍高等官六等　判事從七位　齋藤常三郎
陞敍高等官六等　檢事從七位　小山田鐵次郎
陞敍高等官六等　檢事從七位　中川明八
陞敍高等官六等　判事從七位　三輪禮藏
陞敍高等官六等　判事從七位勳六等　岩井正次郎
陞敍高等官六等　判事從七位　名川侃市
陞敍高等官六等　判事從七位　天野宗太郎
陞敍高等官六等　判事從七位　百瀬潤吾
陞敍高等官六等　判事從七位　大脇熊雄
陞敍高等官六等　判事從七位　池田卓二
陞敍高等官六等　檢事從七位　佐藤粂三郎
陞敍高等官六等　判事從七位　佐野常倫
陞敍高等官六等　檢事從七位　永岡外次
陞敍高等官六等　判事從七位　森　雅太郎
陞敍高等官六等　判事從七位　水谷　清
陞敍高等官六等　檢事從七位　大和田三竿
陞敍高等官六等　檢事從七位　宮本英脩
陞敍高等官六等　判事從七位　岩本勇次郎
陞敍高等官六等　檢事從七位　井上庄太郎
陞敍高等官六等　檢事從七位　黑澤太郎
任檢事
敍高等官七等　佐藤信安
任典獄
敍高等官八等　看守長正八位勳八等　山本鐵吉
兼任仙臺高等工業學校教授
敍高等官五等　第二高等學校教授從六位　中島欽三

陞敍高等官六等　東京高等師範學校教授從七位　鹽谷　榮
陞敍高等官七等　東京女子高等師範學校教諭兼東京女子高等師範學校教授正八位　宮川壽美
兼任第六臨時教員養成所教授
敍高等官七等　東京女子高等師範學校教諭兼東京女子高等師範學校教授正八位　宮川壽美
任山林局書記官
敍高等官三等　日本大博覽會事務官從五位勳五等　安河内麻吉
任山林技師
敍高等官四等　正六位勳六等　望月　常
陞敍高等官三等　糖業改良事務局技師兼農事試驗場技師正六位勳六等　山中源太郎
陞敍高等官三等　糖業改良事務局技師兼農商務技師正六位　中村留二
陞敍高等官三等　農商務技師正六位　伊木常誠
陞敍高等官四等　特許局審査官從六位勳四等功五級　小野喜惣治
陞敍高等官四等　特許局審査官從六位　河村素彦
陞敍高等官四等　特許局審査官兼農事試驗場技師農商務技師從六位　押田　翼
陞敍高等官四等　鑛山監督署技師從六位　稻村篤太
陞敍高等官四等　鑛山監督署技師兼農商務技師製鐵所技師從六位　西和田久學
陞敍高等官六等　農商務省商品陳列館技師從七位　松倉順一
陞敍高等官六等　農商務技師從七位　松田昌德
陞敍高等官六等　特許局審査官從七位　廣瀨　基
任關東都督府醫院藥局長
敍高等官六等　陸軍一等藥劑官正七位勳四等　高杉要二郎
陞敍高等官四等　關東都督府通信技師從六位勳六等　牧　直二
陞敍高等官四等　關東都督府技師從六位藥學博士　慶松勝左衛門
陞敍高等官四等　關東都督府技師從六位　松室重光
陞敍高等官六等　關東都督府翻譯官從七位勳六等　矢野太郎
陞敍高等官六等　關東都督府技師從七位勳七等　早乙女忠國
陞敍高等官六等　關東都督府典獄從七位勳七等　栗原貞吉
陞敍高等官六等　關東都督府通信事務官補從七位勳七等　吉田　豁
陞敍高等官六等　關東都督府通信事務官補從七位勳七等　相良利吉
陞敍高等官六等　關東都督府通信事務官補從七位勳六等　河原塚重忠
陞敍高等官六等　關東都督府通信事務官補從七位勳七等　田中太郎
陞敍高等官六等　關東都督府通信事務官補從七位勳七等　中村房之助
陞敍高等官六等　關東都督府通信事務官補從七位勳六等　松本外吉
陞敍高等官六等　關東都督府通信技師從七位勳六等　平塚彌太郎
陞敍高等官三等　淡水税關長兼安平税關長正六位勳五等　岩政憲三
陞敍高等官三等　臨時臺灣工事部技師兼臺灣總督府技師正六位　十川嘉太郎
陞敍高等官四等　臨時臺灣工事部事務官兼臺灣總督府事務官從六位勳六等　今井周三郎

陞敍高等官四等　臺灣總督府税關監視官兼臺灣總督府税關事務官從六位勳六等　布施謙太郎
陞敍高等官四等　臺灣總督府鐵道部技師從六位勳六等　朝倉政次郎
陞敍高等官四等　臨時臺灣工事部技師從六位　張　令紀
陞敍高等官四等　臺灣總督府技師從六位　小野木孝治
陞敍高等官四等　臺灣總督府事務官兼臺灣總督府參事官從六位　井村大吉
陞敍高等官四等　臨時臺灣工事部技師從六位　田崎二三次
陞敍高等官五等　臺灣總督府税務官正七位勳六等　久芳直介
陞敍高等官五等　臺灣總督府醫院醫員正七位　松尾峯太郎
陞敍高等官五等　臺灣總督府技師兼臨時臺灣糖務局技師臺灣總督府農事試驗場技師正七位　川上瀧彌
陞敍高等官五等　臺灣總督府技師正七位　賀田直治
陞敍高等官五等　臨時臺灣糖務局技師正七位　吉田碩造
陞敍高等官五等　臺灣總督府防疫醫官兼臺灣總督府事務局技師正七位　倉岡彦助
陞敍高等官五等　臨時臺灣糖務局技師正七位　小花和太郎
陞敍高等官六等　臺灣總督府鐵道部事務官從七位　原　吉太郎
陞敍高等官六等　臺灣總督府醫院事務官從七位勳七等　岩城喜十郎
陞敍高等官六等　臺灣總督府技師從七位　石田　研
陞敍高等官六等　臺灣總督府技師從七位　東郷　實
陞敍高等官六等　臺灣總督府技師從七位　岡田寬治
陞敍高等官六等　基隆廳技師兼臺灣總督府技師從七位　細谷源四郎
陞敍高等官六等　臺灣總督府海事官兼臺灣總督府技師從七位勳六等　田上郷吉
陞敍高等官六等　南投廳長從七位勳七等　能勢靖一
陞敍高等官六等　臺灣總督府醫學校助教授兼臺灣總督府醫學校舍監從七位　久保信之
陞敍高等官五等　臺灣總督府技師正七位　小川運平
陞敍高等官六等　京都府乙訓郡長從七位勳六等　森本和三郎
陞敍高等官六等　兵庫縣多紀郡長從七位勳七等　安達儀一郎
陞敍高等官六等　奈良縣山邊郡長從七位勳六等　廚川　榮
陞敍高等官六等　三重縣多氣郡長從七位　大山元吏
陞敍高等官六等　鳥取縣技師從七位勳七等　水山祐德
陞敍高等官六等　大分縣警視從七位勳七等　中島文一
陞敍高等官七等　愛知縣技師正八位勳六等　有光兎茂喜
陞敍高等官七等　宮城縣亘理郡長正八位勳七等　小倉信光

東京府豐島師範學校教諭ニ任ス
東京府視學兼東京府屬勳八等　御園生金太郎
鹿兒島縣立鹿屋農學校教諭從六位　河野生長
鹿兒島縣立鹿屋農學校長兼鹿兒島縣立鹿屋農學校教諭ニ任ス
愛媛縣立西條中學校長正七位　北島貞顯
京都府立第四中學校長ニ任ス
熊本測候所技手　栗山茂太郎
熊本測候所技師ニ任ス

京都府農業技師ニ任ス
大島好太郎
大阪府立高等醫學校教諭ニ任ス
陸軍二等軍醫從七位勳六等　和田豐穗
秋田縣立秋田高等女學校長ニ任ス
秋田縣師範學校教諭從七位　伊東　武
巖手縣立福岡中學校教諭ニ任ス
青森縣立第二高等女學校教諭從七位　村田善十郎
宮城縣立古川中學校長正七位　兒玉實德
長崎縣立佐世保中學校長兼長崎縣立佐世保中學校教諭ニ任ス
富山縣立富山中學校教諭從七位　糟谷宗資
宮城縣立古川中學校長ニ任ス
青森縣立第二高等女學校長兼青森縣立第二高等女學校教諭　小泉秀之助
青森縣立女子實業學校長青森縣立女子實業學校教諭ニ兼任ス
山口縣立萩中學校教諭兼山口縣立萩中學校舍監從七位　岩田博藏
愛媛縣立西條中學校長ニ任ス
和歌山縣西牟婁郡田邊町立女子實業補習學校長　曾我部俊雄
和歌山縣西牟婁郡立高等女學校長ニ任ス
廣島縣水産試驗場技師正七位勳六等　大石榮三郎
廣島縣水産技師ニ任ス
宮崎縣師範學校教諭從七位　小林岩助
香川縣立大川中學校長ニ任ス
井上正義
福島縣農業技師ニ任ス
高知縣農業技師正七位　和田　憲
高知縣農事試驗場技師兼高知縣農業技師ニ任ス
福岡縣立小倉高等女學校長　佐々木巳喜次
福岡縣立小倉高等女學校長ニ任ス
從七位　見山慶次郎
福岡縣農業技師ニ任ス
廣島縣工業試驗場技師　山内修一
福岡縣工業技師ニ任ス
鹿兒島縣立鹿屋農學校長兼鹿兒島縣農事試驗場技師正六位勳六等　山田登代太郎
鹿兒島縣農業技師ニ任ス
兼鹿兒島縣農事試驗場技師故ノ如シ

鹿兒島縣農業技師兼鹿兒島縣農事試驗場技師正六位勳六等　山田登代太郎
鹿兒島縣立鹿屋農學校教諭ニ兼任ス
農商務技師　西川勝藏
文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職被仰付
馬政官　西川勝藏
文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス
專賣局主事　松原十一郎
依願免本官
第六臨時教員養成所教授兼東京高等師範學校教授　鹽谷　榮
免本官專任東京高等師範學校教授
仙臺高等工業學校教授兼第二高等學校教授　久野末五郎
免兼官
奈良縣師範學校長　龜井義六
依願免本官
農商務技師兼鑛山監督署技師工學博士　小花冬吉
依願免兼官
農商務技師工學博士　小花冬吉

第7727号 本文

（各通）

山林事務官補 吉田仙男

特許局審査官 江田邦太

依願免本官

臺灣總督府專賣局技師兼臺灣總督府技師 小川運平

免本官專任臺灣總督府技師

島根縣安濃郡長 助村一

御用有之韓國ヘ被差遣

（各通）

岡山縣兒島郡立兒島商船學校長兼岡山縣兒島郡立兒島商船學校教諭 山本又輔

香川縣立大川中學校長兼香川縣立大川中學校教諭 川又茁

願ニ依リ本職竝兼職ヲ免ス

（各通）

長崎縣女子師範學校教諭 正野崎直治

靜岡縣立掛川中學校教諭 岡野久胤

宮崎縣立宮崎中學校教諭 西保

秋田縣立秋田高等女學校長 大野千畝

宮城縣立仙臺第二中學校教諭 大鹽辰治

鹿兒島縣農事試驗場技師 古川仲右衞門

願ニ依リ本職ヲ免ス（以上三月三十一日內閣）

鐵道院主事 原潔

西部鐵道管理局勤務ヲ命ス

鐵道院主事 細野正文

東部鐵道管理局勤務ヲ命ス

鐵道院主事補 西尾萬記

中部鐵道管理局勤務ヲ命ス（以上四月一日鐵道院）

（各通）

陸軍中將男爵 福島安正

別當 馬場三郎

皇族附武官 塚田清市

式部官子爵 稻葉正繩

海軍大佐 平岡貞一

大使館二等書記官 鄭永邦

家令 御牧基賢

學習院教授 鈴木靜

貞愛親王殿下清國德宗景皇帝葬儀參列トシテ被差遣ニ付隨行被仰付

學習院教授 山田倉太郎

宮內官分限令第六條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス

北海道廳事務官 西村保吉

依願免本官（以上三月三十一日宮內省）

北海道廳事務官 上田萬平

三級俸下賜

鹿兒島縣技師 山田登代太郎

六級俸下賜

東京府事務官補 比村萬正

十二級俸下賜

新潟縣三島郡長 小山龍作

一級俸下賜

新潟縣西頸城郡長 四戶梅太郎

（各通）

鹿兒島縣肝屬郡長 甲斐田毅

四級俸下賜

鹿兒島縣出水郡長 肝付勇吉

（各通）

山形縣警視 永井秀藏

五級俸下賜

臺灣總督府法院判官 石井常英

中級俸下賜

（各通）

二級俸下賜

四級俸下賜

（各通）

五級俸下賜（以上三月三十一日內務省）

（各通）

六級俸下賜

（各通）

五級俸下賜

（各通）

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス

補土浦稅務署長

補足利稅務署長（以上三月三十一日大藏省）

（各通）

豫備被仰付

臨時陸軍建築部仙臺支部附兼勤被仰付

第十三師團經理部部員陸軍三等主計正

習志野臨時衞戍病院長兼勤被免

兼補甲府衞戍病院長　步兵第四十九聯隊附陸軍三等軍醫正

（各通）

習志野臨時衞戍病院附被免

（各通）

補甲府衞戍病院附

（各通）

習志野臨時衞戍病院附被免

（各通）

補宇都宮衞戍病院附

警視 田川誠作

警視 山下嘉太郎

警視 新居友三郎

警視 野田耕夫

警視 岩田重義

警視 井田正忠

警視 矢野元三郎

專賣局主事 松本弘造

專賣局主事 宇賀四郎

專賣局主事補 坪井元二郎

專賣局主事補 青木操

專賣局主事補 井内太郎

專賣局主事 竹村戟

專賣局主事 大原哲治

專賣局主事補 城戸勝次郎

專賣局主事補 矢野武一郎

稅務官 佐藤信

稅務官 中川喜代馬

陸軍騎兵少佐 陰山深雪

陸軍砲兵少佐 青山貞次郎

陸軍三等主計正 萩原釥太郎

步兵第四十九聯隊附陸軍三等軍醫正 花井善吉

陸軍三等軍醫正 花井善吉

陸軍一等軍醫 鈴木久之進

陸軍二等藥劑官 山下貝輔

陸軍一等軍醫 鈴木久之進

陸軍二等藥劑官 山下貝輔

陸軍三等軍醫 猪田直行

陸軍三等軍醫 鈴木幸生

陸軍三等軍醫 猪田直行

陸軍三等軍醫 鈴木幸生

故陸軍步兵少佐望月銀吾明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金千貳百五拾圓ヲ賜フ

愛知縣額田郡岡崎町大字菰金百二十五番地ノ第二 望月エイ

故陸軍輜重輸卒森脇廣吉明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百拾圓ヲ賜フ

大分縣南海部郡下入津村大字西野浦六十九番地 森脇八十吉

故給仕杉山音次郎明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ特ニ金百圓ヲ賜フ（以上三月十一日陸軍省）

橫濱市元町五丁目二百九番地 杉山幸太郎

海軍兵曹長 寺西益次郎

豫備役被仰付（三月三十一日海軍省）

八王子區裁判所判事判事 安藝哲三郎

補東京區裁判所判事

木更津區裁判所判事判事 澤柳友一郎

補父島區裁判所判事

父島區裁判所判事判事 妹尾繁雄

補東京地方裁判所判事

東京地方裁判所判事判事 野口三四郎

補八王子區裁判所判事

父島區裁判所判事判事 澤柳友一郎

八級俸下賜

八王子區裁判所判事判事 野口三四郎

九級俸下賜

東京地方裁判所判事判事 妹尾繁雄

十級俸下賜

司法官試補 濱田嘉四郎

司法官試補 日下部義夫

（各通）

東京區裁判所檢事代理ヲ解ク

司法官試補 佐藤復三

司法官試補 松井和義

（各通）

東京區裁判所檢事代理ヲ命ス

司法官試補 山內公允

甲府區裁判所檢事代理ヲ解ク

司法官試補 田中諒

甲府區裁判所檢事代理ヲ命ス

司法官試補 友眞碩太郎

大阪區裁判所檢事代理ヲ解ク

司法官試補 岩村流芳

大阪區裁判所檢事代理ヲ命ス

司法官試補 里見虎藏

松山區裁判所檢事代理ヲ解ク

司法官試補 森田恪藏

松山區裁判所檢事代理ヲ命ス（以上三月三十一日司法省）

京都帝國大學理工科大學助教授司法官試補 小野鑑正

機械工學第一講座分擔ヲ免ス（三月十七日文部省）

東京帝國大學理科大學教授理學博士 橫山又次郎

地質學古生物學鑛物學第二講座擔任ヲ命ス（三月十九日同）

奈良縣師範學校長 龜井義六

四級俸下賜

文部技師 矢島一雄

八級俸下賜（以上三月三十一日同）

東京高等師範學校教授 矢津昌永

學術實地指導ノ爲埼玉群馬二縣下ヘ出張ヲ命ス（三月二十七日東京高等師範學校）

保險事務官 宮本幸五郎

六級俸下賜

農商務技師 伊木常誠

四級俸下賜

農商務技師 石崎芳吉

八級俸下賜

農商務技師 河村信一

（各通）

農商務技師 德岡精彥

九級俸下賜

十級俸下賜

四級俸下賜

（各通）

七級俸下賜

四級俸下賜

（各通）

五級俸下賜

（各通）

四級俸下賜

（各通）

五級俸下賜

七級俸下賜

（各通）

八級俸下賜

（各通）

十一級俸下賜

七級俸下賜

四級俸下賜

（各通）

七級俸下賜

（各通）

九級俸下賜

農商務技師 大山清一郎

山林事務官 荒木大藏

山林事務官 平熊友明

山林事務官 鈴木清

山林事務官 福井茂一

山林事務官補 吉田仙男

山林事務官補 山本富之助

山林事務官補 豐島乙吉

山林事務官補 槇田傳三郎

山林事務官補 武藤榮治郎

山林事務官補 大西義一

山林技師 成川房幸

山林技師 松下孝三郎

山林技師 田中由十郎

山林技師 吉田信二

山林技師 岩倉雄太郎

山林技師 千本停三郎

山林技師 加藤達雄

山林技師 田中鷹太郎

山林技師 內山房吉

山林技師 前田佐吉

山林技師 廣中謙司

鑛山監督署事務官 伊藤克一

鑛山監督署技師 松田繁

鑛山監督署技師 新山敏介

鑛山監督署技師 上野景明

鑛山監督署技師 阿部直太郎

鑛山監督署技師 神澤勝也

鑛山監督署技師 大井上義近

鑛山監督署技師 日下順吉

鑛山監督署技師 有吉榮

鑛山監督署技師 進藤錄造

鑛山監督署技師 中尾信治

第 7727 호 本文

(各通)

鑛山監督署技師　山本　謐　十級俸下賜
鑛山監督署技師　森島佐一郎　九級俸下賜
鑛山監督署技師　今村　熊一　十級俸下賜
鑛山監督署技師　永松　友一　四級俸下賜
生絲檢查所技師　増田　由之　十級俸下賜
生絲檢查所技師　稻生　文作　九級俸下賜
花莚檢查所技師　杉山　艮俊　一級俸下賜
蠶業講習所技師　肥後　俊彦　山林局勤務ヲ命ス
糖業改良事務局技師　伊森　貫三　四級俸下賜
山林局書記官　安河内麻吉
山林局書記官　安河内麻吉　山林局勤務ヲ命ス(以上三月三十一日　農商務省)
山林技師　望月　常　京都府下ヘ出張ヲ命ス
山林技師　望月　常
海事局技師　腹巻　五郎　高知縣下ヘ出張ヲ命ス
海事局技師　桑田　豐吉
海事局技師　猪俣精一郎　秋田縣下ヘ出張ヲ命ス(以上三月三十日　遞信省)
關東都督府通信事務官　高頭正太郎　關東都督府通信管理局業務課長ヲ命ス(三月十二日　關東都督府)
新潟縣立長岡中學校教諭　竹村　脩　給八級俸
新潟縣立長岡中學校教諭　竹村　脩　休職ヲ命ス(以上三月十九日　新潟縣)
千葉縣立佐倉中學校長　山内佐太郎　七級俸下賜
千葉縣立木更津中學校長　畑　勇吉　九級俸下賜(以上三月十六日　千葉縣)
山形縣農業技師　熊野　義輔　明治三十九年勅令第二百六十八號及同三十七年勅令第百十一號第一條第一項第一號ニ依リ休職ヲ命ス(三月十七日　山形縣)

○宮廷錄事

○行幸仰出　天皇陛下ハ本月五日千葉縣印旛郡旭村陸軍野戰砲兵射擊學校ヘ行幸アラセラルヘキ旨仰出サレタリ但シ當日雨天ナレハ御止ノ筈ナリ御發著割竝ニ市内御道筋左ノ如シ

御發著割

四月五日
午前九時　御出門
同　九時三十分　兩國橋停車場御發車
同　十時四十分　四街道停車場御著車
午後二時五十分　陸軍野戰砲兵射擊學校御出門
同　三時　四街道停車場御發車
同　四時十分　兩國橋停車場御著車
還幸

市内御道筋

正門ヲ出テ右ヘ馬場先門跡ヲ經テ左ヘ大手町通神田橋ヲ渡リ美土代町二丁目一番地角右ヘ東松下町通大和橋ヲ渡リ柳原通ヲ渡リ横網町一丁目六番地角左ヘ兩國橋停車場

○彙報

○富美宮泰宮御歸京　允子内親王、聰子内親王兩殿下ハ神奈川縣下鎌倉御用邸ニ御滯留ノ處去月三十日午前十一時十分御歸京アラセラレタリ

○御沙汰　貞愛親王殿下ヘ清國德宗景皇帝葬儀參列トシテ差遣ハサル、旨御沙汰アラセラレタリ

○皇族發著　載仁親王殿下ハ千葉縣下ヘ御出張ノ處去月三十日御歸京アラセラレタリ

○官廳事項

○農商務省分課規程改正　農商務省分課規程第十五條ヲ左ノ通改正シ今一日ヨリ施行ス

第十五條　權度課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　度量衡原器副原器ノ保管、地方原器檢定及取締用具ノ交付修理竝返納ニ關スル事項
二　度量衡製作ノ免許、地方長官ノ行フ檢定及取締ノ監督ニ關スル事項
三　其ノ他度量衡ニ關スル事項

○稅關監視署移轉　横濱稅關所管館山稅關監視署ヲ今一日千葉縣安房郡豐津村沼字西之濱東八百四十八番地ヘ移轉ス

○希臘國政府常設仲裁裁判所裁判官任命　希臘國政府ハ下院議員雅典大學經濟學助教授アー、チパルドー、パッシアヲ海牙常設仲裁裁判所裁判官ニ任命シタル趣同裁判所書記官長ヨリ本年二月十九日附ヲ以テ通牒アリ

○休職滿期　休職東京帝國大學醫科大學助教授鹽田廣重ハ去月二十日、同遞信書記官兼高等海員審判所審判官石渡邦之丞ハ同二十四日、同遞信技師村上圭彦ハ同二十九日、同富山縣立高岡中學校教諭兼築順太郎、同鳥取縣師範學校教諭高橋直義ハ同二十三日孰モ休職滿期ト爲レリ

○官吏發著　參謀本部參謀演習實視トシテ同演習地ヘ差遣ノ侍從武官上田兵吉ハ去月三十日出發セリ

議ニ長野縣下ヘ出張ノ兒島歩兵第十五旅團長ハ去月二十六日、高崎地方ヘ出張ノ兒玉歩兵第二十八旅團長ハ同二十七日、檢閲實視ノタメ越前鯖江地方ヘ出張ノ神尾第九師團長及濱松ヘ出張ノ岡歩兵第二十九旅團長ハ同二十八日、濱松、靜岡地方ヘ出張ノ内山第十五師團長ハ同二十九日、仙臺ヘ出張ノ齋藤歩兵第二十五旅團長ハ同三十日、東京府下中野地方ヘ出張ノ太田交通兵旅團長ハ同三十一日孰モ歸著◎満韓地方ヘ差遣ノ大迫野戰砲兵監ハ同二十七日歸京◎大井歩兵第十九旅團長ハ地理實査ノタメ滋賀縣彥根、野洲地方ニ向ヒ同日、松永第二師團長ハ歩兵第六十五聯隊第一期檢閲實視竝ニ地理實査ノタメ福島縣下ニ向ヒ山中第十六師團長ハ歩兵第十九聯隊第一期檢閲視察ノタメ敦賀ニ向ヒ同二十八日、第十四師團參謀長矢野伊平ハ熊谷及高崎聯隊區司令部事務視察竝ニ前橋演習場視察ノタメ熊谷、高崎、前橋地方ニ向ヒ同三十日孰モ出發セリ

議ニ歐米各國ヘ派遣ヲ命セラレタル司法省參事官谷野格ハ去月二十七日歸朝セリ

學術上取調ノタメ徳島縣下ヘ出張ヲ命セラレタル東京帝國大學文科大學教授文學博士萩野由之ハ去月二十六日出發セリ

臺灣總督府警察官及司獄官練習所舍監澤井爾平ハ去月三十一日上京セリ

議ニ訴訟事件ニ付キ熊本縣下ヘ出張ノ由布行政裁判所評定官ハ去月三十日歸京セリ

警察及監獄

○出火　去月二十七日午後六時三十分栃木縣宇都宮市川向町ヨリ出火全燒家屋十四戸、巡査派出所一、倉庫三、電柱十本同七時四十分鎭火原因過失ナリ

○受刑者罪名別　本年一月末日現在受刑者罪名別左ノ如シ

罪名	男	女	計	前月末日現在	前年同月末日現在	增(△印ハ減) 前月比較	增(△印ハ減) 前年比較	本月中ノ新受刑者	前月比較增減
刑法									
竊盜	二二、三六六	八八四	二三、二五〇	二二、九一〇	二三、一八五	三四〇	六五	一、九二四	△六〇五
強盜	三、七五六	一二	三、七六八	三、七九〇	三、八六二	△二二	△九四	一四	△二二
賭博及富籤	二、〇四五	八二	二、一二七	一、八〇八	二、二一四	三一九	△八七	七〇八	△七三
詐欺及恐喝	三、二四三	一〇九	三、三五二	三、四二五	三、四四三(詐欺及恐喝・橫領合計)	△七三	四九四(詐欺及恐喝・橫領合計)	三六二	△一七〇
橫領	五六七	一八	五八五	四四二		一四三		一六一	△二四
贓物ニ關ス	四八三	六三	五四六	五三四	五七五	一二	△二九	一〇四	三
毀棄及隱匿	一三八	二	一四〇	一三五	—	五	—	一九	△一六
通貨偽造	六九一	一三	七〇四	七〇五	七八六	△一	△八二	一一	△一
文書、有價證券偽造	一、七六六	三九	一、八〇五	一、八四五	二、七四四(文書有價證券偽造・印章偽造合計)	△四〇	△四一四(文書有價證券偽造・印章偽造合計)	七一	△三四
印章偽造	五二二	三	五二五	五五八		△三三		二三	七
偽證及誣告	三九	—	三九	四二	一六	△三	二三	七	△二
瀆職	三三	—	三三	三八	—	△五	—	一	△四
猥褻姦淫及重婚	二八四	二三	三〇七	三一〇	二七九	△三	二八	一八	二
傷害	二、一一七	二四	二、一四一	二、〇九九	二、〇八三	四二	五八	一五一	△五三
殺人	二、七九〇	三三四	三、一二四	三、一六五	三、三四四(殺人・嬰兒殺合計)	△四一	一三六(殺人・嬰兒殺合計)	二三	△四〇
嬰兒殺	九五	二六一	三五六	三四六		一〇		九	二
逮捕及監禁	一九	四	二三	二五	—	△二	—	一	△二
墮胎	一五	四一	五六	五六	四三	—	一三	一四	△三
公務執行妨害	九四	二	九六	一〇一	一二八	△五	△三二	九	△三
逃走、犯人藏匿及證憑湮滅	三二	—	三二	二七	—	五	—	七	—
騷擾	七九	—	七九	七二	—	七	—	—	△二
放火	一、九四〇	四七一	二、四一一	二、四二八	二、四七五	△一七	△六四	二〇	△二四
住居ヲ侵ス	五六	一	五七	六〇	—	△三	—	七	△七
略取及誘拐	二三	八	三一	三二	—	△一	—	六	一
諸規則									
陸海軍刑法	九一	—	九一	九六	—	△五	—	一〇	二
森林法	二四一	三	二四四	二六五	—	△二一	—	五五	△三一
徵兵令	一六	—	一六	一二	—	四	—	四	△四
郵便及電信法	六一	一	六二	五六	—	六	—	一〇	△六
以上列記以外ノ刑法犯及諸規則違犯	一、三八六	二五三	一、六三九	一、五八二	二、五一五	五七	△八七六	五、九二三	五二一
總計	四四、九八八	二、六五一	四七、六三九	四六、九六四	四七、六九二	六七五	△五三	九、六七〇	△五九〇

(備考)　本表ノ前年同月末日ノ罪名ニ付キテハ便宜上詐欺及恐喝、横領ニ對シテハ舊刑法ノ詐欺取財及受寄財物ニ關スル罪ヲ、文書、有價證券偽造、印章偽造ニ對シテハ舊刑法ノ官印官文書、私印私書各偽造行使罪ヲ、又殺人、嬰兒殺ニ對シテハ舊刑法ノ謀殺、故殺罪ヲ各々合算比較シ其他新舊法ノ各罪名及內容ノ相異アリテ對照シ得サルモノハ以上列記以外ノ刑法犯及諸規則違犯罪ノ部ニ算出シ以テ其增減ヲ示ス

○陸海軍

○水路告示第二千百四十八號

一艦船ニ於テ此告示ヲ領受シタルトキハ速ニ其關係ノ圖誌ヲ改正增補センコトヲ要ス
一方位ハ總テ磁針ニシテ燈臺ノ方位ハ海方ヨリ取ル
一經緯度ハ別ニ記載ナキトキハ總テ概位ナリ
一燈臺等ノ光達距離ハ晴夜ニ於ケルモノナリ
一霧中信號ハ密霧若クハ颶颺アル天氣ノ時ノミ施行ス然ラサルモノハ特ニ其旨ヲ注記ス
一水深ハ平均大低潮面下ノモノヲ示ス
一高ハ平均大高潮面上ノモノヲ示ス

第六五七五項　支那東岸　海壇海峽南口
暗岩ノ發見

一記事　汽船 Kutsang ハ海壇海峽南口ニ於テ海圖ニ記載ナキ暗岩ニ擱坐セリト云フ

該岩ハ雙日島(Double Yit)ノ東嶼ヨリ約東北東距離六鏈ニアリ

一位置　北緯二五度一五分四九秒
　東經一一九度四〇分一二秒　海圖第四四八號ニ據ル

一水深　約七呎
一偏差　明治四十二年〇度四五分西
一關係海圖　第四四八號第四四六號第二三二號第二四四號
一關係誌類　支那海水路誌第二卷三九三頁
一出所　明治四十二年三月十八日付清國各口巡工司告示第四六五號

第六五七六項　內海　紀伊水道西側
撫養ノ瀨戸內水底電線ノ沈布

一記事　明治四十二年二月二十三日官報遞信省告示第二一七號ヲ注視スヘシ

一關係海圖　第一一二號第一一一號
一關係誌類　日本水路誌第三卷三三頁

第六五七七項　內海　備讃瀨戸西部
鍋島燈臺東方ノ沈沒漂流船

一記事　日本郵船會社汽船山東丸ハ備讃瀨戸西部鍋島燈臺ノ東方ニ於テ一隻ノ沈沒漂流船ヲ目擊セリト云フ

一位置　鍋島燈臺ノ東方二浬
　鍋島燈臺
　北緯三四度二三分　東經一三三度四九分

一漂流船　「スクーナー」形船ノ轉覆セルモノニシテ船底ヲ水面上ニ顯ニ帆布附著ノ儘漂流ス

一偏差　明治四十二年四度四四分西
一出所　明治四十二年三月二十六日付田中福岡縣港務長報告

第六五七八項
東京海灣　横濱港
繫船浮標ノ新設
一記事　横濱港第二區內ニ左記ノ繫船浮標ヲ新設セリ
一位置　該浮標ヨリ｛北水堤燈臺ハ　南六二度半東　距離三⅔鏈／北水堤上ノ區界立標ハ　北一〇度東｝
北緯三五度二七分四三秒　東經一三九度三九分五秒
一名稱　第十二號繫船浮標
一偏差　明治四十二年四度二九分西
一關係海圖　第六七號第六六號
一出所　明治四十二年三月二十九日付石井神奈川縣港務長通知

第六五七九項
內海　下關海峽
門司港規程及特別信號中ノ改正
一記事　門司港規程及特別信號中左ノ通改正ス
一改正　第三十條中「拾圓以下」ヲ「五拾圓以內」「拘留又ハ科料」ヲ「三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料」ト改メ特別信號中Mノ次ニ「N第四號浮標ニ繫留スヘシ」ノ一項ヲ追加ス
一關係誌類　日本水路誌第三卷四六七頁及水路告示第二〇五九號
一出所　明治四十二年福岡縣令第十二號及同縣告示第一〇〇號
右告示ス

明治四十二年四月一日　水路部長　中尾雄

注意
一當部刊行ノ圖誌類ハ左記ノ各地ニ於テ之ヲ販賣ス
日本郵船株式會社東京本店○神戸、長崎、函館、門司ノ四支店及大阪尙協所
一此告示ノ印刷物ハ若干部ヲ前記ノ圖誌販賣所ニ備置キ無代價ニテ各航海者臨時ノ要望ニ應スヘシ
一此告示ノ印刷物ハ左記ノ韓國沿海各理事廳及帝國領事館ニモ送付シアルヲ以テ各航海者ハ隨時該處ニ就テ覽觀スルヲ得ヘシ
鎭南浦　馬山　仁川　木浦　群山　釜山　元山　城津○孟買　新嘉坡　馬尼剌　香港　盤谷
廈門　汕頭　上海　漢口　杭州　福州　芝罘　天津　牛莊　浦鹽斯德　晩香坡　シヤトル
桑港　ホノルヽ　シツニー
一海上ノ危險ヲ發見シ又ハ航海上現行圖誌ノ改補ニ必要ナル實驗ヲ爲シタルトキハ速ニ其當事者ヨリ直接水路部ニ報告アランコトヲ希望ス依テ便宜ノ爲メ水路報告用紙ト題セル印刷物若干部ヲ第一號ニ記セル各圖誌販賣所ニ備置キ無代價ニテ各航海者ノ要望ニ應ス但必スシモ此用紙ヲ用ユルニ及ハス

○蹄鐵術卒業　野砲兵第十八聯隊ニ於テ本月二十四日左記ノ者ニ各〻蹄鐵術卒業證書ヲ付與セリ（陸軍省）

千葉縣平民	砲兵一等卒	石橋	重憲
東京府平民	砲兵一等卒	市川	仲次郎
東京府平民	砲兵一等卒	小山	太郎
東京府平民	砲兵一等卒	田廣	幸次郎
山梨縣平民	砲兵二等卒	平山	高道
東京府平民	砲兵二等卒	今井	紺次郎
神奈川縣平民	砲兵二等卒	宮川	濱吉
千葉縣平民	砲兵二等卒	鈴木	嘉之吉
神奈川縣平民	砲兵二等卒	久保田	藤次郎
東京府平民	砲兵二等卒	天野	國吉
東京府平民	砲兵二等卒	金子	直
埼玉縣平民	砲兵二等卒	金子	榮藏
東京府平民	砲兵二等卒	大竹	次郎
千葉縣平民	砲兵一等卒	木原	要
山梨縣平民	砲兵一等卒	齊藤	定三郎
埼玉縣平民	砲兵二等卒	小川	龍吉
千葉縣平民	砲兵一等卒	金子	松五郎
東京府平民	砲兵二等卒	土屋	爲之助
千葉縣平民	砲兵二等卒	村上	竹次郎
東京府平民	砲兵二等卒	醍醐	榮吉
千葉縣平民	砲兵一等卒	中村	久太郎
山梨縣平民	砲兵二等卒	鈴木	鐵三郎
山梨縣平民	砲兵二等卒	奥石	多吉
千葉縣平民	砲兵二等卒	加藤	勝太郎
山梨縣平民	砲兵二等卒	日下	操太郎
千葉縣平民	砲兵一等卒	柴宮	內藏
千葉縣平民	砲兵二等卒	鎌形	藤吉
千葉縣平民	砲兵二等卒	齋藤	松太郎

○軍艦發著　各港灣ニ於ケル軍艦發著左ノ如シ（海軍省）

艦名	月日	著	發	行先
初雪	三、三〇		吳	廣島灣
時雨	同		吳	廣島灣
初春	同		吳	廣島灣
春風	同		吳	廣島灣
豐橋	同	吳		
明石	同	吳淞		
磐手	三、三一	佐世保		
朝風	同	吳		
潮	同	吳		
子日	同	吳		
若葉	同	吳		
富士	同	吳		

○學事

○農業教員養成所規則中追加　東京帝國大學ニ於テ今般同學農科大學附屬農業教員養成所規則中左ノ通追加セリ（文部省）
第十八條　品行方正學術優秀ノ者ニシテ既修ノ學科ニ就キ尙研究セント欲スル者ハ學科ノ種類ニ依リ卒業ノ後一箇年以內在學ヲ許可スルコトアルヘシ
研究ヲ了リタルトキハ其成績ヲ考查シテ證明書ヲ附與ス
現行第十八條ヲ第十九條トス

○卒業證書授與　學習院女學部ニ於テ去月三十日卒業證書授與式ヲ擧行セリ其狀況左ノ如シ（宮內省）
當日午前九時三十分房子內親王殿下式場ニ成ラセラル又華族會館ヨリ中學科卒業生一同ヘ物品ノ寄贈アリキ院長ノ式辭及卒業生等ノ氏名ハ（イロ）順左ノ如シ

院長式辭
本日學習院女學部卒業證書授與式ヲ擧クルニ際リ畏クモ　周宮殿下ノ御臨場ヲ辱ウシタルハ洵ニ本院ノ光榮ニシテ卒業生ノ面目亦之ニ過クルナシ
抑本院女學部ハ夙ニ　皇后陛下ノ令旨ヲ奉體シテ專ラ華族ノ子女ヲ教育シ現在ニ於ケル世ノ淑女タルヘキハ勿論未來ニ於ケル良妻賢母タルヘキ素ヲ養ヒ一般婦人ノ儀範タラシメンコトヲ期セリ今ヤ諸子ハ此ノ主旨ニ基キテ制定シタル本部專修科若クハ中學科ノ課程ヲ卒ヘ名譽アル本院卒業生タルノ榮ヲ荷ヘリ豈祝セサルヘケンヤ然リト雖モ本院カ豫期スル所ノ目的ハ諸子カ今後ニ於テ妻タリ母タルノ義務ヲ完了スルノ日ヲ待ッテ始メテ其結果ヲ知ルヘキナリ前途ノ責務重且大ナリト謂フヘシ諸子カ今後ニ盡スヘキ責務ノ素養ハ卒業ノ今日已ニ遺憾ナカルヘキモ今茲ニ特ニ一言シ置クヘキコトアリ他ニアラス上流ノ女子ハ動モスレハ安逸ニシテ勤儉質素ノ德ヲ缺クノ弊ニ陥非ルコトナシトセス是レ本院教育ノ主旨ニ背クモノナレハ諸子ハ深ク思ヒ遠ク慮リテ勤儉質素ノ德ヲ重シ其履行ヲ端正ニシ一般婦人ノ儀範トナリ以テ皇室ノ殊遇ト父祖ノ恩賚トノ萬一ニ奉答シ本院カ豫期ノ目的ヲ完成センコトヲ努メヨ

專修科卒業生	
久留島	園子
專修科別科御修了	
武子女王殿下	
專修科別科修了生	
横尾	テル
難波	里久子
山澤	治
關	光子
中學科卒業生	
伊東	延子
石井	多美子
伊地知	梅子
石黒	漆
岩崎	春江
坊城	竹子
土岐	信子
東郷	八千代
德川	繼子
大濱	茂子
岡田	和子
織田	ゑい
大給	万千子
渡邊	文子
若槻	繁子
和田	弘子
川村	敬子
加納	治子
河本	露子
加藤	喜美子
川原	たま
嘉納	嘉壽
芳川	鎌子
米井	清子
依田	紹枝
高梨	婦美
谷	豐子
多賀	浦喜
相馬	元子
早田	よね
辻村	キク
中村	光
長坂	通子
中山	光代
村上	君子
牟田	淑子
草間	千代子
黒澤	慶子
山口	ミサ
安井	恒子
山岡	八十江
柳川	靜子
馬屋原	益子
マリー、フック	
松平	信子
前田	秀子
松平	鶴
藤井	快
福原	安
佐藤	千代子
齋藤	美嘉
木村	若子
木村	墨子
宮原	藤枝
三好	琴子
首藤	靜子
志麼	松
志賀	之子
向	まさ子
木尾	孝子
森	錦子
鈴木	幸世
中學科別科修了生	
伊達	ユウ
廣幡	則子

○産業

○砂鑛採取業許可　砂鑛採取法ニ依リ處分シタルモノ左ノ如シ（農商務省）

許可番號	採取地	鑛種	許可ノ月日	採取人氏名
砂 六一五〇	北海道北見國紋別郡渚滑村字上渚滑	砂金	三、一九	木村清吉外一人
同 六一五一	同上	同	同	同
同 六一五二	同上	同	同	同
同 六一五三	同上パンケオニショマイ川筋	同	同	同

○衛生

○臺灣「ペスト」患者　臺灣島ニ於ケル去月十二日ヨリ十八日ニ終ル一週間內ノ「ペスト」患者ハ嘉義廳二十八、鹽水港廳十七、臺南廳二ニシテ本年初發以來ノ患者累計二百七十二ナリ（內務省）

正誤

去月三十日本欄講習證書授與ノ項中稻松可志太ハ稻松志可太鈴木粂竹ハ鈴木粂介ノ孰モ報告誤　內務書記官

○地方行政

○村吏員效績表彰　佐賀縣ニ於テ村吏員ノ效績アル者ニ對シ明治三十八年同縣訓令第三百五十四號ニ依リ本年二月十一日左ノ如ク褒狀ヲ授與セリ（佐賀縣）

神埼郡脊振村長　徳川　權七
明治十三年神埼郡服巻山戸長役場筆生ニ擧ケラレシヨリ以來村會議員、郡會議員、縣會議員及地方森林會議員等ノ公職ニ從事シ鞠躬スル所尠カラス其ノ明治三十七年脊振村長ニ擧ケラルヽヤ恪勤勵精一意村治ノ發展ヲ謀ランコトヲ期シ而シテ村治ノ發展ハ專ラ經濟ノ基礎ヲ鞏固ニスルノ急務ナルヲ認メ百方村民ニ勸説シテ基本財産ノ造成ヲ企圖シ國有林野三千町歩ノ特別拂下ヲ受ケ五十箇年計畫ヲ確立シ以テ明治三十八年度ヨリ造林ニ著手シ既ニ松、杉、扁柏等百有餘万本ヲ植栽セリ而シテ其ノ拂下代金及施業費ハ之ヲ他ニ需メテ普通村費ニ累ヲ及ホササランコトヲ期シ苦心經營調達ヲ怠ラサルナク即チ是等資金ハ或ハ寄附金穀及借入金ヲ以テ之ニ充當シ或ハ林野ノ收入及夫役ヲ以テ之ヲ遂行セル等治蹟顯ル見ルヘキモノアリ其ノ他戸主會及青年會ヲ起シ勸儉力行ヲ奬メ風儀ノ矯正ニ努ムル等其ノ勞效洵ニ顯著ナリトス仍テ明治三十八年佐賀縣訓令第三百五十四號第二條第三號ニ依リ此ノ褒狀ヲ授與ス

三養基郡田代村長　原　精一郎
町村制實施ノ際擧ケラレテ村長トナリ爾來勤續二十一年勵精職ニ當ル終始一日ノ如シ專ラ意ヲ教育ノ普及ニ注キ其ノ學校新築ヲ行ハントスルヤ焦心苦慮多年歲計剰餘金ヲ蓄積シ以テ之ヲ完成セリ又農事ノ改良發達ニ盡瘁シ造林事業ヲ興シテ基本財産ノ增殖ヲ圖リ其ノ他ノ道路溝渠井堰等ノ改善ニ努ムル等其ノ勞效洵ニ顯著ナリトス仍テ明治三十八年佐賀縣訓令第三百五十四號第二條第一號ニ依リ此ノ褒狀ヲ授與ス

東松浦郡久里村長　大久保　武
町村制實施ノ際擧ケラレテ助役トナリ明治二十七年村長ニ推サレ爾來勤續二十一年勵精村治ニ當リ夙ニ農事ノ改良發達ニ意ヲ注キ又教育ノ普及校舍ノ完成ニ力ヲ盡シ且租税滯納ノ弊ヲ矯メテ其ノ成績ヲ良好ナラシメ或ハ造林ノ經營ヲ爲シテ基本財産ノ造成ヲ圖リ又ハ土木工事ヲ起シテ交通ノ改善ニ努メ其ノ他公衆衛生ノ發達ニ留意シ又能ク事務ヲ整理スル等其ノ勞效洵ニ顯著ナリトス（以下前同文）

西松浦郡東山代村長　吉永　唯吉
町村制實施ノ際擧ケラレテ收入役トナリ明治三十二年助役ニ進ミ三十五年村長ニ推サレ爾來勤續二十一年恪勤其ノ職ニ從ヒ常ニ部下吏員ヲ愛撫シ又村民ニ對シ懇切ヲ盡スヲ以テ一般ノ信頼スル所ト爲リ事務ノ整理亦見ルヘキモノアリ夙ニ意ヲ教育ノ普及發達ニ注キ校舍ノ設備ヲ完成シ又納税ノ奬勵ニ力ヲ注キ其ノ成績頗ル良好ナリ其ノ他道路ヲ改修シテ交通ノ便利ヲ圖リ基本財産ヲ造成シテ之カ增殖ニ努メ特ニ勤儉貯蓄ヲ奬勵シテ好結果ヲ奏セシ等其ノ勞效洵ニ顯著ナリトス（以下前同文）

杵島郡六角村收入役　大串　吉次郎
明治二十五年六角村書記ニ擧ケラレ三十一年收入役トナリ爾來勤續十七年熱心其ノ職務ニ從事シ徵税令書ノ發布國縣税ノ納付各期日ヲ失セルコトナク常ニ納税者ニ對シ懇篤其ノ期ヲ誤ルコトナキヲ示諭シ其ノ滯納者ニ對シテハ法令ヲ勵行シテ毫モ假借スル所ナキヲ以テ納税ノ成績頗ル良好ナリ其ノ他帳簿ノ記入書類ノ編綴現金ノ保管等井然トシテ一絲亂レス其ノ效勞洵ニ顯著ナリトス（以下前同文）

○在外公館報告

○傳染病週報　淸國在留本邦人傳染病狀況ニ付キ在廈門帝國領事館ヨリノ週報左ノ如シ本欄內參看（去月三十一日外務省）
廈門（自三月十三日至同十九日）患者死者共皆無ナリ

○紐育生絲及綿花市況　紐育ニ於ケル生絲及綿花市況ニ付キ同地駐在總領事水野幸吉ヨリ去月三十日發ヲ以テ左ノ如ク電報アリ本欄內參看（去月二十五日外務省）
生絲市況緩慢」綿花先物市場前週來引續キ强氣二十九日一時安値ヲ唱ヘタルモ本日ニ至リ相場立直シ取引多シ本日引値　三月九・五七、五月九・五一、七月九・四二、十月九・二六、十二月九・二三、在荷百三十一万餘俵

○觀象

○全國天氣豫報　自三月三十一日午後六時至四月一日午後六時二十四時間ノ天氣豫報　三十一日發

第一區	北東ノ風、概ネ曇ナレトモ雨模樣アリ
第二區	北西ノ風、概ネ晴後曇
第三區	第二區ニ同シ
第四區	北西ノ風、概ネ曇ナレトモ雨模樣アリ
第五區	第二區ニ同シ
第六區	第二區ニ同シ
第七區	北西ノ風、概ネ曇
第八區	北ノ風、概ネ晴
第九區	北東ノ風、概ネ晴
第十區	第九區ニ同シ

第7727号　本文

第7727号 本文

○東京地方天氣豫報
北ノ風、晴

○東京氣象
三月三十日

氣壓（海面ノ度）	平均	七六三・一粍
氣溫	平均	七・四度（平年ヨリ二・二度低シ）
	最高	一一・三度
	最低	五・五度
濕度	平均	七六・一%
水蒸氣張力	平均	五・八粍
雲量	平均	九・四
日照時間		四・一時
風	平均速度	四・九米
	最大速度	八・一米
	最多方向	北東
降水	總量	三・二粍
	一時間最大量	一・〇粍
蒸發	總量	二・二粍
記事		前日來ノ降雨午前八時十五分ヨリ斷續シ同十時三十八分ニ至リ全ク歇ム、日月暈現レ夜露アリ

○東京地震報告
發震時　三月三十一日午前一時四十七分四十七秒
震動時間　水平動　二分三十六秒（初期微動　一秒　主要動　五十五秒　終期微動　一分四十秒）
　上下動　—分—秒（初期微動　—秒　主要動　—秒　終期微動　—秒）
最大水平動　方向　南—北　全振幅　〇・三粍　振動期　〇・三秒（發震後第一秒時ニ現ル）
最大上下動　全振幅　—粍（—度）　振動期　—秒（發震後第—秒時ニ現ル）
人身ノ感覺　震度　微　性質　急　地鳴　無
記事　此地震ハ最初ヨリ急性ナル震動ニ起リ發震後一秒ヲ經テ最大振幅ヲ現シ爾後一分間ハ震動稍々著明ナリシカ漸次靜止セリ
（以上中央氣象臺）

○廣告

○參拜時限
本月三日　神武天皇御例祭ニ付キ非役從二位以下同勳二等以下ノ者ハ正午十二時ヨリ午後一時マテニ參拜スヘシ
但シ有位者及有位有勳者ハ位階相當ノ大禮服無位有勳者ハ通常禮服燕尾勳章本綬佩用ノコト
明治四十二年四月　式部職

○收容貨物
左記貨物ハ本關ニ於テ收容處分後滿六箇月ヲ經過シタルモノニ付キ關稅法第五十條ニ依リ公告ス
明治四十二年四月　橫濱稅關

收容年月日	記號	箇數	品名
30/9/41.	H.	Casks 9	Unknown
〃	N/M	P'ces 1	Iron Bar

○檢定教科用圖書
中學校體操科用
中等兵式體操教科書　全一册　定價金七十五錢
明治四十一年十二月五日發行
著作者　廣島縣平民　得能武一郎
　　　　廣島縣平民　福永嘉四郎
發行者　東京府東京市日本橋區本町三丁目十七番地　金港堂書籍株式會社
右明治四十二年三月二十五日檢定ス
明治四十二年四月　文部省

○船舶職員試驗
新潟海務署ニ於テ本月二十二日一等機關士、二等機關士、三等機關士ニ限リ臨時船舶職員試驗ヲ執行ス
明治四十二年四月　遞信省

○免狀無效
第一三八號　三等機關士免狀（發動機船ニ限ル）明治三十八年十二月二十六日附　所有者　松田彌太郎
右流失ノ旨屆出ニ依リ無效トス
明治四十二年四月　遞信省

○證券保管通帳亡失
左記證券保管通帳亡失ニ付キ自今無效トス但シ其所在ヲ發見シタルトキハ速ニ郵便爲替貯金管理所ニ通報スヘシ

記號	番號	預ケ入氏名
か	八五〇	河合喜太郎
恩て	七五〇七	末松圭毅

明治四十二年四月　郵便爲替貯金管理所

○土地賣拂竝貸付
明治四十一年中區畫施設シタル殖民地ヲ北海道國有未開地處分法第二條第四條第五條ニ依リ賣拂又ハ貸付スヘキ土地竝ニ同法第三條ニ依リ特定地ヲ左ノ如ク定ム但シ特定地ニ對スル貸付願ハ本月十五日ヨリ所轄支廳ニ於テ受理ス（圖面ハ北海道廳及所轄支廳ニ備置ク）
明治四十二年四月　北海道廳

國	郡	町村	大字	區畫地名	概算地積（町）	樹木有無
特定地						
檜山支廳管內						
渡島	檜山	厚澤部	鶉	西鶉	二〇八・八二〇二	雜樹疎林及無木地
同	爾志	熊石	相沼內	相沼內	一一三・五八〇三	同
同	同	同	同	二股	一一四・四七二一	雜樹林
後志	太櫓	太櫓	太櫓	太櫓川上流	一二八・〇〇〇〇	針濶混合疎林
同	同	同	同	小川	三七七・六九一一	同
同	同	同	眞瑠石	眞瑠石	一一三三・四二一九	同
壽都支廳管內						
同	壽都	黑松內		ホロカシユプト	五〇六・六六二〇	雜樹疎林
同	磯谷	南尻別		ユサンペツ	二三四・四三〇五	同
岩內支廳管內						
同	岩內	前田	前田 幌似	幌似	一三八・八〇〇〇	同
膽振	虻田	倶知安		岩尾別	四二六・六六二〇	同
函館支廳管內						
同	山越	長万部		栗ノ木岱	一六七・〇六二〇	同
同	同	同		ポロナイ	三六七・六六二〇	同
室蘭支廳管內						
同	虻田	辨邊	辨邊	辨邊	三、〇三三・九二〇七	同
同	同	同	同	上尻布	一七八・三八二八	同
同	有珠	壯瞥		オロウエンシリベツ	七三五・五〇〇〇	針濶混合疎林
札幌支廳管內						
石狩	石狩	當別		上當別	五九一・〇五二九	同
同	同	厚田	望來	望來	三六五・九一二四	雜樹疎林及無木地
空知支廳管內						
同	樺戸	新十津川		トツク	六二八・三三一〇	雜樹疎林

國	郡	町村	大字	區畫地名	概算地積（町）	樹木有無
同	空知	歌志內		幌倉	八九・四八一一	同
上川支廳管內						
同	同	上富良野	上下富良野	ベベルイ	四六三・三九一五	針濶混合疎林
同	同	南富良野		ルーオマンソラプチ	八〇・一五〇五	同
同	上川	愛別		ルベシユペ	四二九・八八一〇	雜樹疎林
天鹽	中川	下名寄		オンネナイ	一八〇・三九二七	針濶混合疎林
同	同	同		ピウカ	九〇四・〇六一二	同
同	同	同		チエプン	五三〇・九六一五	同
河西支廳管內						
十勝	上川	人舞屈足		ニユシナイ	七九七・八六二四	針濶混合林
同	河西	生剛	生剛	シタコロベ	一二六・八〇〇三	雜樹疎林
同	中川	勇足		ピランベツ	二〇三・六二一八	同
釧路支廳管內						
釧路	阿寒	舌辛		舌辛	二一八・〇九〇三	雜樹林
同	同	飽別		飽別	一五八・七九〇三	針濶混合疎林
同	同	同		徹別	一一三・七一二一	雜樹疎林
網走支廳管內						
北見	紋別	湧別		バロー	七六三・五二〇〇	針濶混合稍々密林
同	同	同		フミ	四二七・二一一五	雜樹疎林
同	同	湧別 紋別	藻鼈	シユブノツナイ	八八三・二〇一一	同
同	同	紋別	同	ヤツシユウシナイ	四九五・九八〇八	針濶混合疎林
同	同	渚滑		瀧ノ上	二、一七四・六八〇六	針濶混合稍々密林
同	同	同		サクルー	一、二三八・七〇〇五	針濶混合疎林
同	同	瑠橡		瑠橡	一三六・七四〇九	針濶混合稍々密林
同	同	興部		上興部	一四二・二七二四	針濶混合疎林
同	常呂	生顏常		ユカ	三二二・八六〇九	針濶混合密林
同	同	沸野付牛澤		サロマペツ	七〇五・六〇〇〇	針濶混合稍々疎林
賣拂又ハ貸付地						
檜山支廳管內						
渡島	檜山	厚澤部	鶉	西鶉	一一八・一〇二三	樹木ナシ
同	爾志	熊石	相沼內	相沼內	二〇・一五二五	雜樹疎林
後志	太櫓	太櫓	眞瑠石	眞瑠石	二二・〇一〇六	
同	同	同	太櫓	小川	一八一・四六二八	同
同	瀬棚	利別		パンケオイチヤヌンペ	五二二・八五一八	針濶混合疎林
壽都支廳管內						
同	壽都	黑松內		ホロカシユプト	一二九・三三一〇	雜樹疎林
岩內支廳管內						
同	岩內	前田	前田 幌似	幌似	二一三・〇六二〇	同
函館支廳管內						
膽振	山越	長万部		栗ノ木岱	七六・二二二六	同
同	同	同		ポロナイ	七八・九八〇〇	同
室蘭支廳管內						
同	虻田	眞狩		シリベツ	一、一五八・〇六一三	針濶混合疎林
同	同	辨邊	辨邊	辨邊	二〇二・五六二三	雜樹疎林
同	同	同	同	上尻布	一二二・五三一〇	同
同	有珠	壯瞥		オロウエンシリベツ	二八・八三一〇	針濶混合疎林
札幌支廳管內						
石狩	石狩	當別		上當別	一、九八三・一九〇五	同
同	同	厚田	厚田	ハツタリ	二四五・三二〇六	雜樹疎林
空知支廳管內						
同	空知	歌志內		幌倉	七・五八一三	同
上川支廳管內						
同	同	上富良野		フラヌ	七二四・〇五〇五	雜樹疎林及無木地
同	同	同	上下富良野	ベベルイ	五八一・一三一一	針濶混合密林
同	同	南富良野		落合	二五八・八五〇三	針濶混合疎林
同	同	同		ルーオマンソラプチ	七八・三二〇〇	同
同	同	同		シーソラプチ	一、〇八五・〇六〇八	同
天鹽	中川	下名寄		オンネナイ	四五四・六二一六	同
同	同	同		ピウカ	一、六六九・九〇〇三	同
同	同	同		チエプン	二六二・五八一六	同
河西支廳管內						
十勝	上川	人舞屈足		ニユシナイ	一、六九一・三七〇八	雜樹疎林
同	河西	芽室		上芽室	一、四三八・二四〇五	同
同	同	生剛		シタコロベ	二、五四五・〇八〇〇	同
同	中川	勇足		ピランベツ	八、〇九四・〇二〇七	同
同	同	本別		ピリペツ	二、六〇六・四五二二	同
同	同	勇足		遠派	一、五九七・五八二三	同
同	同	潤寒	居邊	下居邊	一、〇一〇・八五一二	同
同	同	同	同	居邊	一、八二五・八五二二	同
網走支廳管內						
北見	紋別	湧別	藻鼈	パロー	六七五・八〇一四	針濶混合疎林
同	同	紋別	同	ヤツシユウシナイ	四〇五・三〇二四	同
同	同	渚滑		上渚滑	四四五・三九一六	雜樹疎林
同	同	同		瀧ノ上	四〇二・二六一〇	針濶混合稍々密林
同	同	同		サクルー	二一七・七六〇九	針濶混合稍々疎林
同	常呂	野付牛		上常呂	一、〇八七・二三二四	雜樹疎林
同	同	生顏常		ユカ	二、〇九〇・一八〇二	針濶混合密林
同	同	沸野付牛澤		サロマペツ	九八六・五〇〇〇	針濶混合稍々密林
釧路支廳管內						
釧路	阿寒	舌辛		舌辛	五七三・六六二八	
同	同	飽別		飽別	三一・五〇二八	

○特定地中訂正
明治四十一年七月北海道廳告示第四百五十三號特定地ノ內岩內支廳管內ニ屬スル分左ノ如ク訂正ス
明治四十二年四月　北海道廳

國	郡	町村	大字	告示第四百五十三號ノ分 地名	告示第四百五十三號ノ分 地積概算（町）	今回訂正ノ分 地名	今回訂正ノ分 地積概算（町）
膽振	虻田	倶知安		カシユプニ	特定地 六五八・六二〇九	カシユプニ	特定地 二八〇・一三〇三 賣拂地 三六・九五〇三
同	同	同		カシユプニ	同 一、七二五・三三一〇	ペーペナイ	特定地 一、四六九・八九一四 賣拂地 一一八・三九〇四
同	同	同		ペーペーナイ	同 五二一・六六二〇	倶知安	特定地 一、四四五・三七二五 賣拂地 四四三・二〇〇八
同	同	同		ポンクトサン	同 一、六九四・五四〇五	ポンクトサン	特定地 四一〇・二八一四 賣拂地 二九六・二六〇七

○村役場位置

去月二十二日南河内郡埴生村役場位置ヲ大字伊賀十五番屋敷ニ、同二十五日中河内郡西郡村役場位置ヲ字堤合九百七十三番地ニ孰モ變更セリ

明治四十二年四月　大阪府

信夫郡松川村水原村組合ヲ去月三十一日限解除シ更ニ本月一日ヨリ松川村役場ヲ字本町西程十六番地ニ、水原村役場ヲ字石内五十三番地ニ孰モ設置セリ

明治四十二年四月　福島縣

○免狀遺失

第五號　乙種三等狩獵免狀

右遺失ノ旨届出テタリ　北葛飾郡旭村大字上内川八三番地　成田　熊太郎

明治四十二年四月　埼玉縣

○購買入札

一用紙類　八點　上野納　入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

一同　三點　入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上本月八日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

一粘白「レッド」　一万五千封

一乾白「レッド」　三千三百封

一煮亞麻仁油　二千英哦

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上本月十六日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

以上契約ハ孰モ東部鐵道管理局長長谷川謹介擔任ス

明治四十二年四月一日　東部鐵道管理局

一電氣用品　五十六點　一銅塊　六千封

新橋納　新橋納

本月十五日當局計理課ニ於テ入札執行　本月八日當局計理課ニ於テ入札執行

入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）　入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上當日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ中部鐵道管理局長古川阪次郎擔任ス

明治四十二年四月一日　中部鐵道管理局

一種油　四十四石　中央東線鹽尻納　入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當所ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上本月十六日午前十一時限入札書ヲ當所ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ鐵道院松本建設事務所長心得渡邊直也擔任ス

明治四十二年四月一日　鐵道院松本建設事務所

一第一種鉸枕木（舊形）　一万八千挺　一同（同）　七千五百挺

京都府何鹿郡綾部納　同府船井郡上和知村字本庄納

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當所ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上本月十六日午前十一時限入札書ヲ當所ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ鐵道院福知山建設事務所長小川東吾擔任ス

明治四十二年四月一日　鐵道院福知山建設事務所

一杉及松材　十九點　新津及能代川、早出川綠路附近納

入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右購買ス入札望ノ者ハ當所ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上本月十六日午前十一時限入札書當所ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ鐵道院若松建設事務所長富田保一郎擔任ス

明治四十二年四月一日　鐵道院若松建設事務所

一三椏　二万貫匁　一四枚判半紙　五十万枚

一抄紙原料（亞硫酸木纖維甲）　七千貫匁　但シ來ル五月五日マテニ二十万枚、同月三十一日マテニ三十万枚活版部納

一同（同乙）　四千貫匁　一男工單役服（乙）　三千四百三十五組

但シ來ル五月十五日マテニ抄紙部納　内（本局納　二千三十五組　王子納　千四百組）

一白土　一万二千貫匁　一女工單役服（甲）　二千五百八十一組

一同（下等）　一万二千貫匁　内（本局納　二千百三十一組　王子納　四百五十組）

但シ來ル五月二十日マテニ抄紙部納　但シ來ル五月三十一日マテ納

一石炭（新入粉炭）　百五十万斤

但シ來ル五月十日マテニ北豐島郡王子町豐島川岸印刷局物揚場納

一石炭（新夕張粉炭）　百五十万斤

但シ來ル五月十五日マテニ同上

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五、契約保證金落札代價百分ノ十（圓未滿圓位ニ切上ク）、入札者ハ二年以上其業ニ從事セル旨市區町村長ノ證明アル者ニ限ル

右購買ス入札望ノ者ハ本月十五日マテニ當部ニ出頭標本及入札契約心得書熟覽ノ上同十六日午前十時マテニ證明書及入札保證金ヲ、同十時三十分マテニ入札書ヲ當部ニ差出スヘシ同日午前十時三十五分開札ス

此契約ハ印刷局長神野勝之助擔任ス

明治四十二年四月一日　印刷局會計部

一水管式汽罐　二臺　一蓄電池　一組

一汽機直流發電機　二臺　一起重機（二種）　二臺

一電動機（八種）　三十臺　外七點

以上入札保證金各自各々見積價格百分ノ五以上、入札者ハ二年以上直輸入營業ヲ繼續セル者ニ限ル

右各別ニ入札ニ付シ購買ス入札望ノ者ハ當局總務部用度課ニ就キ仕樣書、入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上本月十七日及來ル五月十五日午前十時マテニ入札保證書金及營業證明書ヲ添ヘ入札書差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ造幣局長長谷川爲治擔任ス

明治四十二年四月一日　大阪造幣局

第一號　過燐酸石灰（有效燐酸分百分ノ十五以上ヲ含有シ製造會社ノ證明アルモノ）　三千六百二十五貫匁　第二號　過燐酸石灰（同）　二千九百三十五貫匁　當部本佛澤分厩納

第三號　過燐酸石灰（同）　八千五百二十四貫匁　當部萩野派出部納

當部上原分厩納

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上、入札者ハ二年以上引續キ其業ニ從事セル旨市町村長ノ證明アル者ニ限ル

右購買ス入札望ノ者ハ本月六日マテニ當部ニ就キ入札心得書及契約書案熟覽ノ上同七日午前十時限入札保證金ヲ添ヘ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ軍馬補充部鍛冶谷澤支部長高田八郎擔任ス

明治四十二年四月一日　軍馬補充部鍛冶谷澤支部

一（無水「アルコール」）　二千瓩

一（無水「アルコール」）　五百瓩

一「アークチックエンヂンオイル」　二十五石

一柔質丸鋼　十三万六千五百瓩

一鋼板　二百板

一「ガルセリー」銑鐵　十五万瓩

一「グリスリン」　七千瓩

一種油　千石

以上入札保證金各々見積代價百分ノ五以上、入札者ハ二年以來繼續シ且ツ現實其營業ニ從事スル證明書ヲ有スル者ニ限ル

右購買ス入札望ノ者ハ當部計算課ニ就キ契約書案及入札人心得書等熟覽ノ上本月十五日マテニ營業證明書ヲ差出シ同十六日午前十一時限入札スヘシ同時當部ニ於テ開札ス

此契約ハ吳海軍工廠會計部長島山頼二擔任ス

明治四十二年四月一日　吳海軍工廠會計部

一黑絨等十六品　金澤監獄納　入札保證金各自見積價格百分ノ五以上

右購買ス入札望ノ者ハ本月十七日マテニ當監第三課ニ就キ見本品及契約書案等熟覽ノ上同日午前十一時マテニ同課ニ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ金澤監獄典獄加藤勝次郎擔任ス

明治四十二年四月一日　金澤監獄

第一號　把束用麻絲　第二號　第一種郵便木札外一點　第三號　小割松炭外二點

以上入札保證金各自見積額百分ノ五以上（圓未滿切上ク）入札者ハ二年以來其業ニ從事シ且ツ明治四十一年五月遞信省令第二十四號ノ資格ヲ備フルヲ要ス

右單價契約ヲ以テ購買ス入札望ノ者ハ入札前日マテニ當局會計課ニ就キ入札人心得書、契約書案、仕樣書及見本品等熟覽ノ上本月十六日午前十時三十分マテニ入札保證金ヲ納入シ同日午前十一時限入札スヘシ即時同課ニ於テ開札ス

此契約ハ東京郵便局長坂野鐵次郎擔任ス

明治四十二年四月一日　東京郵便局

○請負入札

一和炭（運搬）　二千四百噸　一第二種和炭（同）　千噸

佐世保海軍工廠需品庫ヨリ永興防備隊及鎭海防備隊マテ運搬陸揚共　同所ヨリ大島需品支庫マテ運搬陸揚共

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上、入札者ハ二年以來其業ニ從事スル證明書ヲ有スル者ニ限ル

以上佐世保ニ於ケル積込ハ官ノ負擔トス

右請負望ノ者ハ當部計算課ニ就キ契約書案及入札人心得書等熟覽ノ上本月十五日午後二時限營業證明書及入札保證金ヲ添ヘ入札書差出スヘシ即時同課ニ於テ開札ス

此契約ハ佐世保海軍工廠會計部長清水宇助擔任ス

明治四十二年四月一日　佐世保海軍工廠會計部

○工事請負入札

富山線並木假合宿所及歌假官舍其他新設竝ニ移轉工事

一盛土　約立四十五坪

一切取　約立七十八坪

一假合宿所及官舍其他　五棟　建坪百五十二坪餘

右請負望ノ者ハ當所ニ就キ入札人心得書、契約書案、圖面、示方書及現場等熟覽ノ上本月十六日午前十一時限入札書ヲ當所ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ鐵道院富山建設事務所長遠武勇熊擔任ス

明治四十二年四月一日　鐵道院富山建設事務所

一假合宿所及附屬物置移轉　二棟　建坪三十五坪

其他

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

大藏省臨時建築部横濱支部横内

一第二號倉庫階段室鋼材加工及組立其他工事

入札保證金見積代價百分ノ五以上、入札者ハ二年以來其業ニ從事シ且ツ明治三十九年大藏省令第三十四號ノ資格ヲ備フル者ニ限ル

右請負望ノ者ハ當部ニ就キ入札規則、契約書案、仕樣書、繪圖面及現場等熟覽ノ上本月十六日午後二時限入札書ヲ當部ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ大藏省臨時建築部長工學博士妻木頼黄擔任ス

明治四十二年四月一日　大藏省臨時建築部

○入札拂下

一紙屑及反古紙　三點　新橋渡　入札保證金賣買總代金百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

一空樽外二點

右賣却ス買受望ノ者ハ當局計理課ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上本月十五日午前十一時限入札書ヲ同課ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ中部鐵道管理局長古川阪次郎擔任ス

明治四十二年四月一日　中部鐵道管理局

○支金庫移轉

松江本金庫所屬掛合支金庫ハ本月一日島根縣飯石郡掛合村大字掛合町八百七十三番地ヘ移轉ス

明治四十二年四月　中央金庫

○産業組合登記

有限責任中津村信用組合變更事項

一理事及監事改選

理事　愛甲郡中津村中津四百十四番地　關戸竹次郎

同所六千二百六十五番地　山田森三

同所六千二百二十二番地　長島峰三

監事　愛甲郡中津村中津四百五十四番地　熊坂德太郎

右明治四十二年三月十三日登記　小田原區裁判所上荻野出張所

登記第二號

無限責任龍江生産販賣購買組合登記事項中理事監事改選ニ因リ左ノ通變更セリ

一理事ノ氏名住所　長野縣下伊那郡龍江村二百六十七番地　木下富

同縣同郡同村三百番地　澤柳善三

同縣同郡同村二百八十三番地　市園藤太郎

一監事ノ氏名住所　長野縣下伊那郡龍江村百五十六番地　松島龜太郎

同縣同郡同村三千七百十番地　木山彦雄

同上登記第二號

無限責任龍江生産販賣購買組合ハ明治四十二年三月五日總組合員ノ決議ニ因リ解散ス

一清算人ノ氏名住所　長野縣下伊那郡龍江村二百六十七番地　木下富

同縣同郡同村三百番地　澤柳善三

同縣同郡同村二百八十三番地　市園藤太郎

右明治四十二年三月十五日登記　飯田區裁判所

産業組合登記第五號

有限責任和販賣購買生産組合登記事項中左ノ通變更ス一理事兒玉猛次郎ハ明治四十二年三月九日死亡

右明治四十二年三月十六日登記　上田區裁判所田中出張所

産業組合登記變更

無限責任横島信用組合登記事項中理事及監事任期滿了ニ依リ明治四十二年二月二十八日通常總會ニ於テ改選ノ結果左記ノ通重任　理事藤岡正胤、山本治五郎、山崎正臣、箭野省吾、橋詰覺治　監事大原禎馬、山崎克男、橋詰茂太郎

明治四十二年三月十三日登記　高知區裁判所大崎出張所

第七七二七号　本文

第7727号　本文

第 7727 号 本文

一資本金額　五百万圓内三百五十万圓拂込濟
一最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產額　千五百二十九万八千二百五十七圓四十四錢五厘
一商號　株式會社北海道拓殖銀行

明治四十二年四月一日

北海道札幌區大通東一丁目
株式會社北海道拓殖銀行

○株券記名書換停止

當會社定款第四十條ニ依リ明治四十一年十月一日ヨリ同四十二年三月三十一日ニ至ル勘定決算ニ付キ來ル五月一日ヨリ株主總會ヲ終ルマテ株券記名書換ヲ停止ス

明治四十二年四月

日本郵船株式會社

正誤

去月十六日官報附錄本欄商業登記ノ項中京都區裁判所ノ部二十一行二十五日ハ二十二日ノ誤植

○東京郵便局外國郵便締切時限

明二日門司マテ汽車便送同地ヨリ古倫坡丸ヲ以テ上海經由香港、印度以遠ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局
通常（普通）	二日午後九時半	二日午後六時半
通常（書留）	同日午後九時	同上
價格表記	同上	同上
小包	同日午後七時	同日午後五時
香港為替	同日正午十二時	一日午後四時

（備考）小包ハ印度、濠洲及喜望峯殖民地等宛竝ニ香港小包トス

明後三日横濱マテ汽車便送同地ヨリ「ベレロフォーン」號ヲ以テビクトリア經由歐米ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局
通常（普通）	三日午後七時半	三日午後五時
通常（書留）	同日午後七時	同上
小包	同日午後五時	同上
為替（聯合）	同日正午十二時	同日午前九時半
為替（特別）	二日正午十二時	二日午前九時半

（備考）小包ハ北米合衆國及ポートリコ宛トス

同日横濱マテ汽車便送同地ヨリ「ギメリック」號ヲ以テビクトリア經由歐米ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局
通常（普通）	三日午後零時半	三日午前九時半
通常（書留）	同日正午十二時	同上
小包	二日午後七時	二日午後五時
為替（聯合）	三日午前九時半	同日午後四時
為替（特別）	二日正午十二時	同日午前九時半

（備考）小包ハ北米合衆國及ポートリコ宛トス

同日門司マテ汽車便送同地ヨリ常陸丸ヲ以テ上海經由香港、印度及歐洲ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局
通常（普通）	三日午後七時半	三日午後五時
通常（書留）	同日午後七時	同上
價格表記	同上	同上
小包	二日午後七時	二日午後五時
香港為替	三日午後四時	三日正午十二時

（備考）小包ハ清國（獨逸局所在地）、埃及及歐洲等宛萬國小包竝ニ香港小包トス

同日神戸マテ汽車便送同地ヨリ「カレドニアン」號ヲ以テ上海經由香港、印度及歐洲ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局
通常（普通）	三日午後九時半	三日午後六時半
通常（書留）	同日午後九時	同上
價格表記	同上	同上
小包	同日午後七時	同日午後五時
香港為替	同日午後四時	同日正午十二時

（備考）小包ハ交趾支那、印度、埃及、濠洲及歐洲等宛竝ニ香港小包トス

同日敦賀マテ汽車便送同地ヨリ「ルンムン」號ヲ以テ浦潮斯德經由西伯利、歐洲及南米（亞爾然丁、伯剌西爾、智利、巴拉圭、烏爾圭）ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局
通常（普通）	三日午後七時半	三日午後五時
通常（書留）	同日午後七時	同上
價格表記	同上	同上
小包	同上	同上
聯合為替	同日午後四時	同日正午十二時

（備考）露國以外諸國宛各種郵便物ハ本便差立ノ指定アルモノニ限ル

○同上締切豫告

本月中外國郵便締切豫定日左ノ如シ

一布哇經由歐米諸國宛　七、十七、二十四日頃締切ノ筈
一ポートランド經由同上　九日頃締切ノ筈
一シアトル經由同上　十四、二十八日頃締切ノ筈
一加拿陀經由同上　十八日頃締切ノ筈
一タコマ經由同上　二十一日頃締切ノ筈
一西伯利經由ノ歐洲諸國及南米（亞爾然丁、伯剌西爾、智利、巴拉圭、烏爾圭）宛ハ毎週火、木、土曜日ニ上海、香港竝ニ印度地方ヘハ毎週數回ノ差立アルニ依リ隨時差出ス方速達ヲ得ヘシ

○日本郵船株式會社汽船横濱出發表

讃島丸　明二日未明横濱出帆荻ノ濱、函館、小樽行
熊野丸（濠洲行）　明後三日正午十二時横濱出帆本月六日午前十時神戸出帆門司、長崎、香港、マニラ、木曜島、タウンスビル、ブリスベーン、シドニー、メルボルン行
山口丸　本月四日横濱出帆同七日神戸出帆上海行
旅順丸　同日正午十二時横濱出帆四日市、神戸行
安藝丸　同五日午前十時横濱出帆同九日午前十時神戸出帆門司、上海、香港行（米國線復航）
兵庫丸　同日午後二時横濱出帆八丈島、父島、母島、沖湊、東湊行
高砂丸　同十四日正午十二時横濱出帆四日市、神戸、門司、仁川、大連、大沽、牛莊行

○同上神戸等出發表

弘濟丸　明後三日午前十時神戸出帆上海行
常陸丸（歐洲行）　同日午前十一時神戸出帆門司、上海、香港、新嘉坡、彼南、コロンボ、蘇士、ポートサイド、馬耳塞、倫敦、アントワープ行
立神丸　本月四日午前十時神戸出帆門司、長崎、釜山、元山、淸津、浦潮斯德行
竹島丸　同九日午前十時神戸出帆門司、大連、芝罘、大沽、牛莊行
毎日｛午後十一時（直航）青森發　翌朝五時函館著
　　　午後六時（直航）青森發　翌朝六時室蘭著
西京丸　毎月神戸發正午｛三日・十七日　門司發｛四日・十八日　基隆著午前｛七日・二十一日
鎌倉丸
右ハ神戸鐵道棧橋繫留ニ付キ同所ニテ切符購入乘船ノ便アリ

○大阪商船株式會社汽船神戸等出發表

韓國行
群山丸　明後三日午前九時大阪出帆同日午後一時神戸出帆門司（下關）、釜山、木浦、群山、仁川行
福州丸　本月五日午後三時大阪出帆翌六日午前十時神戸出帆門司（下關）、仁川、鎭南浦、安東縣行
成興丸　同十日午前九時大阪出帆同日午後一時神戸出帆門司（下關）、釜山、元山、城津、淸津行

淸國行
開城丸　本月四日午前十時大阪出帆同日午後四時神戸出帆門司、大連行
大信丸　同七日正午十二時大阪出帆翌八日午前十時神戸出帆門司、天津行（天津行ハ白河ヲ遡航シ居留地碼頭ニ横付ス）
天草丸　同八日正午十二時大阪出帆翌九日午前十時神戸出帆門司、大連行
嘉義丸　同十一日午前十時大阪出帆同日午後四時神戸出帆宇品、門司、大連行

臺灣行
讃中丸　本月四日正午十二時神戸出帆宇品、門司、長崎、基隆、澎湖島、安平、打狗行
福岡丸　同七日正午十二時横濱出帆同十二日午前八時神戸出帆、門司、基隆、安平、打狗行
さくら丸　毎月一日、十一日、二十一日午後二時神戸出帆門司、基隆行（但シ本月ニ限リ一日神戸發ヲ二日ニ延期）
臺南丸　毎月八日、二十三日正午十二時神戸出帆門司、基隆行
蘇州丸　毎月十五日、三十日午前六時神戸出帆門司、基隆行（船客ヲ搭載セス）
大義丸　毎月十五日、三十日午前六時神戸出帆門司、基隆行

浦潮斯德行
鳳山丸　本月七日午後五時敦賀出帆同九日浦潮斯德著土曜日午後二時浦潮斯德出發歐洲行急行列車ニ連絡ス